

令和 6 年度

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

目 次

はじめに	(大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山倉 健嗣)	1
------	--------------------------------------	---

I 大学FD活動状況

1	全学FD活動	
(1)	授業担当者懇談会実施報告	3
(2)	授業改善のためのアンケート実施概要	4
(3)	授業改善のためのアンケート集計結果	9
2	各学部の令和6年度FD活動の概要報告	
(1)	家政学部	39
(2)	文学部	42
(3)	社会情報学部	44
(4)	人間関係学部	46
(5)	比較文化学部	48
(6)	短期大学部	50
3	人間文化研究科の令和6年度FD活動	52

II 全学FD講演会・研修会

1	講演会・研修会の内容及びアンケート結果	
(1)	学士課程教育のカリキュラムマネジメント	74
(2)	学生参画による授業改善およびカリキュラム改善	87
	～学生参画で得られる効果～	

参考資料

1	大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	103
2	令和6年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿	105

はじめに

令和6年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和6年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和6年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和6年度の授業は新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げられたことにより、原則対面で授業が行われました。

学生の授業評価は昨年同様、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。回収率を向上するという目標を立て、今年度も昨年同様、Webで授業評価を実施しました。教員・教育支援センターの度重なる督促などの努力を行ったのですが、今年度も40%を切る結果となりました。回収率向上は今後の重要課題の一つであり、令和7年度は向上のための新たな施策を講じる予定です。令和6年度の授業評価も昨年度のアンケート項目を継続し、経年変化がわかるようにしています。全体としての学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部・学科・専攻ごとの違いを知ることができますし、授業時間以外の学修時間は少ないという従来からの課題は残念ながら残っています。

令和6年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会を前期はオンラインにて、後期は久しぶりに対面で開催することができました。前期は7月31日に「学士課程教育のカリキュラムマネジメント」というテーマで行いました。青山学院大学 教授 杉谷祐美子氏に学士課程教育のカリキュラム改革を進めるにあたり、近年の動向や体系的な編成等についてご講演いただきました。講演内容に関する満足度が高く、カリキュラムマネジメントの全体像と実態とを俯瞰し本学における教育を考えるうえで大変参考になった、また、教育目標に関する解説がシラバスを作成する際の参考になった等の感想が寄せられました。後期は12月17日に筑波大学 准教授 田中正弘氏を講師としてお迎えし、「学生参画による授業改善およびカリキュラム改善～学生参画で得られる効果～」というテーマで行いました。第1部では、本学および他大学や諸外国で行われている学生参画を参考に学生参画から得られる効果の講演、第2部ではワークショップを実施し、参加者間で活発な意見交換が行われました。学生の参画・主体性の引き出し方について具体的な説明があり非常に理解しやすかった、また、ワークショップを通じて具体的な取り組みの内容や方向性を共有することができた等の意見が多く寄せられました。

各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。例年と同じく参加した非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆が与えられました。非常勤講師の方に感謝申し上げます。

引き続き、これまでの経験と実績を踏まえ、本学の教育内容・方法の改善を図っていきます。今後ともご協力の程お願いいたします。

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告

①概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて、授業担当の教員(専任及び非常勤)による学生指導に関する各位の所見・抱負など活発な意見交換が行われた。

②実施内容(学科・専攻別懇談会)

千代田キャンパス

家政学部 被服学科	対面:5月11日(土)
家政学部 食物学科	オンライン:5月11日(土)
家政学部 児童学科	対面:5月11日(土)
家政学部 ライフデザイン学科	対面:5月11日(土)
文学部 日本文学科	対面:5月11日(土)
文学部 英語英文学科	対面:5月11日(土)
文学部 コミュニケーション文化学科	オンライン:5月11日(土)
社会情報学部 社会情報学科社会生活情報学専攻	オンライン:5月11日(土)
社会情報学部 社会情報学科環境情報学専攻	オンライン:5月11日(土)
社会情報学部 社会情報学科情報デザイン専攻	オンライン:5月11日(土)
比較文化学部 比較文化学科	対面:5月11日(土)
短期大学部 家政科家政専攻	対面:5月11日(土)
短期大学部 家政科生活総合ビジネス専攻	オンライン:5月14日(火)
短期大学部 家政科食物栄養専攻	対面:5月11日(土)
短期大学部 国文科	対面:5月11日(土)
短期大学部 英文科	オンライン:5月7日(木)
全学共通科目(基礎科目・教養科目)	対面:5月11日(土)
教職課程	対面:5月16日(木)
図書館学課程	対面:5月11日(土)
博物館学芸員課程	オンライン:5月11日(土)

多摩キャンパス

人間関係学部 人間関係学科社会学専攻	オンライン:5月25日(土)
人間関係学部 人間関係学科社会・臨床心理学専攻	オンライン:5月25日(土)
人間関係学部 人間福祉学科	オンライン:5月25日(土)

(2) 授業改善のためのアンケート実施概要

①概要

前・後期において、それぞれ授業改善のためのアンケートを実施した。
実施科目数及び回答学生数は次のとおりである。

実施科目数 前期（学期末）：1,484 科目

後期（学期末）：1,414 科目

回答学生数 前期（学期末）：25,999 名（受講者数 59,689 名 回答率 43.56%）

後期（学期末）：19,394 名（受講者数 54,369 名 回答率 35.67%）

②実施時期

前期（学期末）令和6年7月8日（月）～7月20日（土）

後期（学期末）令和6年12月9日（月）～12月21日（土）

③実施方法

大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」（UNIPA）で実施した。

④調査項目（5～8 ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。

また、集計結果は、UNIPA 上で授業担当者に公開している。

分類：全体、学部別、学生所属別、学年別、授業方法別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別

令和6年度（前期）大妻女子大学「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1.

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2.

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞ ※PPT：PowerPointの略

選択必須

- ☐ 対面
- ☐ オンデマンド型：テキスト（教材）提示
- ☐ オンデマンド型：スライド（PPT）
- ☐ オンデマンド型：音声データとテキスト（PPT／PDF等）
- ☐ オンデマンド型：動画視聴（YouTube等）
- ☐ その他

3.

3. 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑥わからない／判断しづらい／確認していない

4.

4. 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の 明など）をしたと感ずることができましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑥わからない／判断しづらい

5.

5. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞

選択必須

- ☐ 予習復習（アンケートなど）
- ☐ 小テスト
- ☐ レポート提出
- ☐ 中間／期末テスト
- ☐ コースコンテンツ
- ☐ プロジェクト
- ☐ コースニュース
- ☐ 掲示板
- ☐ 個別指導コレクション
- ☐ レスポン
- ☐ その他
- ☐ manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- ☐ 活用していない

6.
6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい／発言の機会がなかった |

7.
7. この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。
※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

選択必須

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ ⑤3時間以上 | ☐ ④2時間以上3時間未満 | ☐ ③1時間以上2時間未満 |
| ☐ ②30分以上1時間未満 | ☐ ①30分未満 | ☐ ①していない |

8.
8. 課題に対する教員からのフィードバック（コメントや学習指導）は効果的でしたか。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい |

9.
9. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい |

10.
10. あなたは授業に満足しましたか。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい |

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

回答

令和6年度（後期）大妻女子大学「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。
無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1.

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。
※授業改善に関連しないことや誹謗中傷にあたるようなことは決して入力しないでください。

2.

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞ ※PPT：PowerPointの略

選択必須

- ☐ 対面
- ☐ オンデマンド型：テキスト（教材）提示
- ☐ オンデマンド型：スライド（PPT）
- ☐ オンデマンド型：音声データとテキスト（PPT／PDF等）
- ☐ オンデマンド型：動画視聴（YouTube等）
- ☐ その他

3.

3. 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ①わからない／判断しづらい／確認していない

4.

4. 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、ループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ①わからない／判断しづらい

5.

5. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞

選択必須

- ☐ 予習復習（アンケートなど）
- ☐ 小テスト
- ☐ レポート提出
- ☐ 中間／期末テスト
- ☐ コースコンテンツ
- ☐ プロジェクト
- ☐ コースニュース
- ☐ 掲示板
- ☐ 個別指導コレクション
- ☐ レスポン
- ☐ その他
- ☐ manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- ☐ 活用していない

6.
6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい／発言の機会がなかった |

7.
7. この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。
※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

選択必須

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ ⑤3時間以上 | ☐ ④2時間以上3時間未満 | ☐ ③1時間以上2時間未満 |
| ☐ ②30分以上1時間未満 | ☐ ①30分未満 | ☐ ①していない |

8.
8. 課題に対する教員からのフィードバック（コメントや学習指導）は効果的でしたか。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい |

9.
9. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい |

10.
10. あなたは授業に満足しましたか。

選択必須

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ ⑤そう思う | ☐ ④ややそう思う | ☐ ③どちらともいえない |
| ☐ ②あまりそう思わない | ☐ ①そう思わない | ☐ ①わからない／判断しづらい |

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

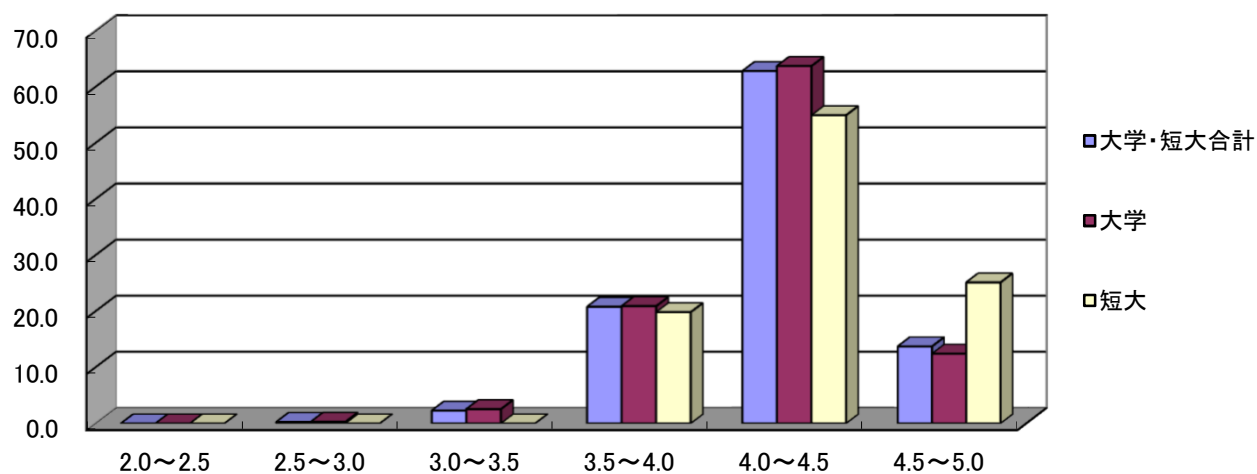
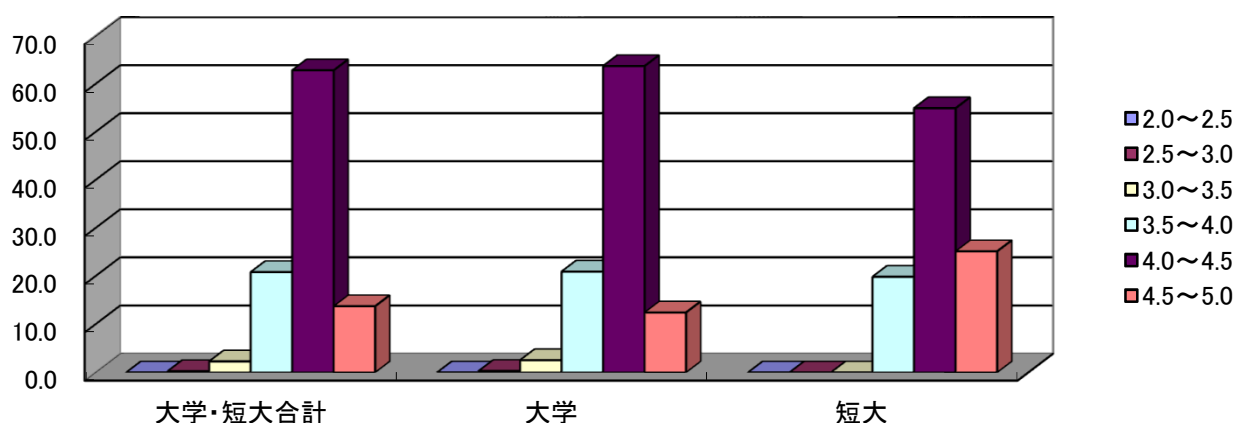
回答

(3) 授業改善のためのアンケート集計結果

2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

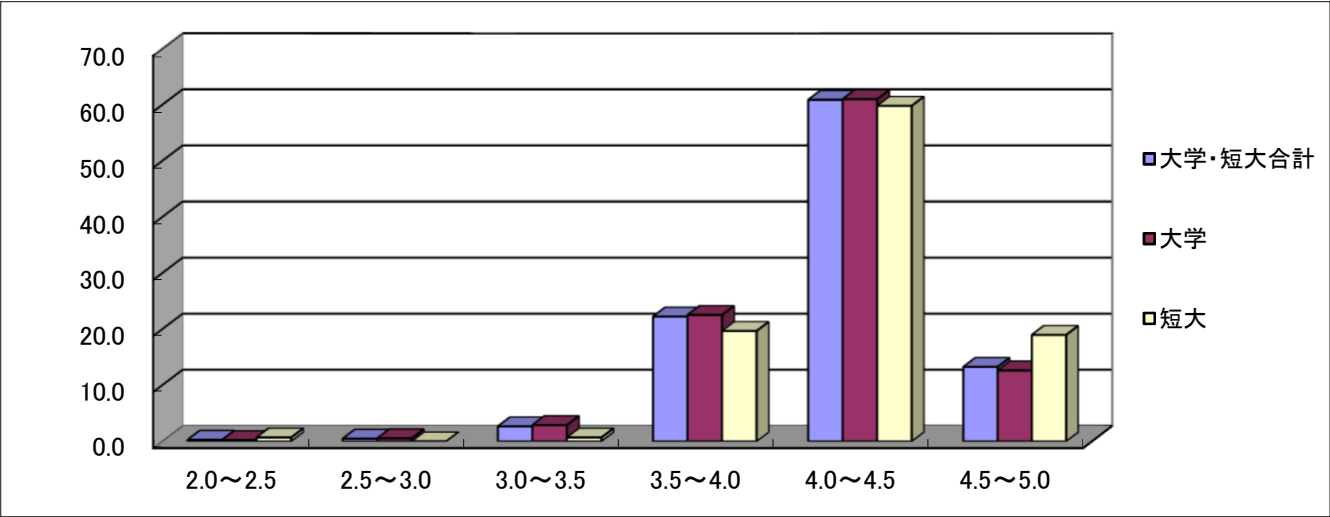
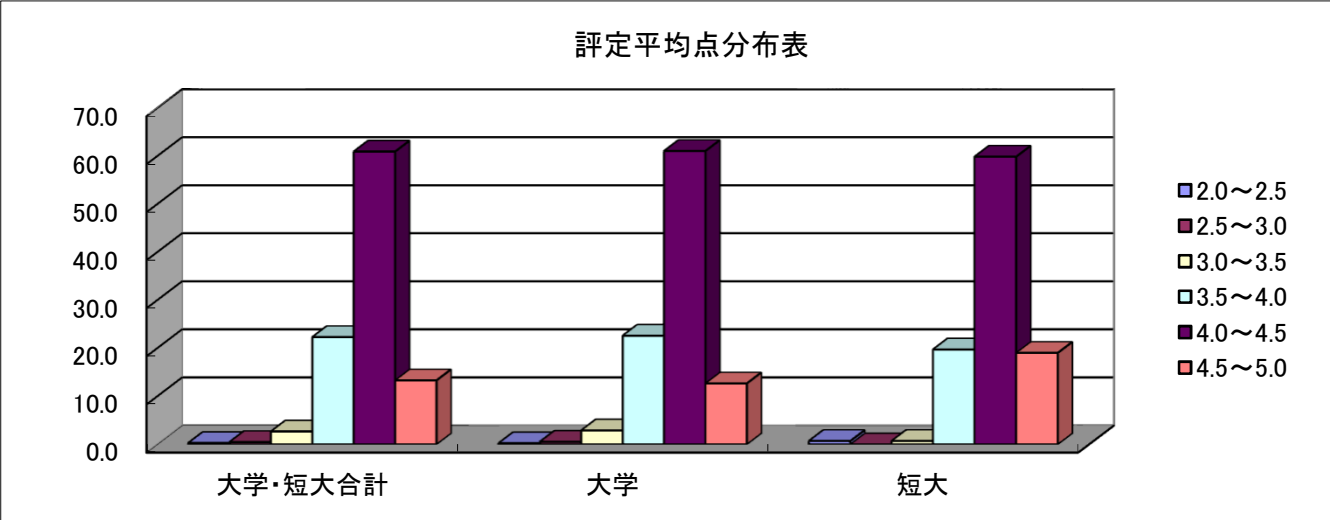
平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	4	0.3	4	0.3	0	0.0
3.0～3.5	34	2.3	34	2.6	0	0.0
3.5～4.0	309	20.8	279	20.9	30	19.9
4.0～4.5	932	62.8	849	63.7	83	55.0
4.5～5.0	204	13.8	166	12.5	38	25.2

評定平均点分布表



2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

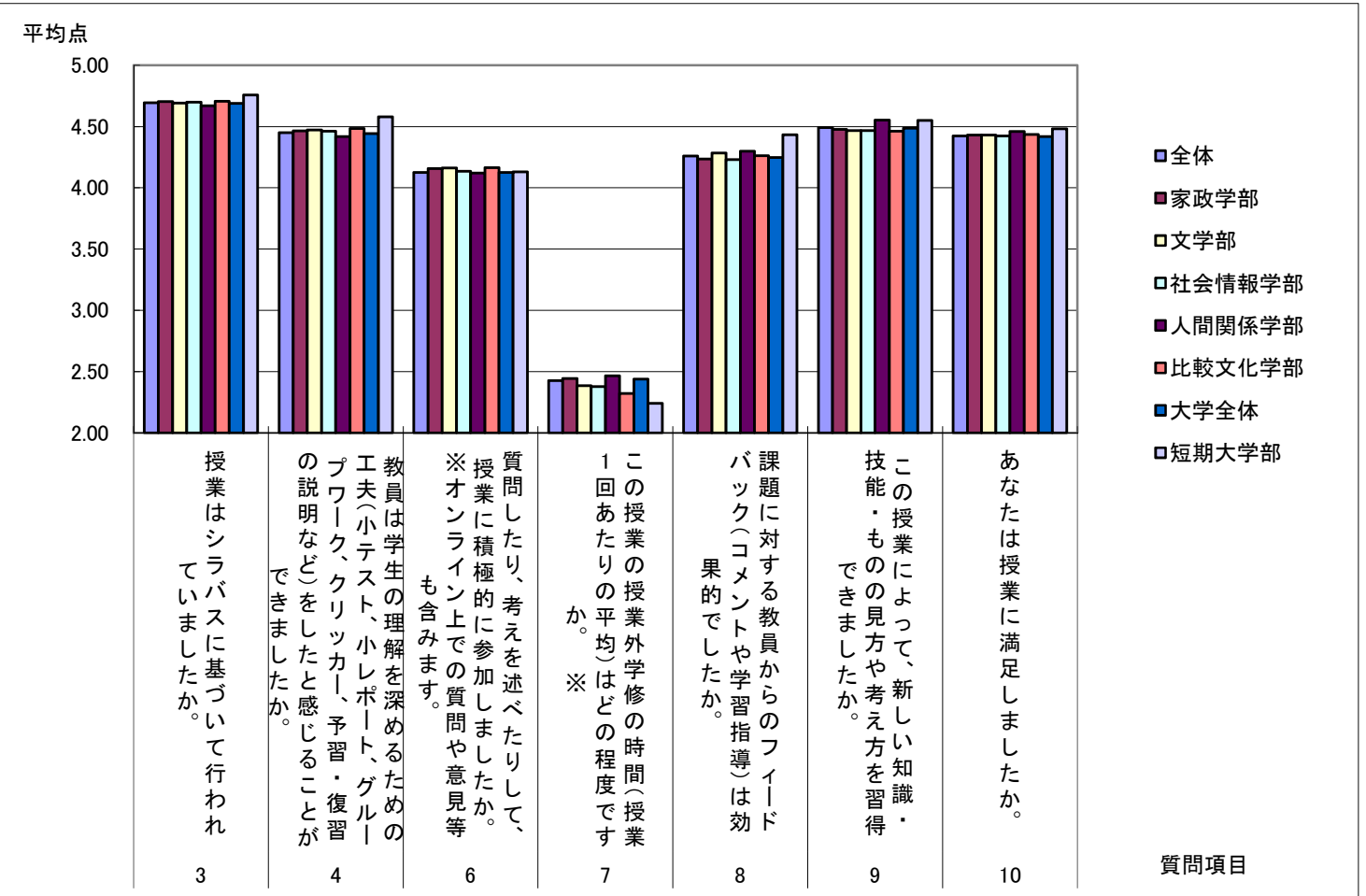
平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	4	0.3	3	0.2	1	0.7
2.5～3.0	7	0.5	7	0.6	0	0.0
3.0～3.5	38	2.7	37	2.9	1	0.7
3.5～4.0	315	22.3	287	22.6	28	19.7
4.0～4.5	861	60.9	776	61.1	85	59.9
4.5～5.0	188	13.3	161	12.7	27	19.0



2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数		全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1,489	1,484	5									
			履修者数	59,689	30,302	24,134	23,864	9,120	20,510	56,669	3,020
			回答者数	25,999	13,237	10,897	10,540	4,181	9,210	24,281	1,718
			回答率(%)	43.56	43.68	45.15	44.17	45.84	44.90	42.85	56.89
				全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。			4.69	4.70	4.69	4.70	4.67	4.71	4.69	4.76
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。			4.45	4.46	4.47	4.46	4.42	4.49	4.44	4.58
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。			4.13	4.16	4.16	4.14	4.12	4.16	4.13	4.13
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※			2.43	2.44	2.38	2.38	2.46	2.32	2.44	2.24
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。			4.26	4.23	4.28	4.23	4.30	4.26	4.25	4.43
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。			4.49	4.48	4.47	4.47	4.55	4.46	4.49	4.55
10	あなたは授業に満足しましたか。			4.42	4.43	4.43	4.42	4.46	4.44	4.42	4.48

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

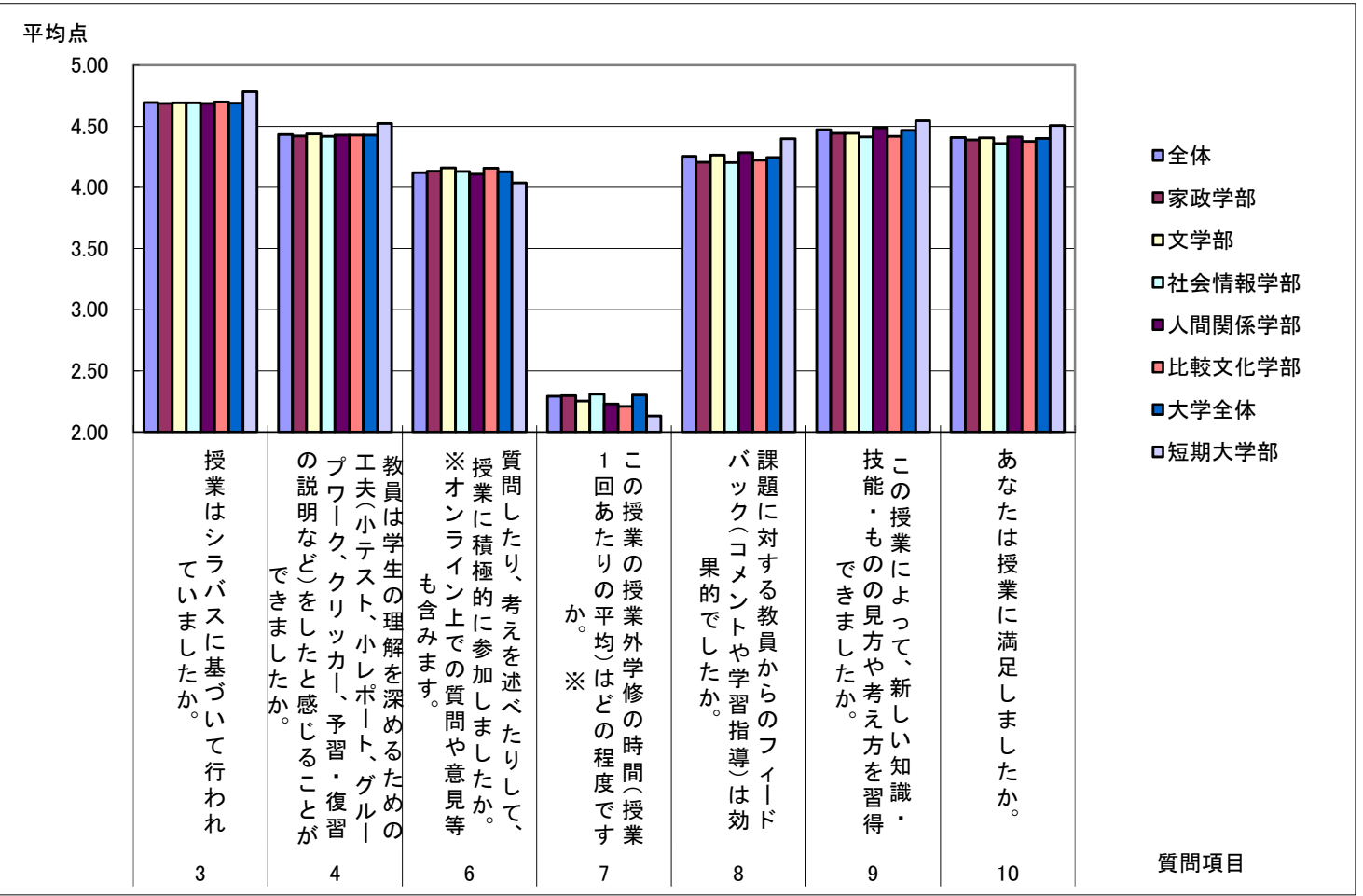


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数		全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1,433	1,414	19	履修者数	54,369	28,118	22,655	21,709	7,940	19,475	51,765	2,604
			回答者数	19,394	10,147	8,677	8,143	2,721	7,489	18,178	1,216
			回答率(%)	35.67	36.09	38.30	37.51	34.27	38.45	35.12	46.70

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.69	4.69	4.69	4.69	4.70	4.69	4.78
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.43	4.42	4.44	4.42	4.43	4.43	4.43	4.52
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.12	4.13	4.16	4.13	4.11	4.16	4.13	4.04
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.29	2.30	2.25	2.31	2.23	2.21	2.30	2.13
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.26	4.21	4.27	4.20	4.28	4.22	4.25	4.40
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.44	4.44	4.41	4.49	4.42	4.47	4.55
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.41	4.39	4.41	4.36	4.41	4.38	4.40	4.51

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

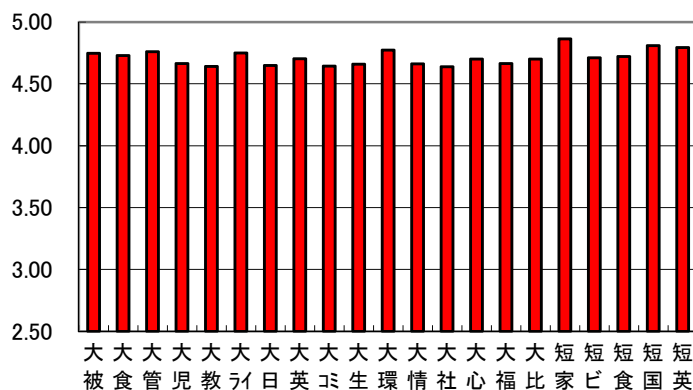
		回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
			1,734	1,245	713	1,583	1,074	1,639	2,006	1,397	1,938	1,469	1,039
			大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英	
			1,958	1,509	1,584	1,088	2,304	316	573	559	43	34	
			大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。		4.75	4.73	4.76	4.66	4.64	4.75	4.65	4.70	4.64	4.66	4.77
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。		4.44	4.46	4.51	4.43	4.43	4.47	4.43	4.48	4.44	4.40	4.54
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。		4.12	4.11	4.04	4.12	4.27	4.07	4.03	4.29	4.15	4.03	4.24
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※		2.63	2.52	2.67	2.32	2.59	2.49	2.45	2.58	2.41	2.21	2.38
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。		4.18	4.25	4.29	4.14	4.25	4.24	4.34	4.30	4.26	4.11	4.32
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。		4.51	4.51	4.59	4.44	4.48	4.52	4.53	4.47	4.40	4.41	4.50
10	あなたは授業に満足しましたか。		4.44	4.46	4.44	4.38	4.43	4.47	4.45	4.40	4.34	4.34	4.48

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

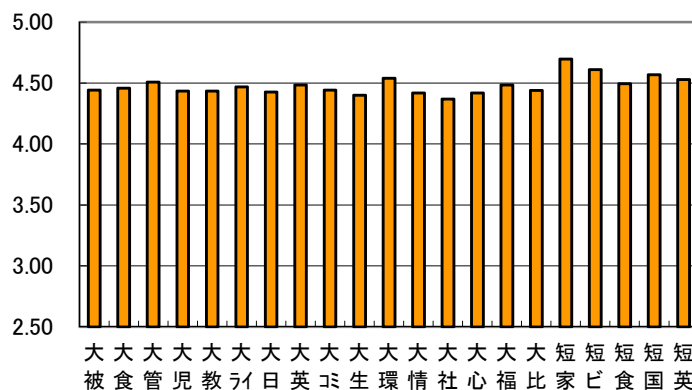
			大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。		4.66	4.64	4.70	4.66	4.70	4.86	4.71	4.72	4.81	4.79
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。		4.42	4.37	4.42	4.48	4.44	4.70	4.61	4.49	4.57	4.53
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。		4.10	4.08	4.09	4.21	4.14	4.37	4.08	4.18	3.84	4.39
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※		2.39	2.36	2.68	2.26	2.23	2.26	1.98	2.40	2.48	2.24
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。		4.21	4.28	4.25	4.39	4.23	4.62	4.46	4.34	4.42	4.90
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。		4.48	4.54	4.55	4.58	4.42	4.74	4.56	4.47	4.47	4.88
10	あなたは授業に満足しましたか。		4.43	4.46	4.44	4.49	4.34	4.68	4.58	4.32	4.23	4.64

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

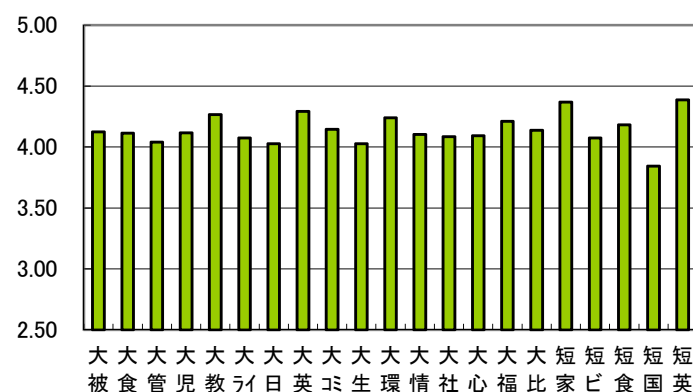
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



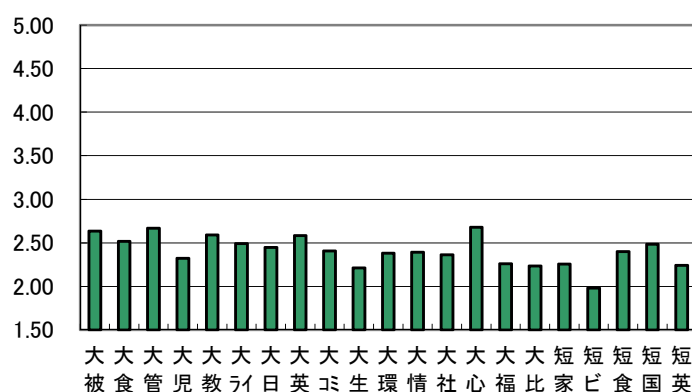
4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



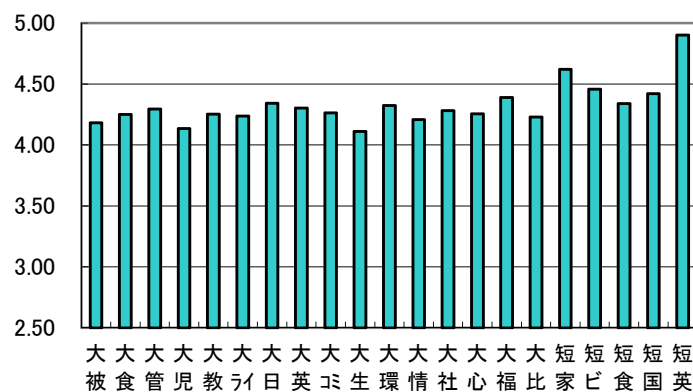
6 授業に積極的に参加したか



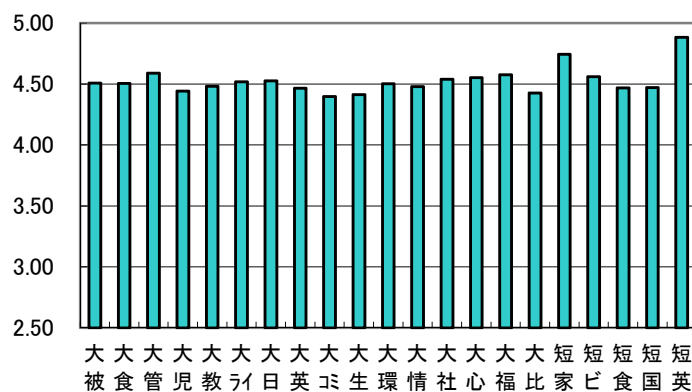
7 授業外学修時間(授業1回あたりの平均)



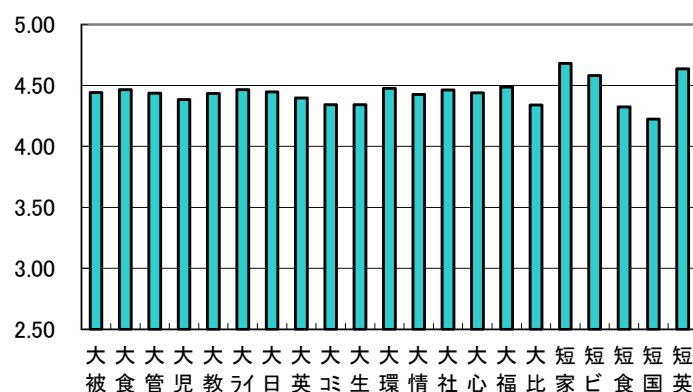
8 教員からのフィードバックは効果的だったか



9 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか



10 授業に満足したか



2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

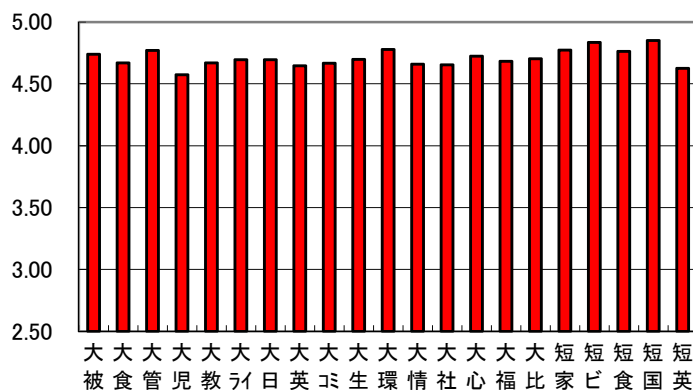
		回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
			1,496	943	527	964	627	1,217	1,669	1,152	1,305	1,074	966
			大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英	
			1,539	913	840	970	1,974	230	319	419	27	16	
			大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。		4.74	4.67	4.77	4.57	4.67	4.70	4.70	4.65	4.67	4.70	4.78
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。		4.45	4.34	4.50	4.30	4.44	4.42	4.48	4.40	4.44	4.46	4.55
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。		4.09	4.00	4.08	4.08	4.23	4.07	4.06	4.24	4.15	4.16	4.30
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※		2.30	2.66	2.53	2.09	2.28	2.33	2.31	2.49	2.21	2.18	2.22
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。		4.23	4.13	4.18	4.16	4.24	4.19	4.40	4.27	4.28	4.21	4.34
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。		4.54	4.43	4.59	4.48	4.46	4.44	4.59	4.40	4.39	4.41	4.49
10	あなたは授業に満足しましたか。		4.48	4.37	4.48	4.42	4.40	4.37	4.56	4.32	4.32	4.35	4.48

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

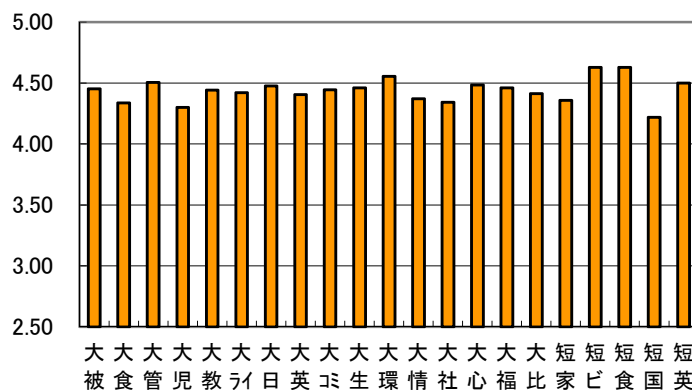
			大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。		4.66	4.65	4.72	4.68	4.70	4.77	4.83	4.76	4.85	4.63
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。		4.37	4.34	4.48	4.46	4.41	4.36	4.63	4.63	4.22	4.50
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。		4.10	4.05	4.11	4.16	4.16	3.76	4.03	4.23	4.04	4.33
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※		2.48	2.05	2.58	2.08	2.19	2.35	1.91	2.16	2.92	2.50
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。		4.15	4.24	4.28	4.33	4.23	4.27	4.51	4.43	4.27	4.75
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。		4.37	4.43	4.55	4.49	4.45	4.57	4.67	4.51	4.04	4.69
10	あなたは授業に満足しましたか。		4.29	4.35	4.48	4.42	4.37	4.52	4.63	4.49	4.24	4.69

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

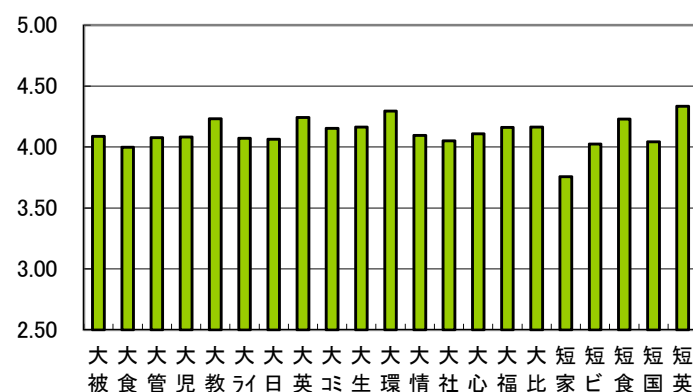
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



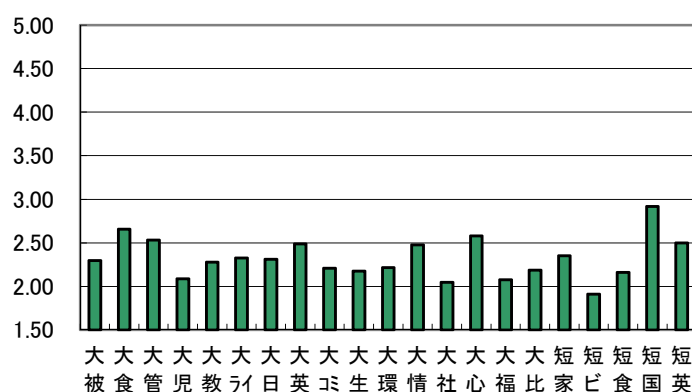
4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



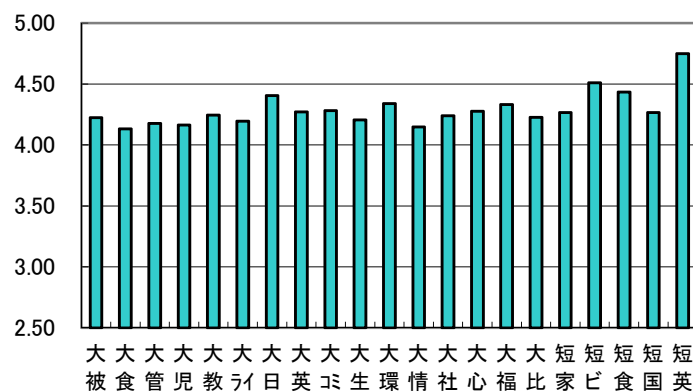
6 授業に積極的に参加したか



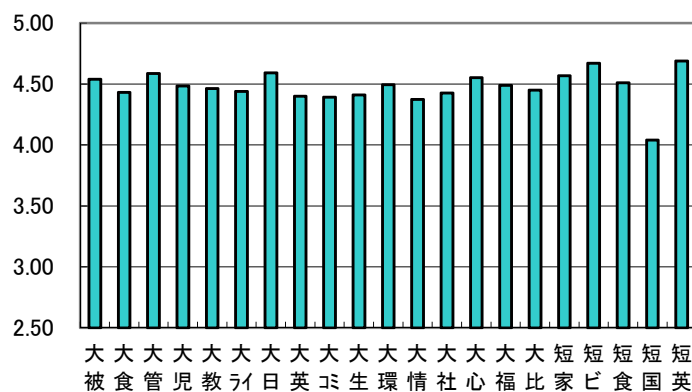
7 授業外学修時間(授業1回あたりの平均)



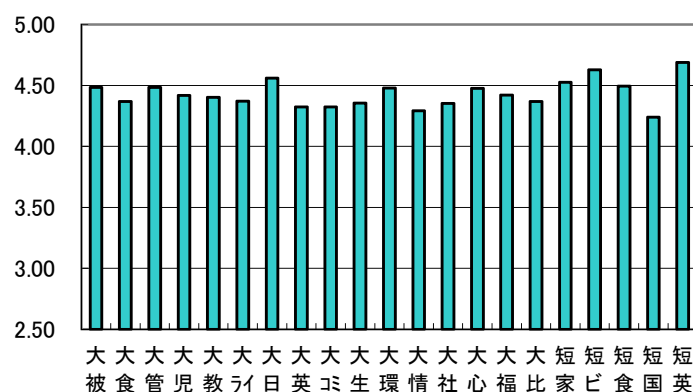
8 教員からのフィードバックは効果的だったか



9 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか



10 授業に満足したか

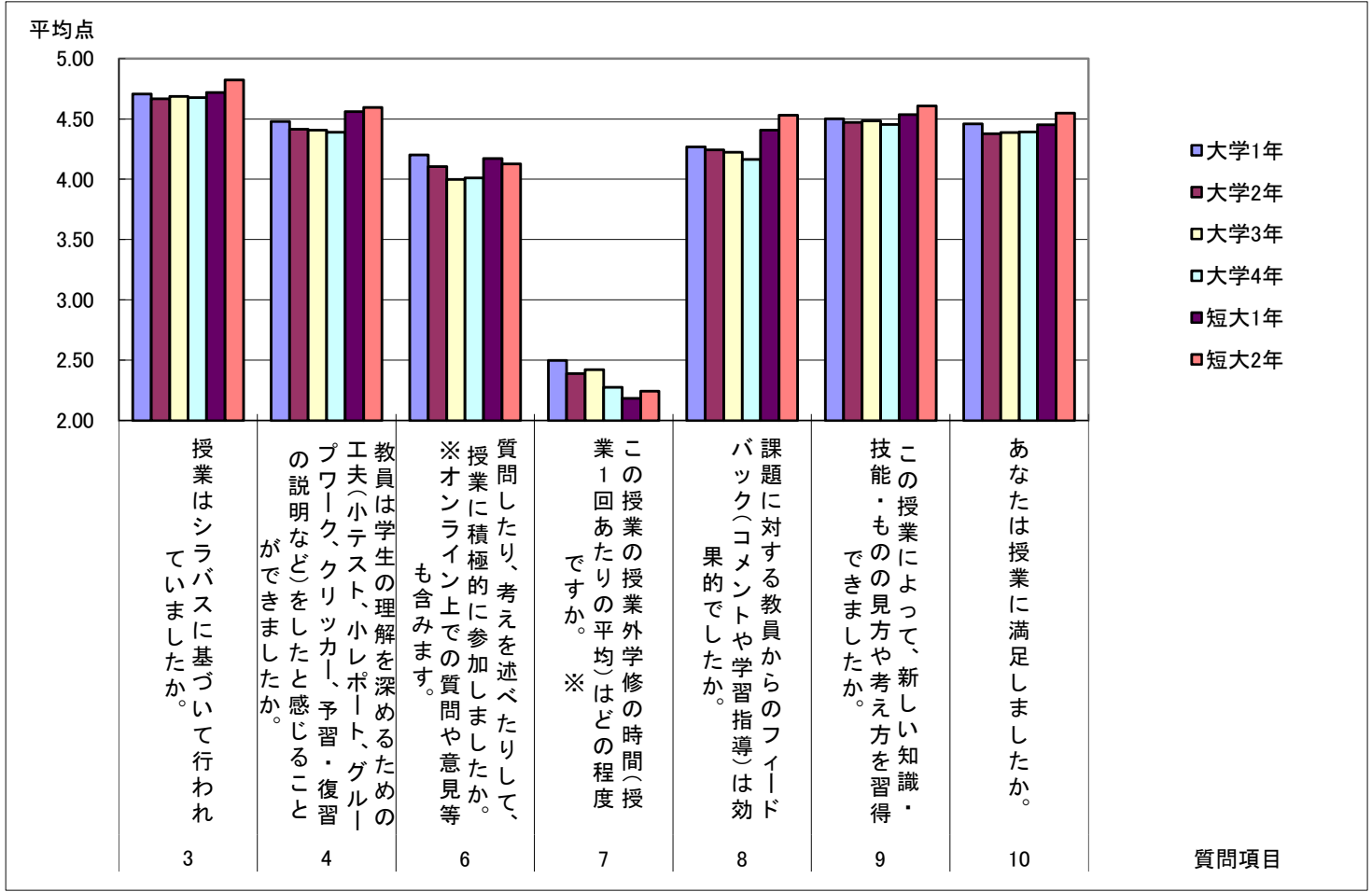


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	11,156	7,524	4,147	1,454	1,006	590

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.67	4.69	4.68	4.72	4.82
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.48	4.41	4.41	4.39	4.56	4.59
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.20	4.11	4.00	4.01	4.17	4.13
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.50	2.39	2.42	2.28	2.18	2.24
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.27	4.24	4.22	4.16	4.41	4.53
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.47	4.48	4.45	4.54	4.61
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.46	4.38	4.39	4.39	4.45	4.55

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

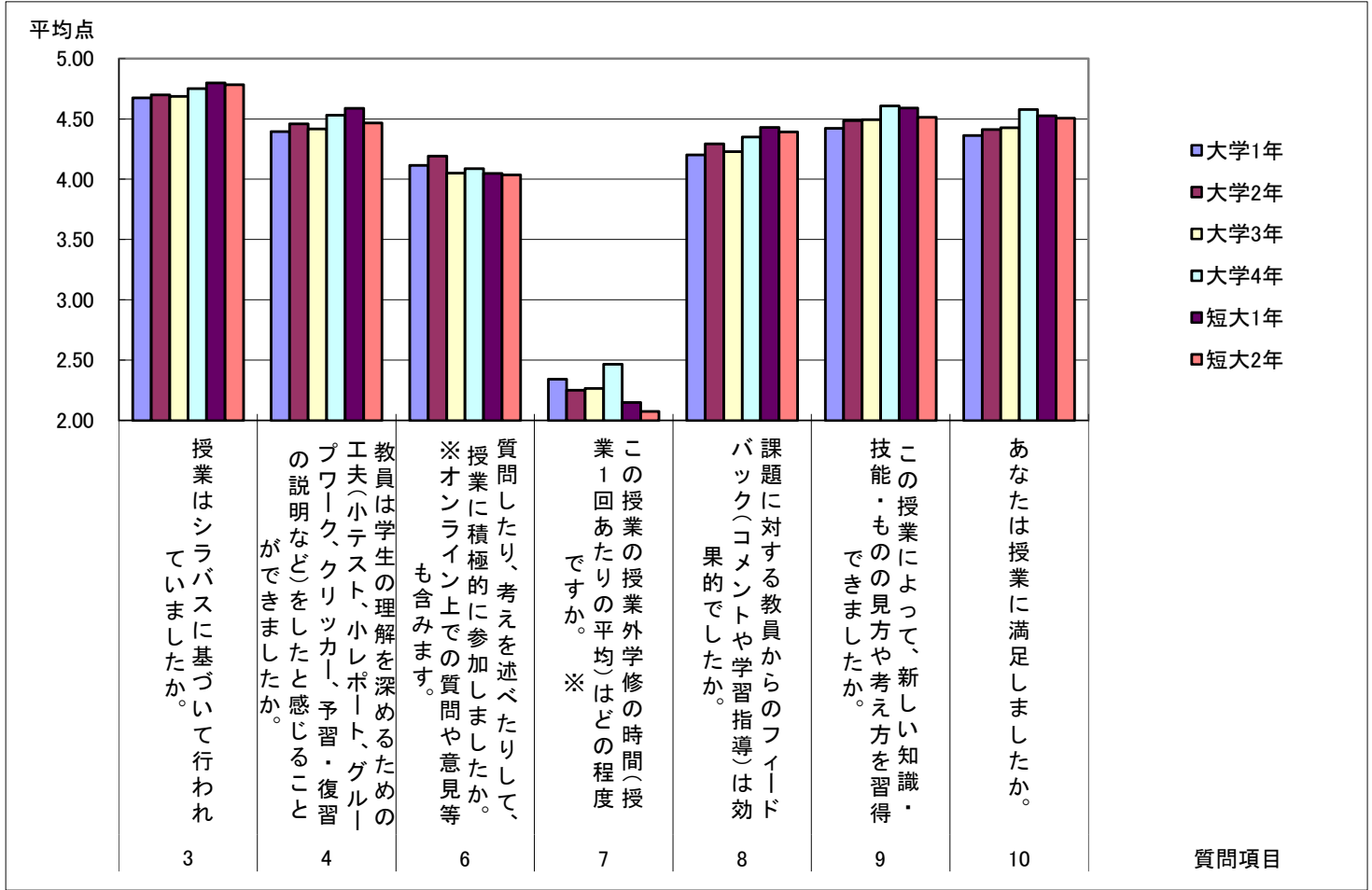


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	7,532	6,217	3,643	786	575	524

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.67	4.70	4.69	4.75	4.80	4.78
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.40	4.46	4.42	4.53	4.59	4.47
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.19	4.05	4.09	4.05	4.04
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.34	2.25	2.27	2.47	2.15	2.08
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.20	4.29	4.23	4.35	4.43	4.39
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.42	4.49	4.49	4.61	4.59	4.51
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.36	4.41	4.43	4.58	4.53	4.51

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

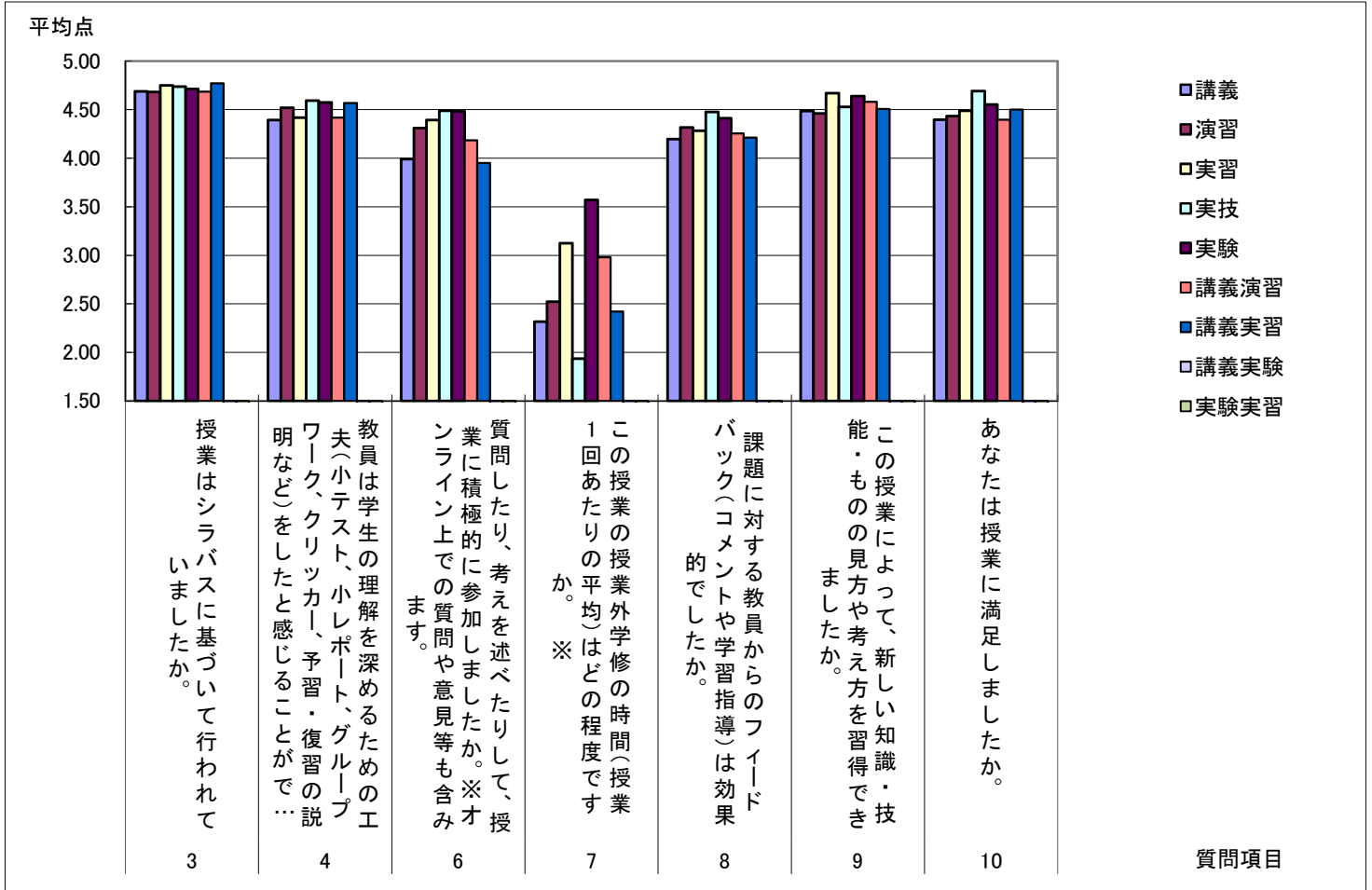


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	36,205	15,452	1,087	861	845	1,713	506	-	-
回答者数	14,483	7,636	452	427	330	749	204	-	-
回答率(%)	40.00	49.42	41.58	49.59	39.05	43.72	40.32	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.68	4.75	4.74	4.71	4.69	4.77	-	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.39	4.52	4.42	4.60	4.58	4.42	4.57	-	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.99	4.31	4.39	4.49	4.48	4.18	3.95	-	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.32	2.52	3.13	1.94	3.57	2.98	2.42	-	-
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.20	4.32	4.28	4.48	4.41	4.26	4.21	-	-
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.49	4.46	4.67	4.53	4.64	4.58	4.51	-	-
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.40	4.43	4.49	4.69	4.55	4.40	4.50	-	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

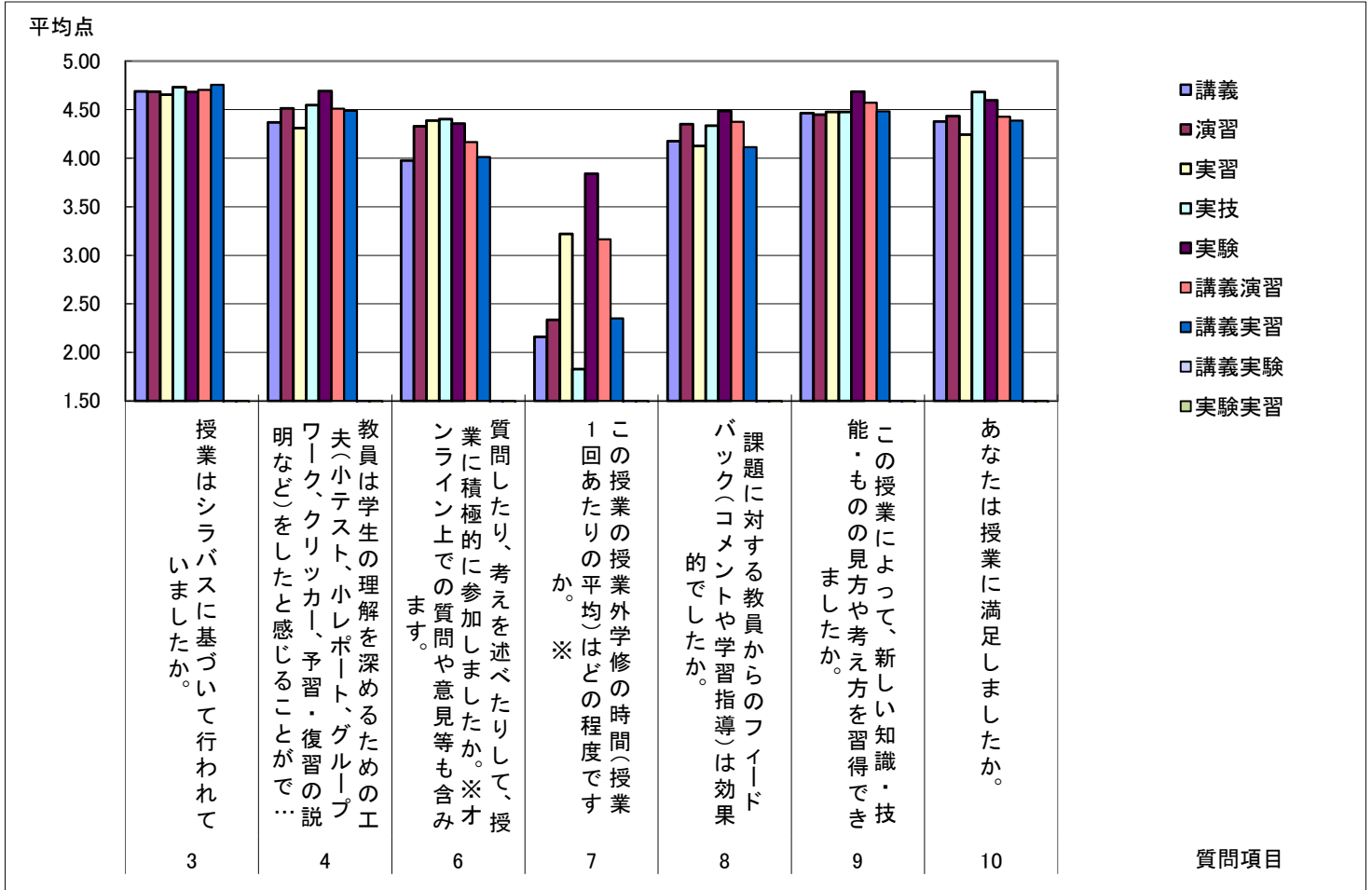


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	32,947	14,228	1,495	630	562	1,467	436	-	-
回答者数	10,559	5,969	470	274	211	524	171	-	-
回答率(%)	32.05	41.95	31.44	43.49	37.54	35.72	39.22	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.69	4.65	4.73	4.68	4.70	4.76	-	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.37	4.51	4.31	4.55	4.69	4.51	4.49	-	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.97	4.33	4.39	4.40	4.36	4.17	4.01	-	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.16	2.33	3.22	1.83	3.84	3.17	2.35	-	-
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.18	4.35	4.13	4.34	4.49	4.37	4.11	-	-
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.45	4.48	4.48	4.68	4.57	4.48	-	-
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.43	4.24	4.68	4.60	4.43	4.39	-	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

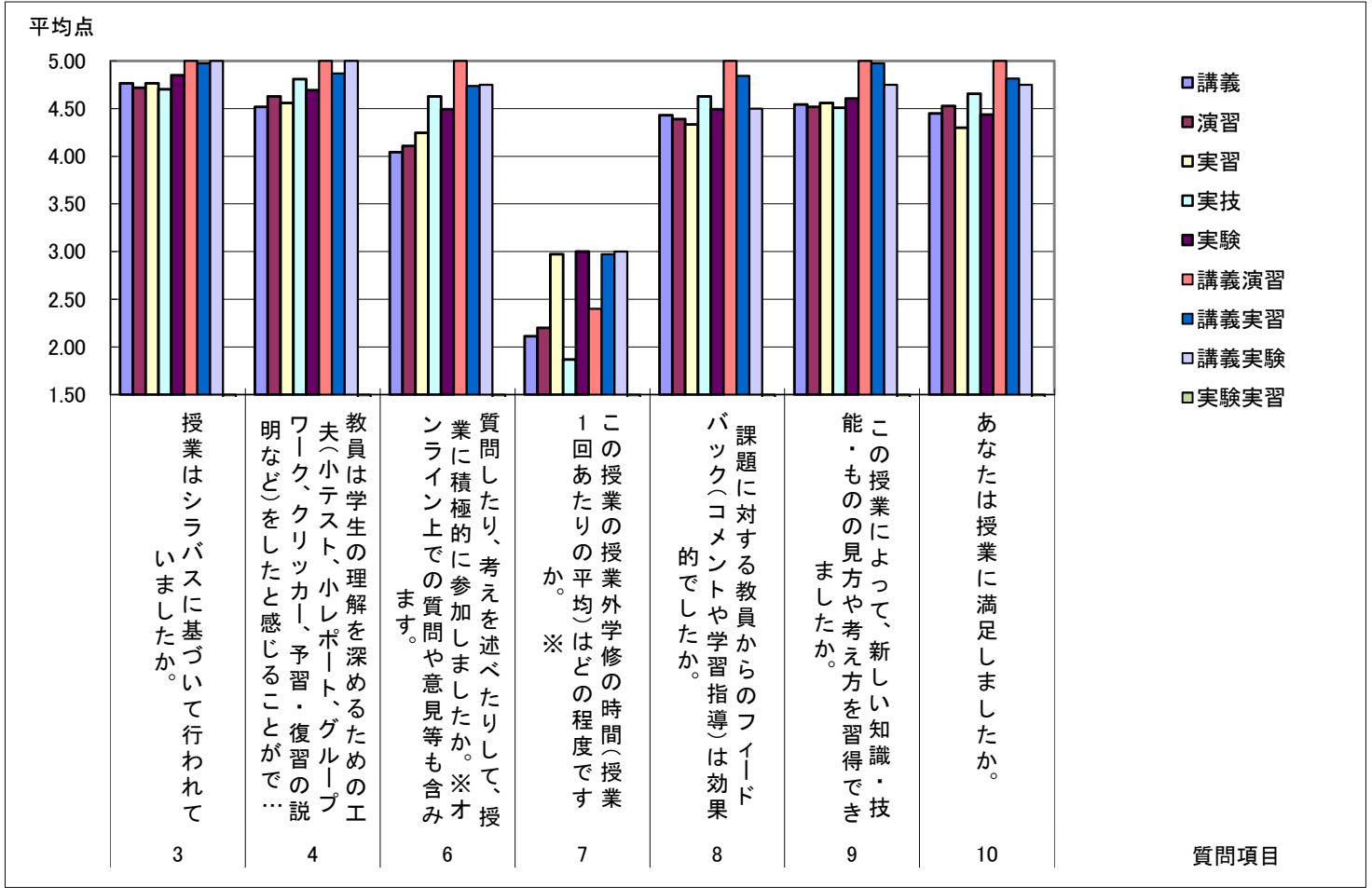


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	1,626	899	164	95	172	11	48	5	-
回答者数	946	527	77	57	64	5	38	4	-
回答率(%)	58.18	58.62	46.95	60.00	37.21	45.45	79.17	80.00	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.76	4.72	4.77	4.70	4.85	5.00	4.97	5.00	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.52	4.63	4.56	4.81	4.69	5.00	4.87	5.00	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.04	4.11	4.25	4.63	4.49	5.00	4.74	4.75	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.11	2.20	2.97	1.87	3.00	2.40	2.97	3.00	-
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.43	4.39	4.33	4.63	4.49	5.00	4.84	4.50	-
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.54	4.52	4.56	4.51	4.61	5.00	4.97	4.75	-
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.45	4.53	4.30	4.65	4.44	5.00	4.82	4.75	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

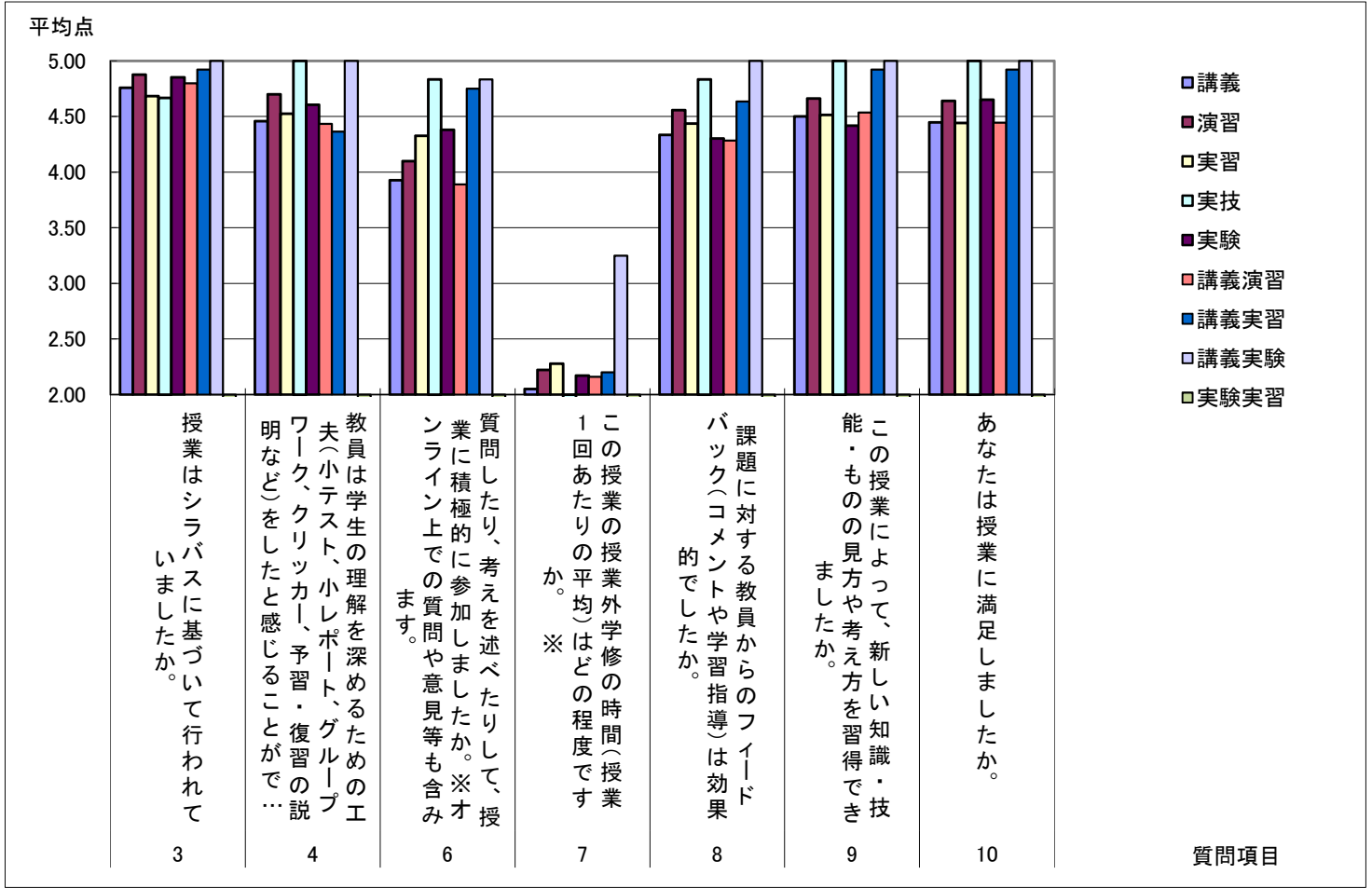


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	1,510	601	225	19	86	132	25	6	－
回答者数	730	259	105	6	43	54	13	6	－
回答率(%)	48.34	43.09	46.67	31.58	50.00	40.91	52.00	100.00	－

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.76	4.88	4.68	4.67	4.85	4.80	4.92	5.00	－
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.46	4.70	4.52	5.00	4.60	4.43	4.36	5.00	－
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.93	4.10	4.33	4.83	4.38	3.89	4.75	4.83	－
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.05	2.22	2.28	－	2.17	2.16	2.20	3.25	－
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.34	4.56	4.44	4.83	4.30	4.28	4.64	5.00	－
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.66	4.51	5.00	4.42	4.54	4.92	5.00	－
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.45	4.64	4.44	5.00	4.65	4.44	4.92	5.00	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

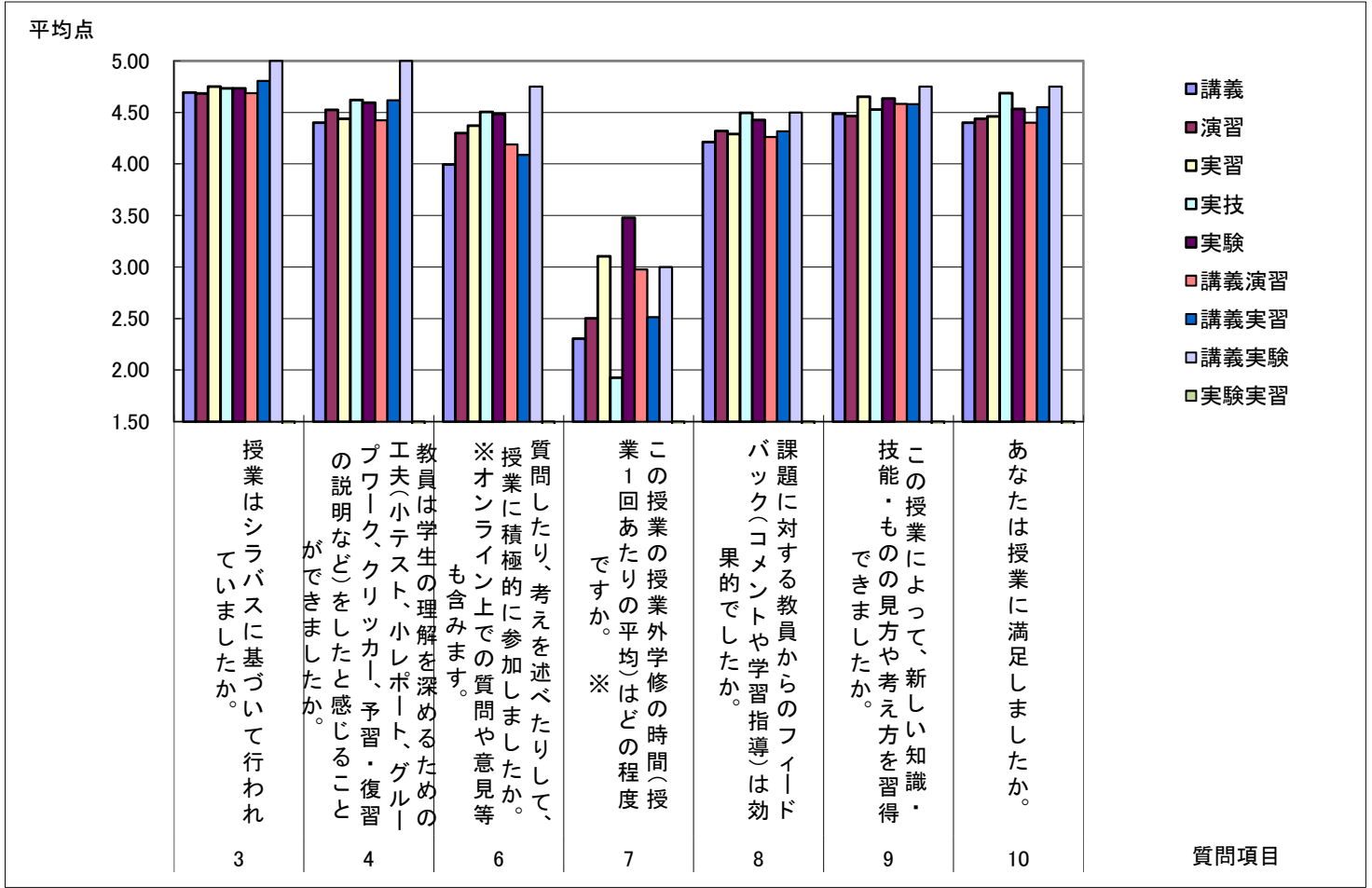


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	37,831	16,351	1,251	956	1,017	1,724	554	5	-
回答者数	15,429	8,163	529	484	394	754	242	4	-
回答率(%)	40.78	49.92	42.29	50.63	38.74	43.74	43.68	80.00	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.68	4.75	4.73	4.73	4.69	4.81	5.00	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.40	4.53	4.44	4.62	4.60	4.42	4.62	5.00	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.00	4.30	4.37	4.50	4.48	4.19	4.09	4.75	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.31	2.50	3.10	1.93	3.48	2.98	2.51	3.00	-
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.21	4.32	4.29	4.50	4.43	4.26	4.32	4.50	-
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.49	4.46	4.65	4.53	4.63	4.58	4.58	4.75	-
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.40	4.44	4.46	4.69	4.53	4.40	4.55	4.75	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

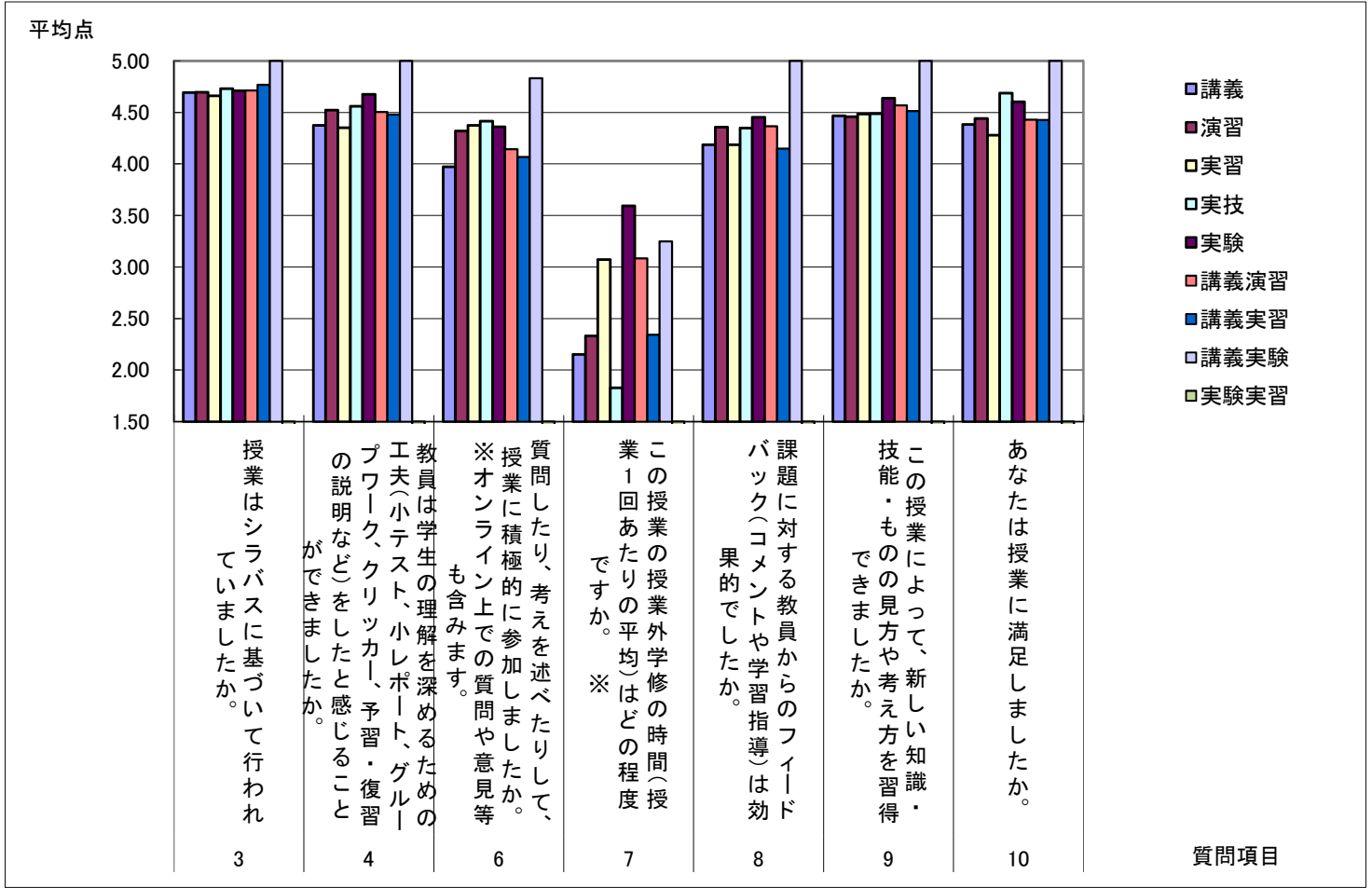


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	34,457	14,829	1,720	649	648	1,599	461	6	－
回答者数	11,289	6,228	575	280	254	578	184	6	－
回答率(%)	32.76	42.00	33.43	43.14	39.20	36.15	39.91	100.00	－

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.69	4.66	4.73	4.71	4.71	4.77	5.00	－
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.37	4.52	4.35	4.56	4.68	4.50	4.48	5.00	－
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.97	4.32	4.38	4.41	4.36	4.14	4.07	4.83	－
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.15	2.33	3.07	1.83	3.59	3.08	2.34	3.25	－
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.19	4.36	4.19	4.35	4.45	4.37	4.15	5.00	－
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.46	4.48	4.49	4.64	4.57	4.51	5.00	－
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.44	4.28	4.69	4.60	4.43	4.43	5.00	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

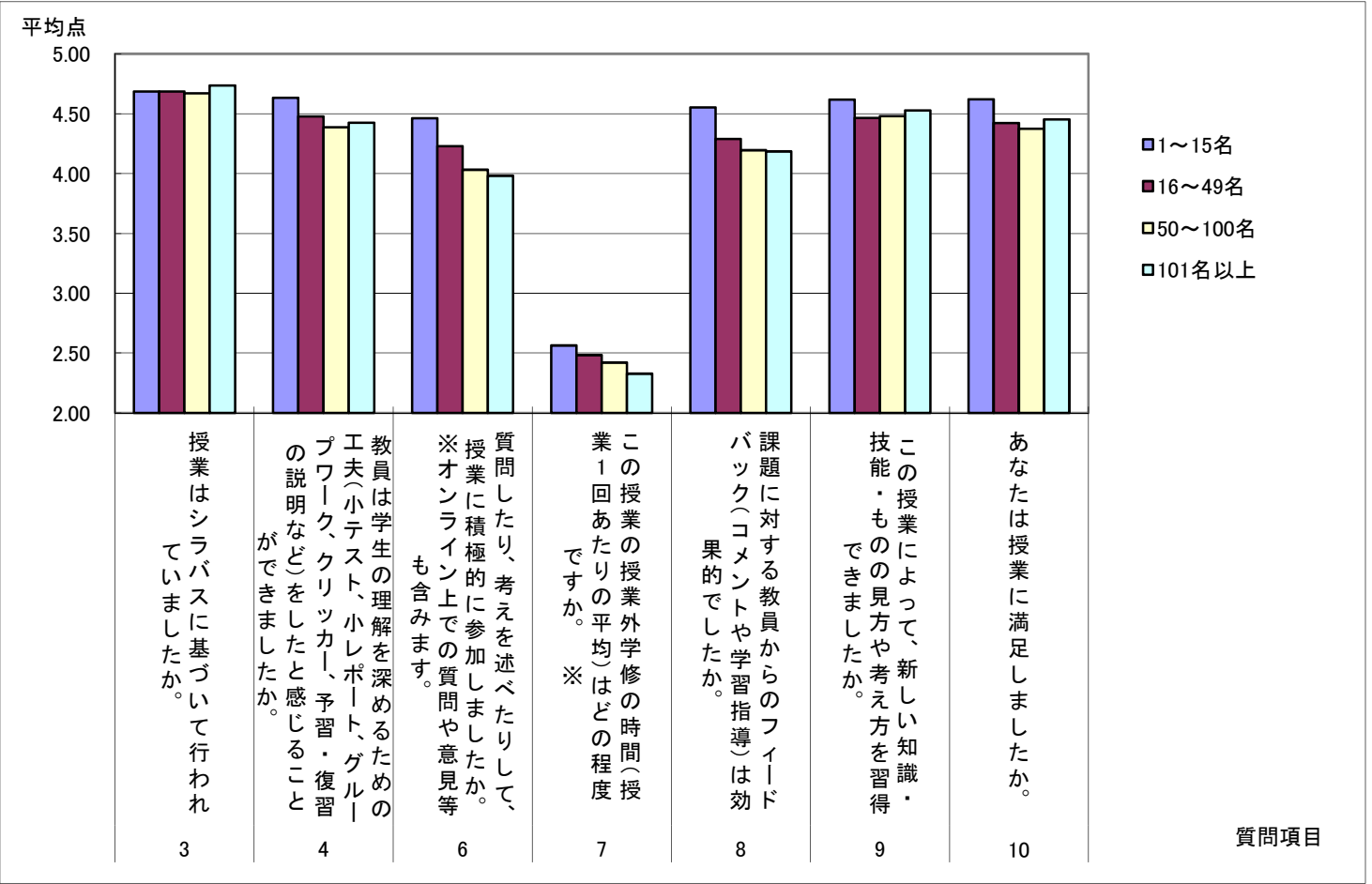


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,070	22,319	21,438	10,842
回答者数	895	10,316	8,818	4,252
回答率(%)	43.24	46.22	41.13	39.22

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.69	4.67	4.74
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.63	4.48	4.39	4.42
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.46	4.23	4.03	3.98
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.56	2.48	2.42	2.33
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.55	4.29	4.19	4.18
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.62	4.46	4.48	4.53
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.62	4.42	4.38	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

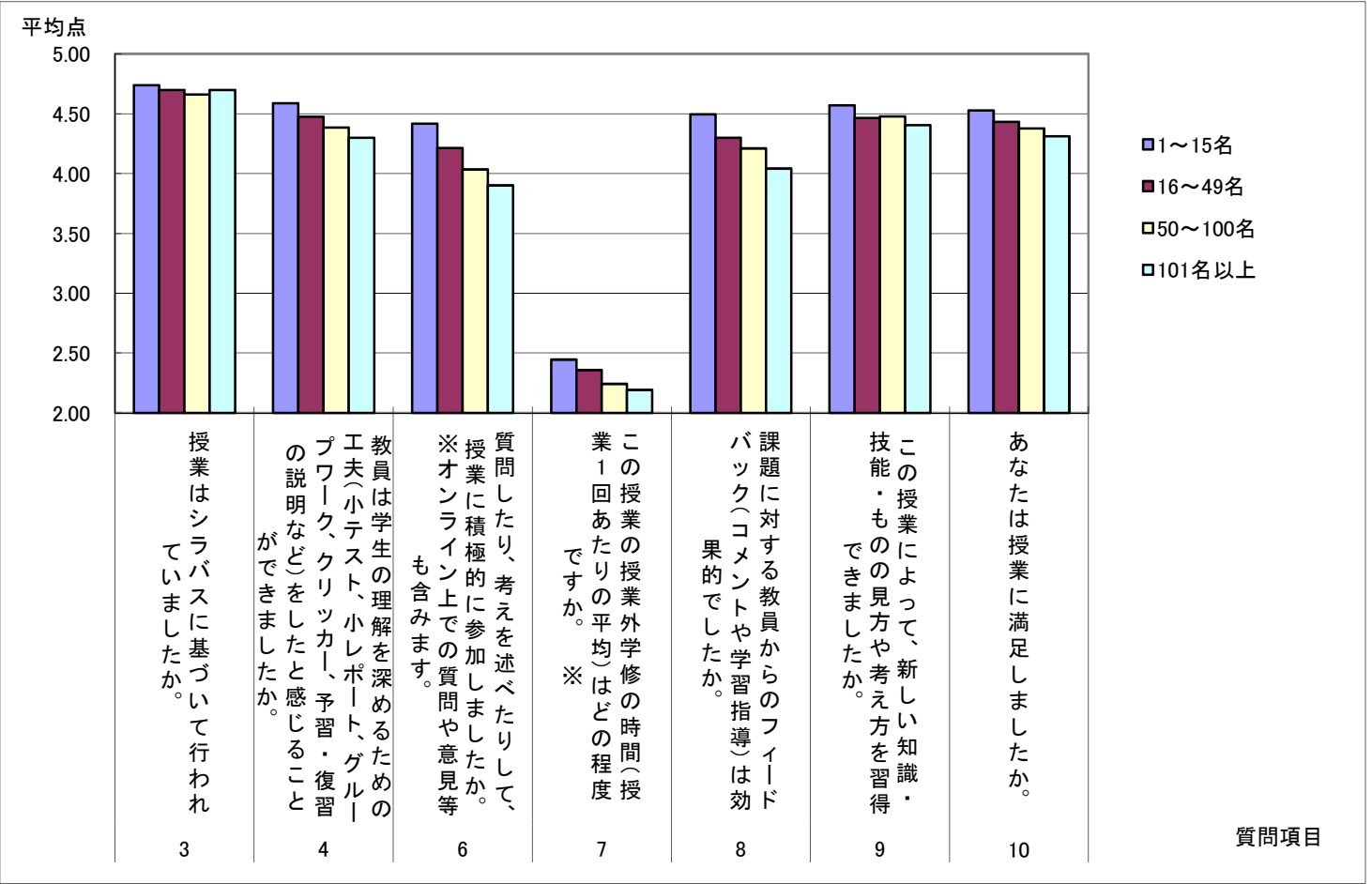


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,352	21,940	18,616	8,857
回答者数	891	8,805	5,849	2,633
回答率(%)	37.88	40.13	31.42	29.73

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.74	4.70	4.66	4.70
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.59	4.48	4.39	4.30
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.42	4.21	4.03	3.90
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.45	2.36	2.24	2.19
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.49	4.30	4.21	4.04
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.57	4.47	4.48	4.41
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.53	4.43	4.38	4.31

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

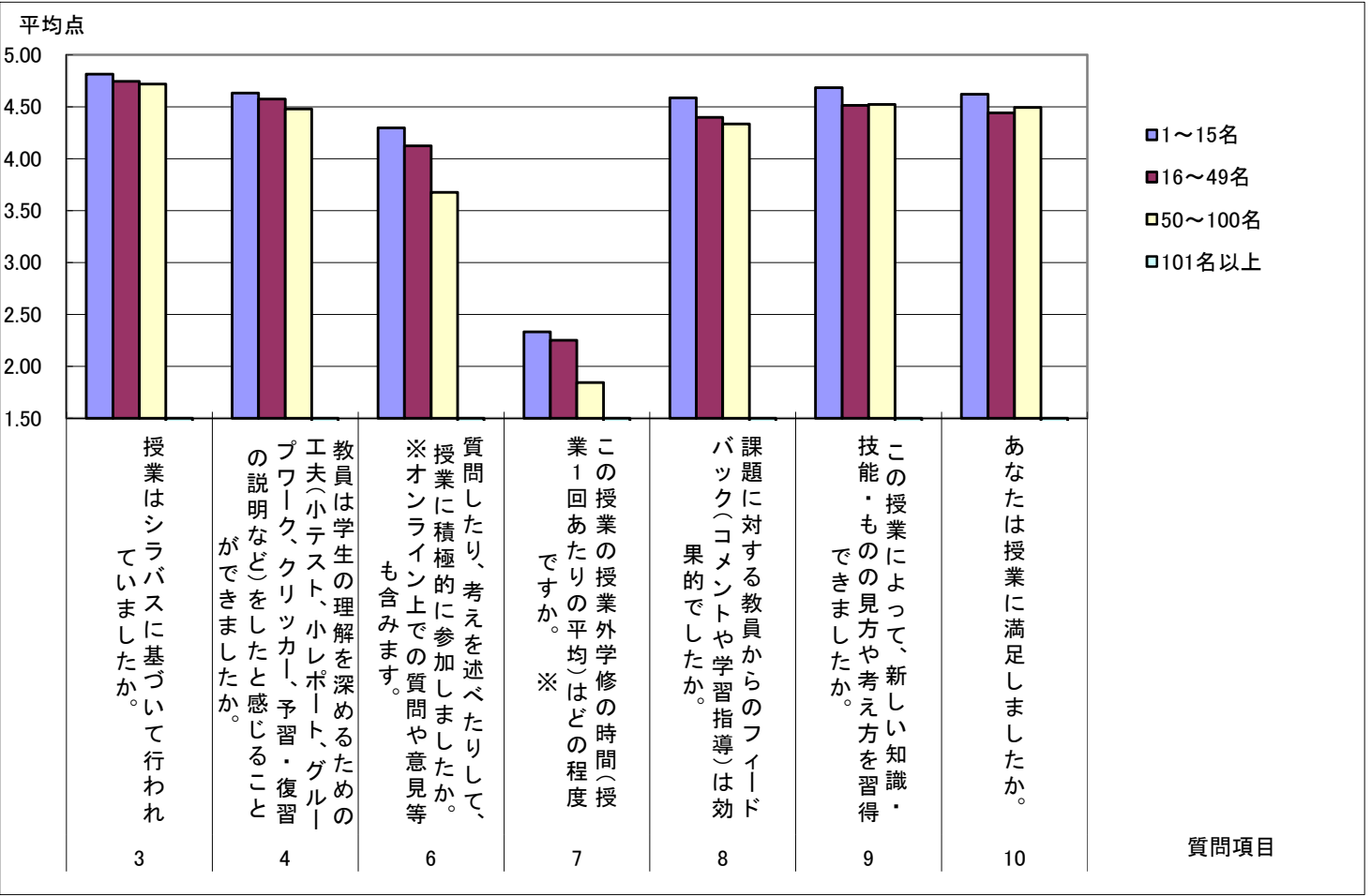


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	632	2,216	172	－
回答者数	369	1,224	125	－
回答率(%)	58.39	55.23	72.67	－

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.81	4.75	4.72	－
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.63	4.57	4.48	－
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.30	4.12	3.68	－
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.33	2.25	1.84	－
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的 でしたか。	4.59	4.40	4.33	－
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得でき ましたか。	4.68	4.51	4.52	－
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.62	4.44	4.49	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

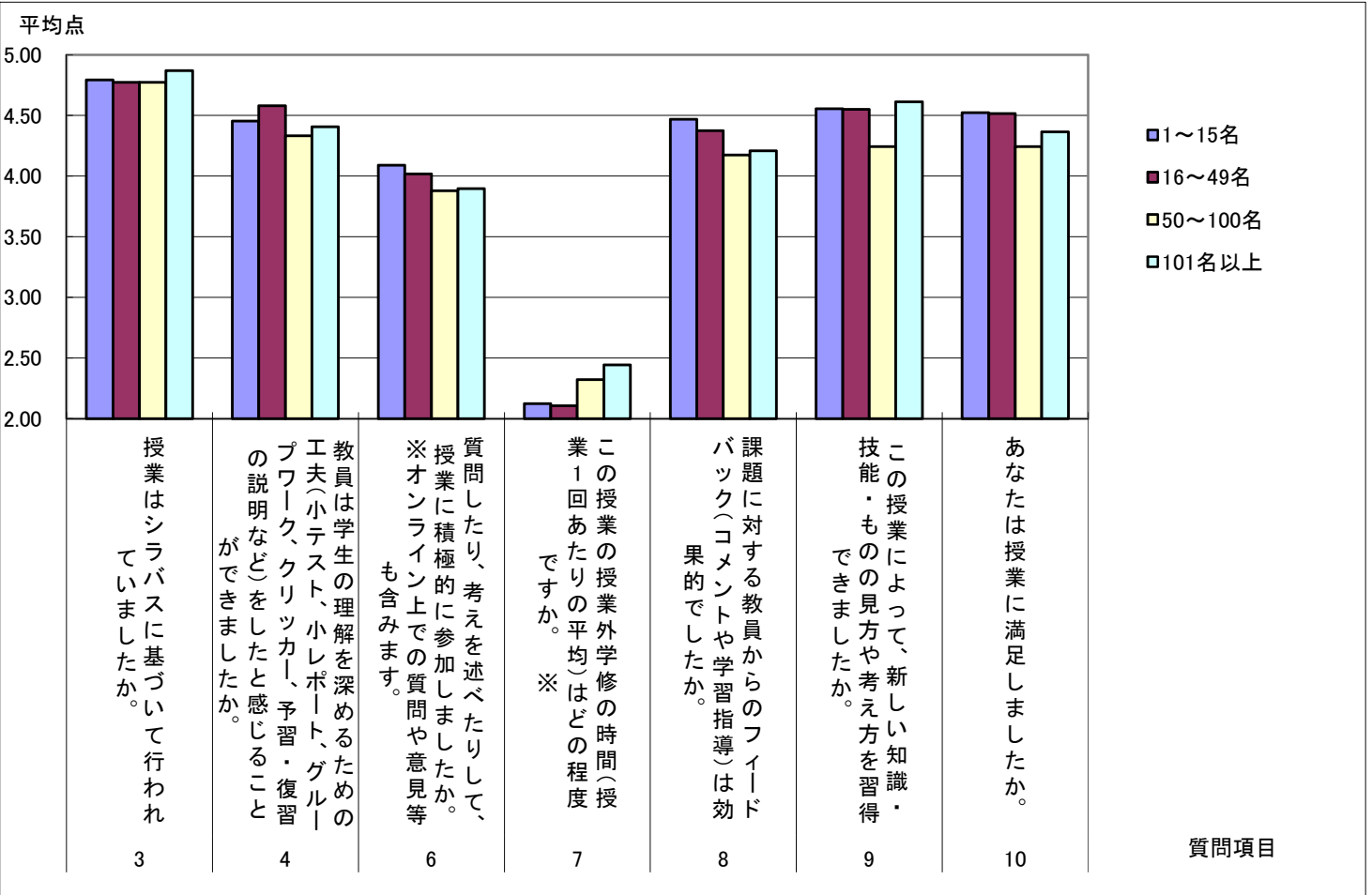


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	854	1,540	106	104
回答者数	443	707	33	33
回答率(%)	51.87	45.91	31.13	31.73

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.79	4.77	4.77	4.87
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.45	4.58	4.33	4.41
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.09	4.02	3.88	3.90
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.13	2.11	2.32	2.44
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的 でしたか。	4.47	4.37	4.17	4.21
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得でき ましたか。	4.56	4.55	4.24	4.61
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.52	4.51	4.24	4.36

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

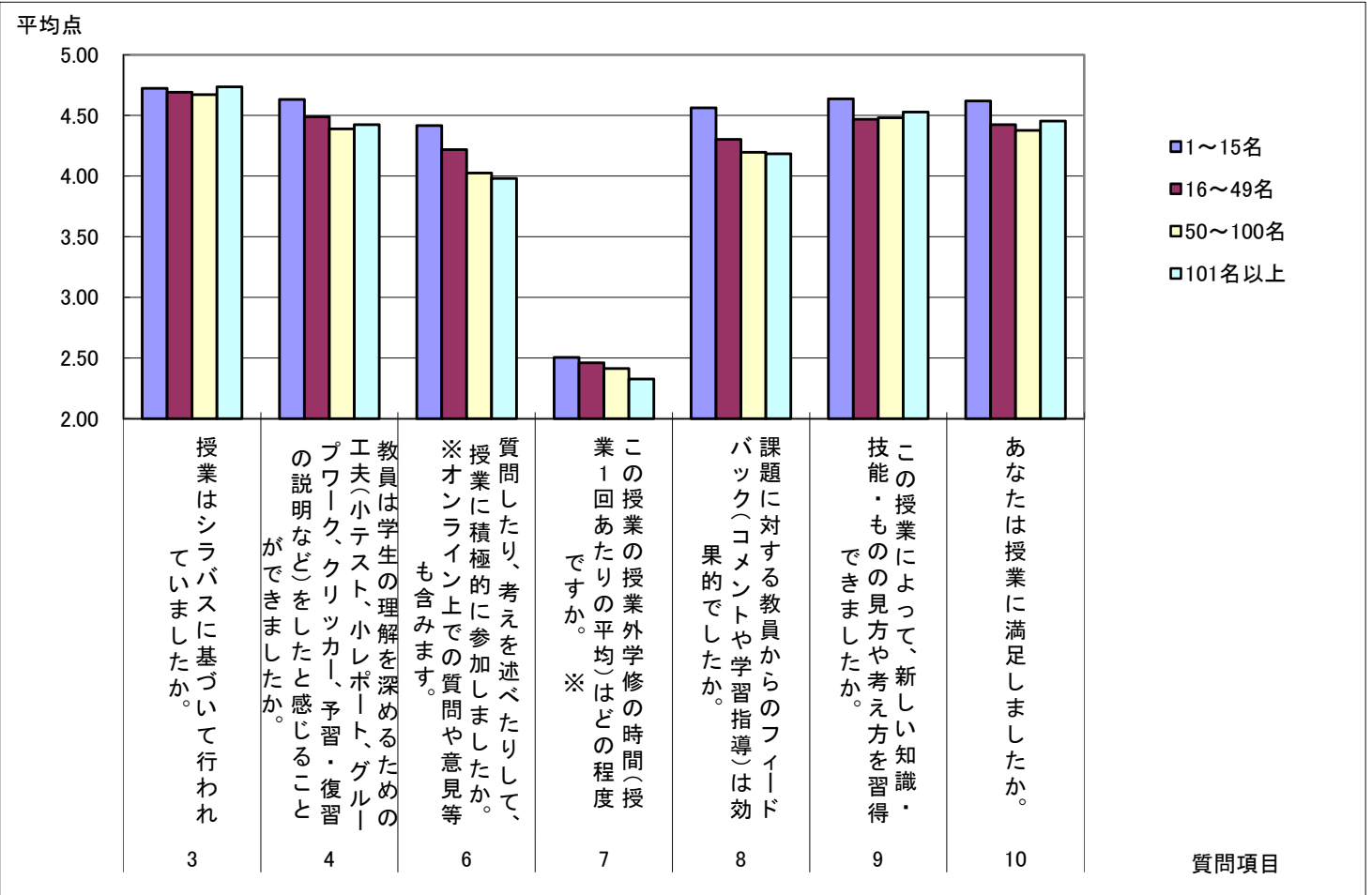


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,702	24,535	21,610	10,842
回答者数	1,264	11,540	8,943	4,252
回答率(%)	46.78	47.03	41.38	39.22

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.72	4.69	4.67	4.74
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.63	4.49	4.39	4.42
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.42	4.22	4.03	3.98
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.50	2.46	2.41	2.33
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的 でしたか。	4.56	4.30	4.20	4.18
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得でき ましたか。	4.64	4.47	4.48	4.53
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.62	4.42	4.38	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

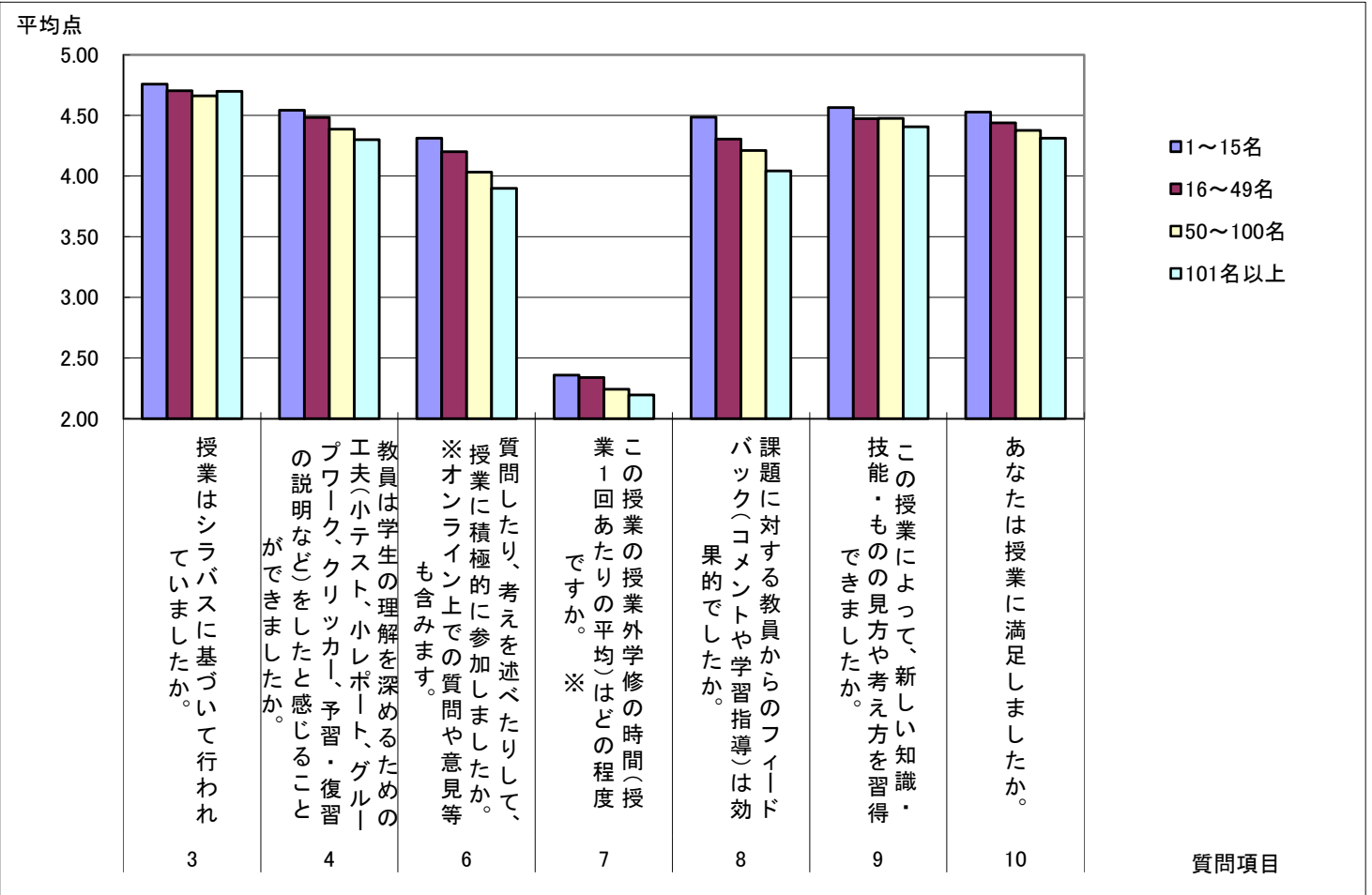


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	3,206	23,480	18,722	8,961
回答者数	1,334	9,512	5,882	2,666
回答率(%)	41.61	40.51	31.42	29.75

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.76	4.70	4.66	4.70
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.54	4.48	4.39	4.30
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.31	4.20	4.03	3.90
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.36	2.34	2.24	2.20
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的 でしたか。	4.49	4.30	4.21	4.04
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得でき ましたか。	4.57	4.47	4.48	4.41
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.53	4.44	4.38	4.31

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

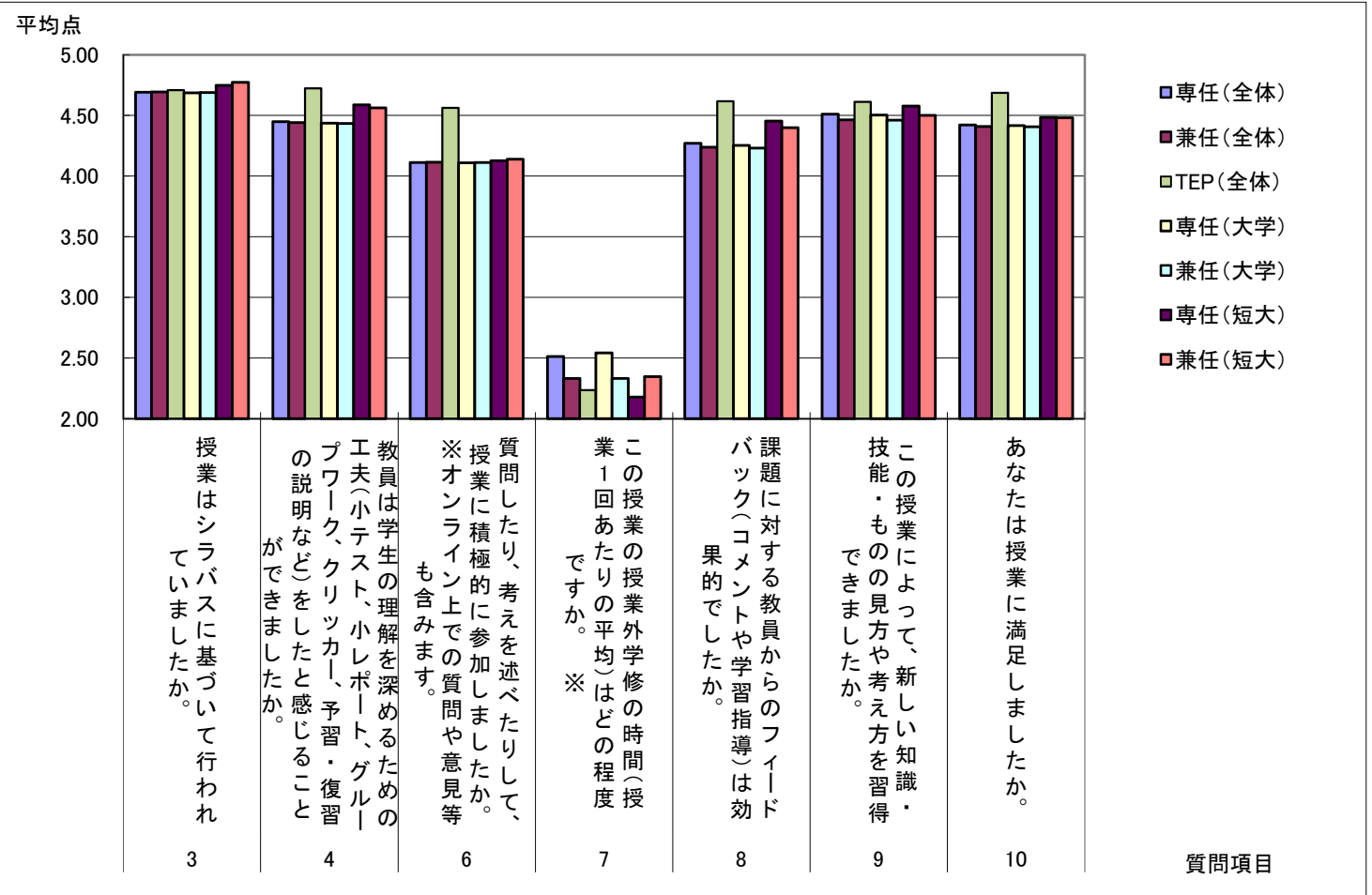


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	30,618	26,233	731	28,852	24,979	1,766	1,254
回答者数	12,512	12,256	338	11,427	11,623	1,085	633
回答率(%)	40.86	46.72	46.24	39.61	46.53	61.44	50.48

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.69	4.71	4.69	4.69	4.75	4.77
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.45	4.44	4.72	4.44	4.43	4.59	4.56
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.11	4.56	4.11	4.11	4.13	4.14
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.51	2.33	2.24	2.54	2.33	2.18	2.35
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.27	4.24	4.62	4.25	4.23	4.45	4.40
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.51	4.46	4.61	4.50	4.46	4.58	4.50
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.42	4.41	4.69	4.42	4.41	4.48	4.48

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

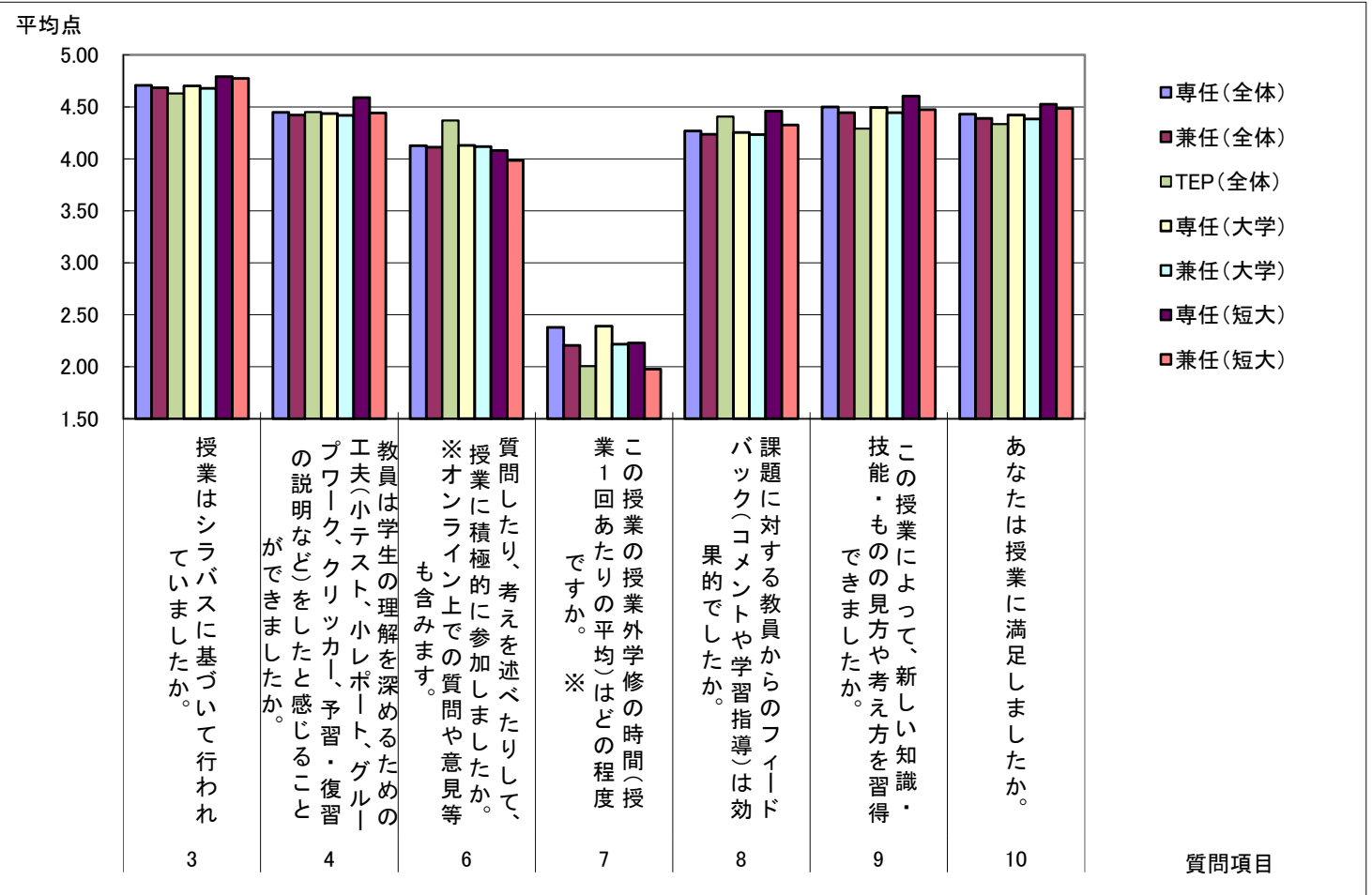


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	30,102	23,296	745	28,665	22,129	1,437	1,167
回答者数	9,849	9,250	217	9,166	8,717	683	533
回答率(%)	32.72	39.71	29.13	31.98	39.39	47.53	45.67

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.68	4.63	4.70	4.68	4.79	4.77
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.45	4.42	4.45	4.43	4.42	4.59	4.44
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.13	4.11	4.37	4.13	4.12	4.08	3.99
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.38	2.20	2.01	2.39	2.22	2.23	1.98
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.27	4.24	4.41	4.25	4.23	4.46	4.32
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.44	4.29	4.49	4.44	4.60	4.47
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.39	4.33	4.42	4.38	4.53	4.48

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

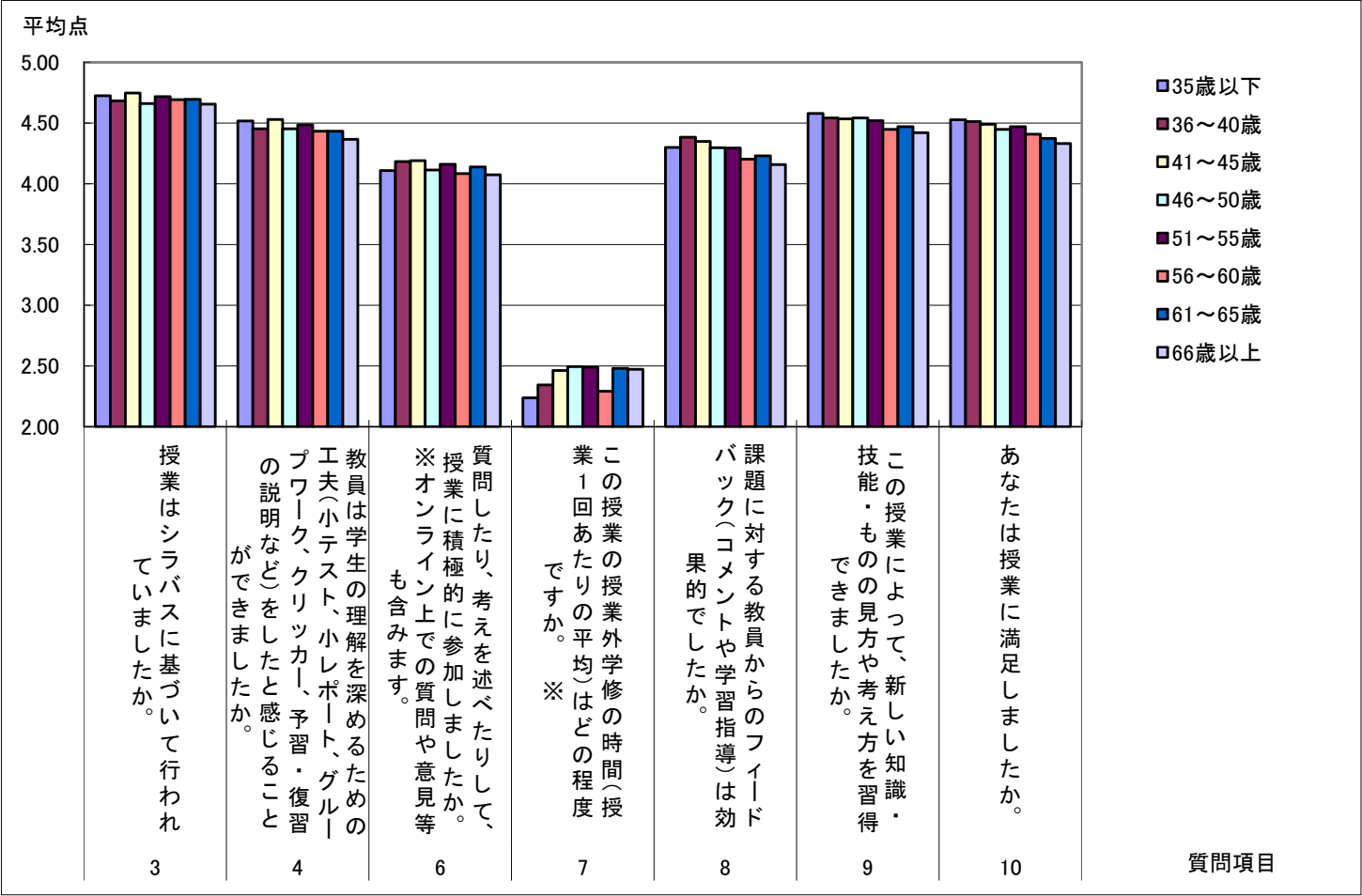


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,560	2,552	5,467	8,423	6,633	9,933	8,041	11,953
回答者数	758	1,048	2,220	3,556	2,698	4,121	3,705	5,282
回答率(%)	48.59	41.07	40.61	42.22	40.68	41.49	46.08	44.19

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.72	4.68	4.75	4.66	4.72	4.69	4.69	4.66
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.52	4.45	4.53	4.45	4.49	4.43	4.43	4.37
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.18	4.19	4.11	4.16	4.08	4.14	4.07
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.24	2.34	2.46	2.49	2.49	2.29	2.48	2.47
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.30	4.38	4.35	4.30	4.29	4.20	4.23	4.16
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.58	4.54	4.53	4.54	4.52	4.45	4.47	4.42
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.53	4.51	4.49	4.45	4.47	4.41	4.37	4.33

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

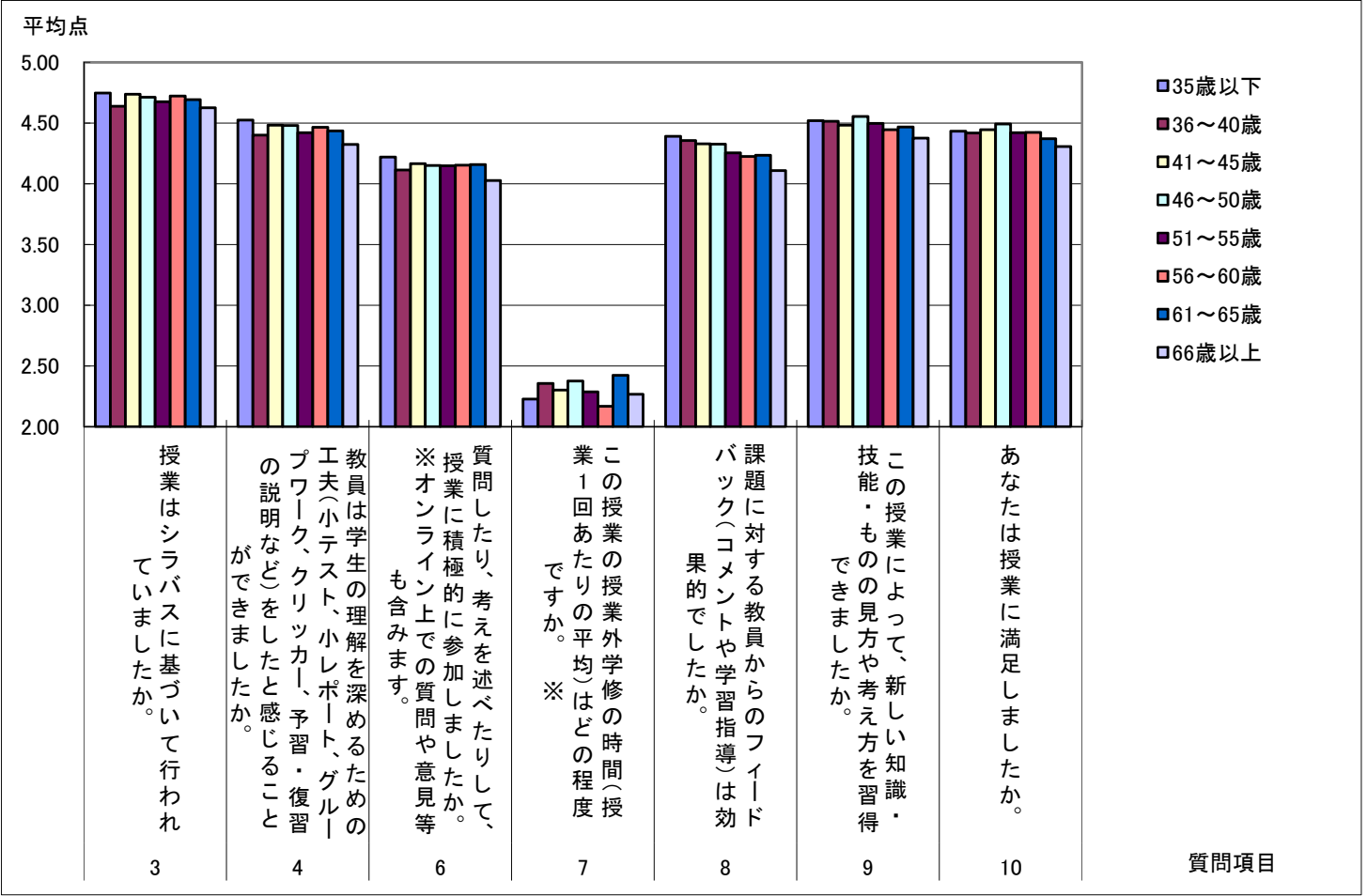


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,490	2,778	5,946	7,856	6,688	7,604	8,015	11,162
回答者数	578	946	2,104	2,628	2,223	2,928	2,764	3,929
回答率(%)	38.79	34.05	35.39	33.45	33.24	38.51	34.49	35.20

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.75	4.64	4.74	4.71	4.68	4.72	4.69	4.63
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.52	4.40	4.48	4.48	4.42	4.46	4.44	4.32
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.22	4.11	4.17	4.15	4.15	4.15	4.16	4.03
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.23	2.36	2.30	2.37	2.29	2.17	2.42	2.27
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.39	4.36	4.33	4.33	4.26	4.22	4.24	4.11
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.52	4.51	4.48	4.55	4.50	4.45	4.47	4.38
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.42	4.45	4.49	4.42	4.42	4.37	4.31

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

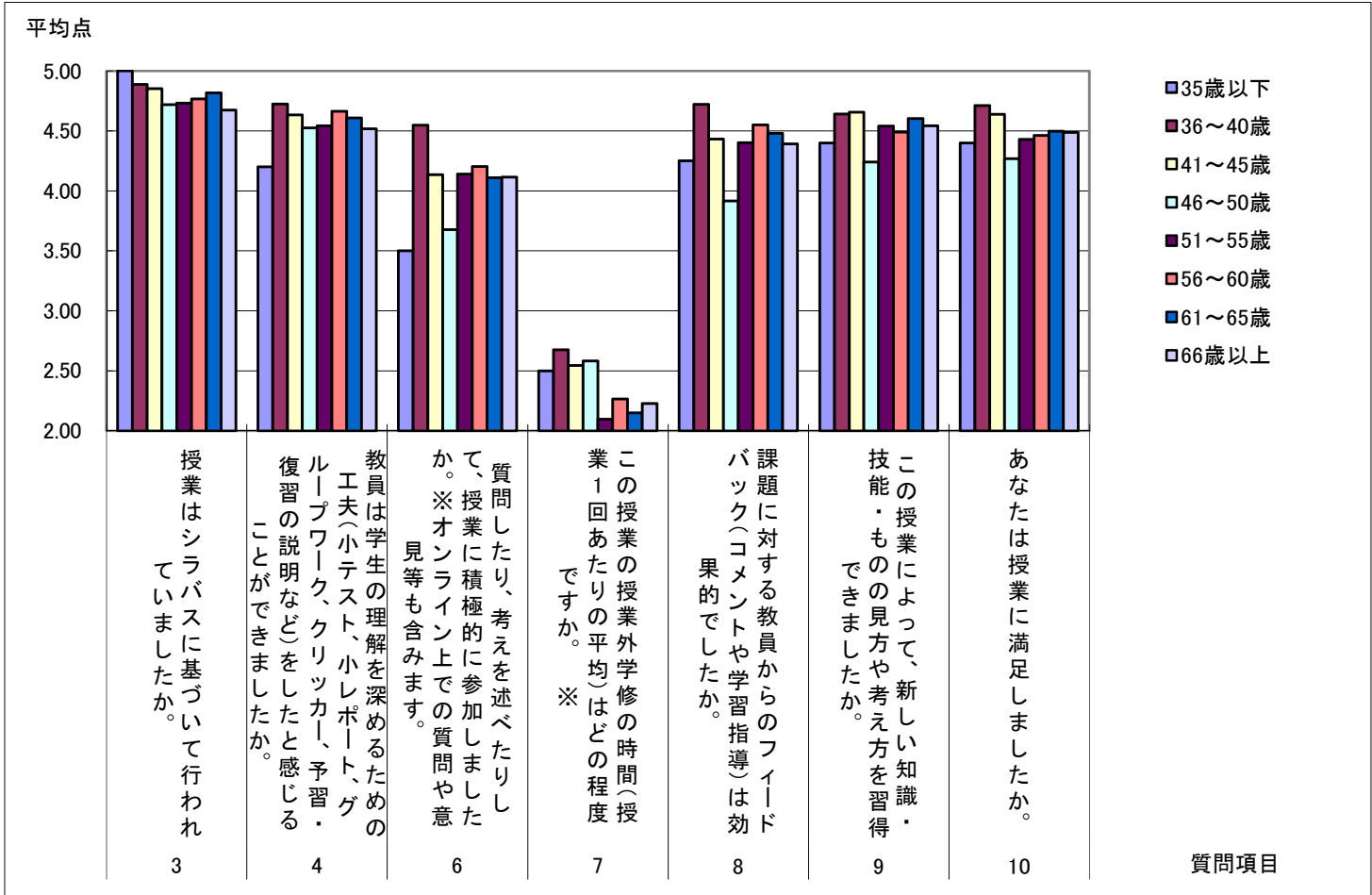


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	8	194	180	173	596	277	764	828
回答者数	5	91	61	79	353	172	500	457
回答率(%)	62.50	46.91	33.89	45.66	59.23	62.09	65.45	55.19

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	5.00	4.89	4.85	4.72	4.73	4.77	4.82	4.67
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.20	4.73	4.63	4.53	4.54	4.66	4.61	4.52
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.50	4.55	4.13	3.68	4.14	4.20	4.11	4.11
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.50	2.68	2.54	2.58	2.10	2.26	2.15	2.23
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.25	4.72	4.43	3.92	4.40	4.55	4.48	4.39
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.40	4.64	4.66	4.24	4.54	4.49	4.60	4.54
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.40	4.71	4.64	4.27	4.43	4.46	4.50	4.49

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

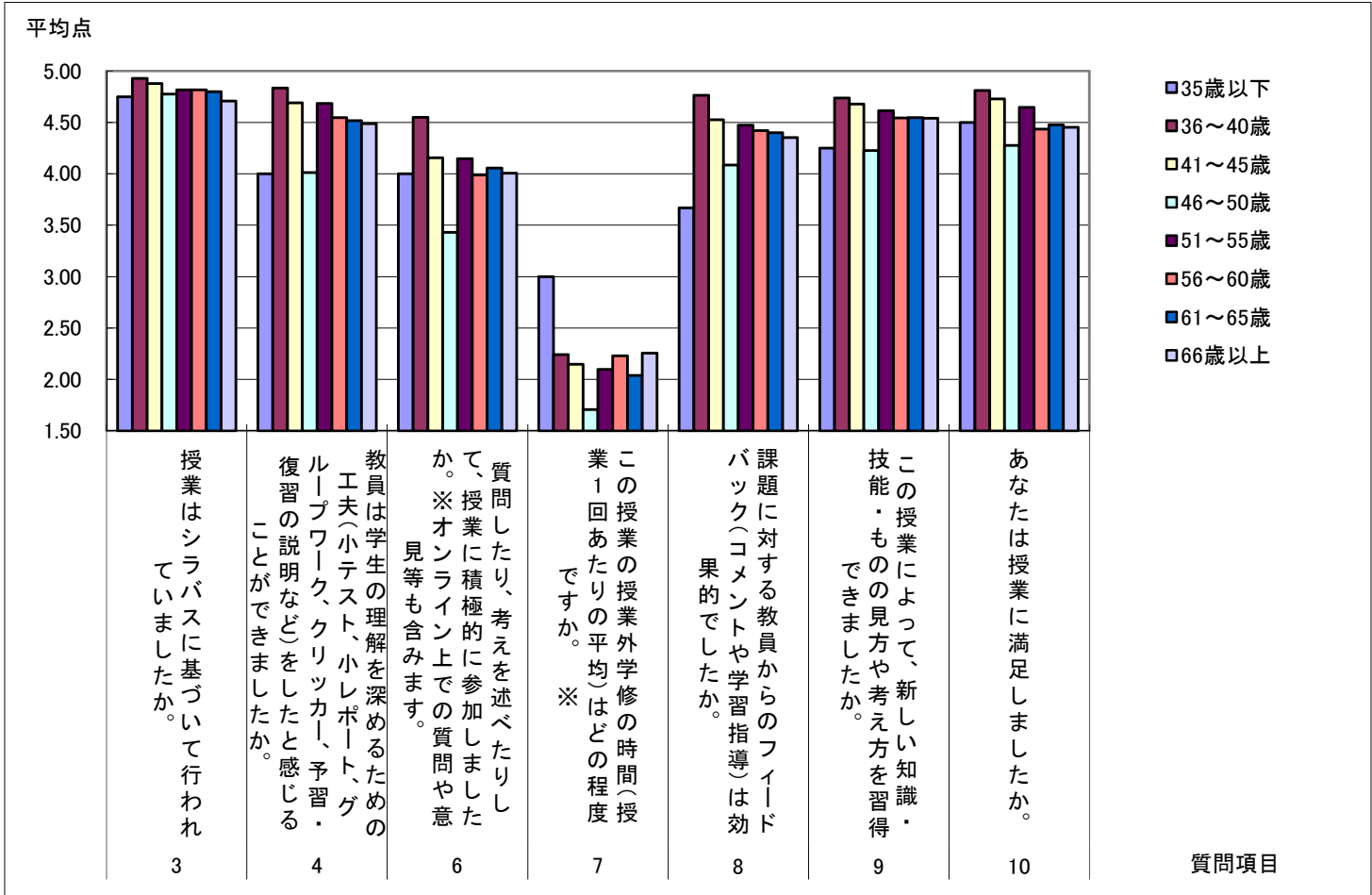


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	9	82	146	205	451	181	722	808
回答者数	4	42	60	92	229	92	339	358
回答率(%)	44.44	51.22	41.10	44.88	50.78	50.83	46.95	44.31

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.75	4.93	4.88	4.78	4.82	4.82	4.80	4.71
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.00	4.83	4.69	4.01	4.68	4.55	4.52	4.49
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.00	4.55	4.16	3.43	4.15	3.99	4.06	4.01
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	3.00	2.24	2.15	1.71	2.10	2.23	2.04	2.26
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	3.67	4.76	4.53	4.09	4.47	4.42	4.40	4.35
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.25	4.74	4.68	4.23	4.61	4.54	4.55	4.54
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.50	4.81	4.73	4.27	4.64	4.43	4.48	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

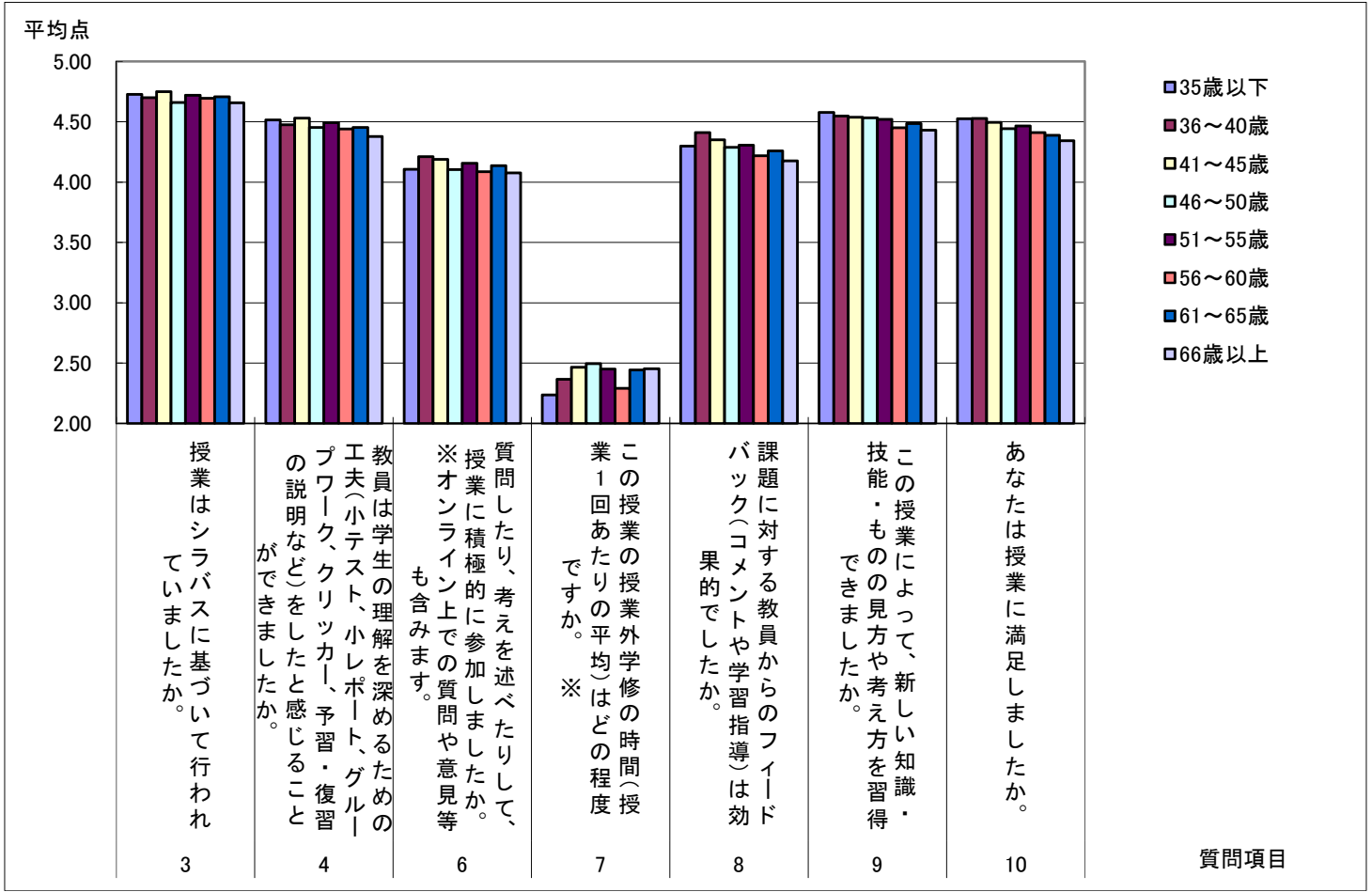


2024年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,568	2,746	5,647	8,596	7,229	10,210	8,805	12,781
回答者数	763	1,139	2,281	3,635	3,051	4,293	4,205	5,739
回答率(%)	48.66	41.48	40.39	42.29	42.21	42.05	47.76	44.90

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.73	4.70	4.75	4.66	4.72	4.70	4.71	4.66
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.52	4.48	4.53	4.45	4.49	4.44	4.45	4.38
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.21	4.19	4.10	4.16	4.09	4.14	4.08
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.24	2.37	2.46	2.50	2.45	2.29	2.44	2.45
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.30	4.41	4.35	4.29	4.31	4.22	4.26	4.18
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.58	4.55	4.54	4.53	4.52	4.45	4.48	4.43
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.53	4.53	4.49	4.44	4.46	4.41	4.39	4.34

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

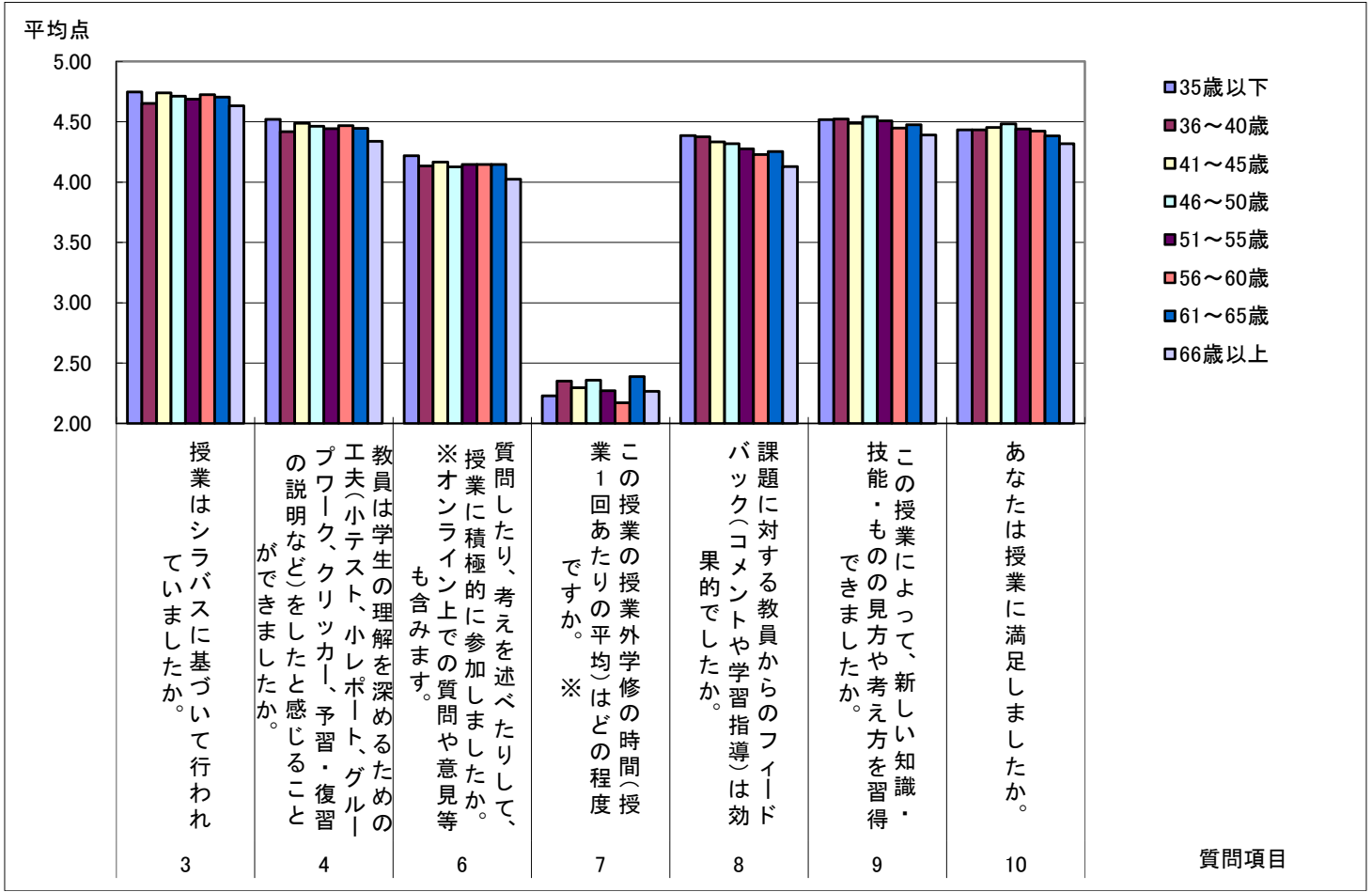


2024年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,499	2,860	6,092	8,061	7,139	7,785	8,737	11,970
回答者数	582	988	2,164	2,720	2,452	3,020	3,103	4,287
回答率(%)	38.83	34.55	35.52	33.74	34.35	38.79	35.52	35.81

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.75	4.65	4.74	4.71	4.69	4.73	4.70	4.63
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.52	4.42	4.49	4.46	4.44	4.47	4.44	4.34
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.22	4.14	4.17	4.13	4.15	4.15	4.15	4.02
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.23	2.35	2.30	2.36	2.27	2.17	2.39	2.27
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.39	4.38	4.33	4.32	4.28	4.23	4.25	4.13
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.52	4.52	4.49	4.54	4.51	4.45	4.48	4.39
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.43	4.45	4.48	4.44	4.42	4.38	4.32

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2 各学部の令和6年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 令和6年度家政学部FD 委員会構成

委員長：須藤良子（ライフデザイン学科）

委員：原木英一（被服学科） 小清水孝子、深津章子（食物学科） 大谷洋貴（児童学科）
中川まり（ライフデザイン学科）

大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：中島永晶（家政学部長）

2. 授業改善のためのアンケート

令和6年度も、UNIPAを利用したWEB方式とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全10問（選択式は6段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和6年7月8日（月）から7月20日（土）までで実施。後期は令和6年12月9日（月）から12月21日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計結果等、概況を記す。

①前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：13,237名／30,302名（回答率43.7%*昨年42.32%）

後期：10,147名／28,118名（回答率36.1%*昨年35.0%）

②総評：家政学部全体として

「満足度」（Q10）の平均点は、前期4.43、後期4.39であった。前年度は前期4.45、後期4.40だったので、前後期ともにほぼ昨年同様の結果となった。他の設問についても、ほぼ昨年同様の結果となった。

③家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「家政学部共通科目」では、多くの設問で全体の平均点を下回り、「管理栄養士専攻専門科目」後期では全体の平均点を上回る設問が多い。

Q7（授業外学修時間）をみると、専門科目では0.1ポイント以上高い結果が多くみられた。

④家政学部全体と授業形態別を比較して

「実技」「実験」「実習」が全体の平均点を上回る項目が多い結果であった。「実技」ではQ7（授業外学修時間）は全体の平均点を下回っている。

Q6（授業への参加）をみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」では前後期ともに下回っている。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

⑤家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

例年同様に、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向である。

Q6（授業への参加）をみると、「1～15名」と「16～30名」は前後期ともに0.1ポイント以上高く、「76～100名」後期、「101名以上」で0.1ポイント以上低くなっている。

Q8（教員からのフィードバック）をみると、「1～15名」と「16～30名」は前後期ともに0.1ポイント以上高く、「76～100名」前期、「101名以上」後期では0.1ポイント以上低くなっている。

⑥家政学部全体と5学部所属学科専攻別を比較して

「環境情報学」が全体の平均点を上回る項目が多く、「児童学」、「日本文学」、「ヨーロッパ文化」が下回る項目が多い結果であった。

Q7（授業外学修時間）をみると、「被服」前期、「食物学」後期と「管理栄養士」前後期、「児童教育」前期、「英語英文学」後期で0.1ポイント以上高く、「児童学」前後期、「日本文学」前期、「社会生活情報学」・「環境情報学」・「情報デザイン」・「ヨーロッパ文化」の前後期で0.1ポイント以上低くなっている。

なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

3. 学部専任教員によるFD 報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和7年2月25日に、以下の要領で家政学部4学科のFD委員を通じて、学部教員にFD報告書の作成を依頼した。各教員からFD報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、令和6年度の状況をふまえ、FD委員会にて検討した結果、以下A～Cの3項目について、自由選択の任意回答とし、一人当たりの総記述量が15～20行（最大800字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼した。回収はメールによるものとし、令和7年3月14日受取までを期日として実施した。以下A～Cの3項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

項目A：今年度の授業アンケート実施科目のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。

項目B：アクティブ・ラーニング（チュートリアル型または実践体験型）を実施した授業について、その効果や問題点を挙げてください。実施しなかった授業については、それを検討する際に感じた障壁・問題点を記してください。

項目C：ICT（manaba、クリッカー等）を活用した授業について、その効果や問題点を挙げてください。ICTを活用しなかった授業については、活用を検討する際に感じた障壁・問題点を記してください。

4. 本年度の家政学部FD 委員会による主な報告・審議事項

令和6年4月19日に、令和5年度「家政学部FD 活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF 方式）第1回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（5月21日：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討）第2回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（令和7年1月22日：UNIPAによる「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえた令和6年度FD活動報告書作成に向けての確認）

なお、令和6年度の活動報告の詳細については「2024年度家政学部FD 報告書」を参照されたい。「家政学部FD報告書」のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェアに外部委託し、令和7年2月7日に発注、3月31日に納品された。

5. 次年度への課題と引き継ぎ事項

- ・家政学部としての学部内FD活動の検討と実施（今後のFD活動の在り方の模索と研修企画の立案）
- ・令和7年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

(2) 文学部

1. 令和6年度文学部FD委員会構成

委員長：君嶋亜紀（日本文学科）

委員：木戸雄一（日本文学科）、イケダ・ケン（英語英文学科）、石川千暁（英語英文学科）、川村覚文（コミュニケーション文化学科）、関本紀子（コミュニケーション文化学科）

2. 授業に関する意見交換

各学科において、授業の進め方や指導法、学生への対応と情報共有、クラウドを利用した授業資料の共有や共通テキストの検証等、授業に関する意見交換を随時行い、授業の改善に努めた。

3. 授業担当者懇談会

例年実施されている授業担当者懇談会は、今年度も予定通り5月11日（土）に各学科で実施された〔日本文学科・英語英文学科：対面、コミュニケーション文化学科：オンライン（Zoom）〕。実施方法は対面とオンラインで各々の利点はあるが、授業の進め方や学生対応、manaba等の教育支援システム、大学の施設・設備等について、非常勤講師と専任教員との間で具体的な情報提供や意見交換がなされた。

4. 学科のFD活動（学生懇談会）

文学部では専任教員と学生との懇談会「文学部学生懇談会」を2021年度より開催している。本懇談会の目的は、文学部をめぐる教育・学習環境、授業、学生生活全般に関して、授業改善のためのアンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。昨年度は学科ごとの開催としたところ、学生が意見を述べやすく、各学科の特性に応じた意見を集約しやすいという効果が認められたため、今年度も同様に学科ごとに実施した。以下、各学科の実施状況について述べる。

日本文学科では、2024年12月19日（木）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名および日本文学科長が出席し、参加した学生数は7名（4年生4名、3年生3名）であった。

英語英文学科では、2024年11月22日（金）に対面で開催した。学部FD委員2名が出席し、参加した学生数は6名であった。

コミュニケーション文化学科では、2024年12月16日（月）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名およびコミュニケーション文化学科長が出席し、参加した学生数は13名（4年生5名、3年生8名）であった。

事前広報として、学科ごとにmanabaのコースニュース配信やポスターの作成・掲示、授業時の案内等を通じて学生への周知に努めた。また昼休みに設定し、事前の申し込みは不要として気軽な参加を促した。なお、各学科の懇談会には企画・戦略室より1名参加された。

学生との懇談は例年同様に自由討議形式とした。参加した学生からは、授業、教室や図書館等の学習環境・設備、学食やロッカー・事務手続きなど学生生活に関わること等、具体的で多様な意見・要望が提示され、充実した懇談会となった。対面で直接、学生の視点からの声を集約するという点で、教員にとっても気づきの得られる、大きな意義のある活動であった。

懇談会を通じて学生から得られた意見・要望等は、「2024年度大妻女子大学文学部FD活動報告書」において学科ごとに項目にまとめ、文学部長、日本文学科長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、文学部教務委員長、文学部学生委員長、教育支援センター部長、学生支援センター部長に報告した。内容を共有いただき、今後に向けての検討、改善に活用いただけると幸いである。

5. 学会活動

対面授業が全面的に復活し各種行事等も再開される中、各学科の学会活動も活発に行われた。以下に列挙する。日本文学科：2024年7月4日（木）国文学会総会・ワークショップイベント、同年9月26日（木）卒業論文中間発表会、同年12月17日（火）国文学会例会。英語英文学科：2024年6月3日（月）総会（紙面）、同年10月22日（火）秋季例会、同年12月17日（火）レシテーションコンテスト、2025年1月29日（水）卒業論文発表会。コミュニケーション文化学科：2024年4月5日（金）新入生オリエンテーション・歓迎会、同年6月10日（月）総会・講演会、同年11月12日（火）例会（プレゼンテーション大会）、2025年1月28日（火）例会（卒業論文発表会）。

6. 授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の2回、前期は7月8日（月）から20日（土）、後期は12月9日（月）から21日（土）の期間に学内ポータルサイトUNIVERSAL PASSPORTにてオンラインで実施された。アンケートの実施対象としては、これまでの方針に従い、特殊な実施形態の科目（卒業論文・ゼミ・オムニバス等）や少人数履修者科目のような例外を除いて、原則として全ての授業を対象として実施された。

資料「授業改善のためのアンケート集計結果（文学部全体）」に示されたアンケート回答者数および回答者数の受講者数に占める割合（以下、回答率）は次の通りである。アンケート回答者数（括弧内は昨年度、以下同）は、前期10,897（10,773）名、後期8,677（8,909）名、前期と後期の回答者数を合算した総数は19,574（19,682）名であり、昨年度より前期はやや増加、後期および総数はやや減少している。また、回答率を見ると、前期は45.15（45.13）%、後期は38.30（38.25）%、平均して41.83（41.69）%と昨年度より微増しており、前期・後期・平均といずれも36～37%台であった一昨年（2022）度と比べると昨年度から増加傾向を維持している。これは昨年度に続きコロナ禍以降のリモート授業から対面授業への切り替えが進んでいることも関係していよう。設問2によると、2024年度に対面で実施された授業は、前期80.4（69.9）%、後期80.9（70.5）%となっている。定期的に登校し教員や他の学生と学びの場を共有する中で醸成されている授業への主体的な参加姿勢がアンケートの回答率にも反映しているものと推測される。なお、前期に対して後期の回答者数・回答率が減少する傾向は昨年度と同様であった。後期アンケート実施期間の12月が年末の行事等も多く慌ただしい時期であることも関係するのかもしれない。とくに後期の授業時等の周知を意識するとよいと思われる。今後も、学生の主体的な授業参加に繋がるよう、回答者数と回答率の増加傾向を維持すべく、アンケートへの積極的な回答を促す方法を検討していきたい。

なお、具体的な設問に対する回答結果としては、設問3、4、6～10の文学部の全体平均値は前期4.16（4.16）、後期4.13（4.14）、このうち授業の進め方、教員の工夫やフィードバック、学生自身の積極的な参加や学修成果等を問う設問3、4、6、8、9の平均値が4点台、設問10の授業に対する満足度の平均値は前期4.43、後期4.41と、昨年度同様に全体を通じて一定程度の高い評価が示された。詳しくは「2024年度大妻女子大学文学部FD活動報告書」において学科ごとに分析する。

以上

(3) 社会情報学部

1. 令和6年度社会情報学部FD委員会の構成

委員長 若林佳史（社会生活情報学専攻）

委員 山田幸三（社会生活情報学専攻主任）、
大橋寿美子（環境情報学専攻主任）、木村ひとみ（環境情報学専攻）
田中清（情報デザイン専攻主任）、宮崎美智子（情報デザイン専攻）
原田龍二（語学代表）

オブザーバー 関えいこ（学務助手：庶務・記録）。

2. 令和6年度のFD活動の概要

今年度は社会情報学部が組織的なFD活動を開始してから23年目にあたる。これまでの活動の成果を継承しつつ、社会情報学部FD委員会を計9回（令和6年4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、10月9日、11月13日、12月4日、そして令和7年2月5日、3月4日）開催し、多彩なFD活動に取り組んだ。また、Google Drive上の共有フォルダも活用し、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。

なお、活動の詳細については、『令和6年度社会情報学部FD活動報告書』にて報告する。

以下、箇条書きにて各活動について概要を記す。

①入学時の学生生活調査

令和6年4月1日～4月30日実施。

新入生に対し、Google フォームを用いてアンケート調査を行った。

質問項目は、入学の目的その他。

②特定枠プロジェクト研究への助成

令和6年4月17日～5月6日募集。

磯山直也・木下勇「スクリーンタイムからグリーンタイムへの情報デザイン PBL プログラムの試行」に助成した。

③より良い授業評価アンケートのための教育活動

令和6年4～7月実施。

新入生に対し、基礎演習（「社会生活情報基礎演習」「環境情報学基礎演習」「情報デザイン基礎演習」）において、「授業評価アンケート」の目的や意義などについて解説を行った。

④教員相互の授業公開および参観

令和6年6月10日～7月13日実施。

公開する授業は、本学部教員の担当する授業（オンライン授業を除く）すべてとした。

⑤FD研修会

令和6年10月30日実施。

講演：若尾翠氏（学生相談センター）「障害の基礎知識と学生の特性に応じた接し方」

当日欠席者は録画を視聴。

⑥FD研究会

令和6年10月30日実施。

昨年度助成を行った「特定枠プロジェクト研究」2件の報告会を行った。

報告 1：木下勇・磯山直也「環境と情報の連結による学生の主体的学びと社会への情報発信への PBL プログラムの開発」

報告 2：市村哲・中野希大「本学におけるメタバース活用のノウハウ獲得」

⑦卒業時の学生生活調査

令和 6 年 12 月 2 日～令和 7 年 1 月 31 日実施。

卒業予定者に対し、Google フォームを用いてアンケート調査を行った。

質問項目は、大学生活の満足度その他。

⑧教員と学生の意見交換会

令和 7 年 1 月 8 日実施。

テーマは「入学の目的からみた社会情報学部教育内容の評価」。

⑨休講の状況の把握

令和 6 年度における休講およびそれに伴う補講の状況について把握した。

⑩「授業改善アンケートに関する教員のご意見」集の作成

各専任教員から令和 7 年 2 月～3 月に受け取った「授業評価アンケートに関する意見」をまとめた。

⑪履修登録の抽選（受講者調整）に関する状況の把握

⑫他大学の学生参画型 FD 活動に関する資料収集

⑬オフィスアワーの設定

昨年同様、対面形式とオンライン形式を併用したオフィスアワーを設定した。いずれの場合でも 90 分の教員のアクセスを確保することとした。

⑭『令和 6 年度社会情報学部 FD 活動報告書』の作成

令和 7 年 5 月に完成。

3. 来年度に向けての課題

Google フォームを用いて調査を行うようになってから、入学時の学生生活調査および卒業時の学生生活調査の回収率が著しく低下した。この改善が喫緊の課題と考えられる。そのほか履修登録の抽選をめぐって生じている問題への対策や、授業評価アンケートの結果の学生へのフィードバックについても今後一層の検討を要する課題といえよう。

(4) 人間関係学部

1. 令和6年度人間関係学部FD委員会構成

齊藤豊（人間関係学部学部長） 福島哲夫（人間関係学科長） 上野優子（人間福祉学科長）
小谷敏（人間関係学科社会学専攻） 三好真（人間関係学科社会・臨床心理学専攻：人間関係学部FD
委員長） 飛田和樹（人間福祉学科）

2. 令和6年度人間関係学部FD活動一覧

- ・ オフィスアワー 原則、対面で実施
- ・ 授業担当者懇談会
（社会学専攻）令和6年5月25日
（社会・臨床心理学専攻）令和6年5月25日
（人間福祉学科）令和6年5月25日
- ・ 人間関係学部FD研修会（人間関係学部FD委員会主催） 令和6年12月6日
- ・ 保護者懇談会 令和6年10月19日
- ・ 学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会 令和6年12月6日

3. 各FD活動の内容

① オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のUNIPAでこれを公開している。本年度は基本対面で一部オンラインの組み合わせにより実施した。

② 授業担当者懇談会の実施

例年前期に実施している非常勤講師の先生との授業担当者懇談会を今年度も5月25日に実施した。教育懇談会の内容については、令和6年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

③ 人間関係学部FD研修会の実施

12月6日に「研究と教育への新たな展開～多様な技術を活かす方法～」という全体のテーマのもと、3つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3つのテーマは「授業の展開の方法～AIツールの活用など～」「教員の研究と大学教育の両立や展開の方法」「ゼミの指導方法～授業の展開の方法、活動内容、キャリア教育など～」である。研修会の内容と参加者の意見については、令和6年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

④ 授業改善のためのアンケートの実施

令和6年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。授業改善のためのアンケートも実施しており、令和6年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

⑤ 学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会の実施

教育の質の更なる向上に向けて、令和6年度においても、12月15日に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和6年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。特筆すべきは、忌引きに対する欠席の扱いであるが、学生と学部教職員と今後も相互理解を深める方針である。

⑥各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、英語教育運営委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

その他、より良い授業を目指すための環境やメディアに関する設備等に関して各事務部署と連携を取っている。

⑦各学科・専攻におけるFD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。昨年に引き続き、対面で行われた人間関係学部FD 委員会主催の研修会では、他学科・他専攻の教員がそれぞれの研究や授業に対する内容を積極的に共有しており、引き続き今後の教育内容の向上につなげることを期待している。上記にある通り、研修会の詳細は令和6年度人間関係学部FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

⑧クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和6年度人間関係学部FD 報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

(5) 比較文化学部

本学部では主に、1 授業改善のためのアンケートの実施、2 授業担当者懇談会、3 父母・教員懇談会、4 オフィスアワーの実施に取り組んだ。

紙幅の関係で、以下では主に①について詳細に報告する。

1. 「授業改善のためのアンケート」実施について

①アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

【前期】

期間：令和6年7月8日(月)～7月20日(土)

方法：全ての対象科目において、学生はUNIPAからアンケート回答ができる。

授業担当者は該当科目の履修者に回答をうながす。

【後期】

期間：令和6年12月9日(月)～12月21日(土)

方法：前期と同様

昨年度と同様に、いずれも、アンケート実施期間の開始がUNIPAから学生に通知され、学生はUNIPAへログインしてアンケートに回答した。

アンケートの質問数は短時間で回答することができるように原則6段階評価による全10問の選択式にした。

②実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部では、原則として演習授業（3年次必修の比較文化演習ならびに4年次必修の比較文化セミナー）を除くすべての科目でアンケートを実施した。

③実施科目の受講者数と有効回答数

アンケート実施科目の累計受講者数は、前期20,510名、うち有効回答者数9,210名（回答率44.9%）であった。後期アンケート実施科目の累計受講者数は19,475名、うち有効回答者数7,489名（回答率38.5%）であった。

④集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは全体および各授業別の集計結果だけでなく、所属学科・学年・授業方法（演習・講義等）・職名（専任・兼任）・クラスサイズ・担当教員年齢・授業形式（対面／オンデマンド等）・授業区分（教養・専門）・言語（スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語・韓国語・中国語）別の集計結果を得た。

⑤アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、学生の回答期間終了後に担当教員がUNIPAで直接確認することができる。アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPAを通じ、授業担当教員にその旨を告知した。

⑥教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する意見や感想の執筆を全教員に対して依頼した。その際、これまではメールや文書により意見や感想を集約していたが、今年度からグーグル・フォームの回答に一元化した。

前期は専任教員8名、非常勤教員6名の計14名から、後期は専任教員4名、非常勤教員5名の計9

名から回答があった。

⑦一連のサイクル実施の報告

PDF 形式で FD 報告書を年度末に公開している。

⑧公開するアンケート集計結果について

アンケートの集計結果はそのまま別紙比較文化学部 FD 委員会報告書に公開する。学生による意見・感想（設問 1）は、非常に示唆的なコメントが見られる一方で、ときとして感情的な発言も散見されるため、昨年度同様に掲載を見送る。教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答であるため、表記統一と誤字脱字の修正を除き、原則として編集せずに掲載する。

アンケートが Web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果について即座に確認することができるようになった。ただし、類似する他の授業—たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目など—にも同様の集計結果が共通して得られるものかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、上記報告書には、専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載する。

2. 授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 6 年 5 月 11 日（土）に対面で実施した。

3. 父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 6 年 11 月 9 日（土）に対面で実施した。

4. オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。

その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以上

(6) 短期大学部

1. はじめに

短期大学部 FD 委員会は家政科 3 専攻からそれぞれ 1 名、国文科から 1 名、英文科から 1 名の計 5 名の専任教員によって構成されている。令和 6 年度委員会では、前年度に引き続いて以下①から⑦の項目を中心に FD 活動の実施・検討を行った。なお、来年度からの短期大学部の縮小を受け、項目⑦「FD 講演会、FD 研修会」の実施方法の変更を、今年度、実験的に試みた。「FD 講演会」は短期大学部としては行わず、全学 FD 委員会主催の年 2 回の講演会への参加に振り替えとし、また、「FD 研修会」は、その主目的である在校生からの意見収集を、各学科専攻独自の現状に即した方法で行うものとした。

- ① 授業改善のためのアンケート ② オフィス・アワー ③ ホームページ ④ 保証人との懇談会
⑤ 授業公開 ⑥ 学習支援活動 ⑦ 全学 FD 委員会主催講演会への参加、FD 研修会の学科独自開催

2. 令和 6 年度の FD 活動の概要

活動の詳細は、令和 6 (2024) 年度 FD 活動報告書第 22 号Ⅱ章以降に掲載し、ここにはその概要を記す。

①「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD 基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、設問数は全 10 問で、実施は学内ポータルサイト「ユニバーサルサポート (以下 UNIPA)」を利用してオンラインで行うものであった。アンケートの実施期間は、前期が令和 6 年 7 月 8 日 (月) ～7 月 20 日 (土)、後期が令和 6 年 12 月 9 日 (月) ～12 月 21 日 (土) である。アンケート期間終了後に各教員が UNIPA で回答結果を確認し、内省することになっている。

②オフィス・アワーについて

専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。この時間も利用して、学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、感染症等に配慮して、今年度も E メール等の併用で可能な限り対応し、この時間以外であっても対応を重ね、きめ細かな支援を心掛けた。

③ホームページについて

昨年度の短期大学部ホームページのリニューアルで明るい基調のデザインに一新したが、依然、ホームページ閲覧のための入り口が学院ホームページからのリンク、日本短期大学協会からのリンクしかない。より多くの閲覧数を獲得するためには、エントランスポイントの増加が必須である。

昨年度は SEO 対策として、より検索されやすくなるように、サイトのキャッチフレーズに「東京の短大で栄養士になる／家政・ビジネスを学ぶ」といった文言を追加したが、トランスポイント数の増加は進んでいないことから、昨年度より検討を進めている検索キーワードとの連動広告などに関し、引き続き、全学的な調整の必要性を上申することとしたい。

④保証人との懇談会について

令和 6 年度は、家政科 3 専攻が保証人との懇談会を実施した。

家政専攻では、学科専攻説明、クラス担任と保護者との懇談に加え、教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容をスライド、資料配布で紹介した。

生活総合ビジネス専攻では、教職員の紹介、専攻・資格の説明、成績表の見方、編入、就職について、視覚的資料に基づいて説明した。さらに、同日保証人懇談会に先んじて開催した「卒業生からのアドバイス」を撮影し、その動画で、1 年生の就職活動のイメージを確認してもらった。最後に専攻主任から

令和7年度以降の本専攻募集停止について報告した。

食物栄養専攻では、教員との懇談会、及び、同日開催していた学生主体の「校外実習報告会」の参観を実施した。保護者から学生に関する様々な情報を得ることができ、良い交流の機会となった。

なお、国文科、英文科は学科全体での懇談会は実施していない。

⑤授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員16名が授業を公開し、国文科と英文科では専任教員1名が授業を公開した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施した。参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、今後の授業の改善に繋げた。

⑥学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施された。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

⑦短期大学部主催FD講演会・FD研修会について

今年度からの短大独自のFD講演会については、短大教授会での承認の元、縮小し、今年度は全学FD委員会主催の年2回の講演会に参加するのみとした。特に後期の講演会では、工夫された実施形態のおかげで短大独自の課題を、学科を越えて検討する機会が得られ、あらためて、短大の課題としての共通点と学科ごとの課題の相違点、ならびに、共通課題に対する認識を共有する良い機会となった。

またFD研修会も同様に、各学科専攻の現状に合わせてそれぞれ独自の方法と時期を設定して開催した。家政科食物栄養専攻は2年生全員にアンケートを実施し、家政科生活総合ビジネス専攻は聞き合わせの会を設けた。国文科、英文科は、直接、個別に学生に聞き合わせた。結果、在籍者数の少なさも相まって、例年とは異なり、ほぼ全数調査の様を呈することとなった。結果、学生から、学生生活、講義方法、学習参加に関する工夫に関して活発な意見が寄せられ、多くの示唆が得られた。

今年度の試みの結果から、この方法でも、振り返りの機会として、十分、機能するものであると考えられたが、次年度以降も今年度の実施方法を継続するかは、次年度の委員会で再度検討することとする。

3 人間文化研究科の令和6年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会は、令和4年度～6年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

I. 令和4年～6年度大妻女子大学大学院FD実施計画

1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了時アンケート」
- ④ 院生・教員懇談会の実施
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。また、大学院生の就職支援体制の充実に努める。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動
社会人院生に対して制度の充実や環境整備を具体的にどのように推進していくか検討する。
- ⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動
専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。
大学院の組織の見直しを随時検討する。

- | |
|--------------------------------|
| ⑫ その他の活動
大学院生室の有効活用の検討などを行う |
|--------------------------------|

II. FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。①から③は、Google フォームによる WEB アンケートを利用している。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、10～11 月に実施した。その結果については、「Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で 10～11 月に実施した。その結果については、「Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了時アンケート」

令和6年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に2月～3月にかけて実施した。その結果については、「Ⅴ. 大学院修了時アンケート（結果の概要）」として、本報告書に掲載した。

Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

Ⅲ-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、15年目を迎えた。本年度も「大学院 FD 活動実施計画」に基づき、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（Ⅳ.参照）を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施した。以下に両調査の結果の概要を提示する。

Ⅲ-2 進学意識に関する調査の目的と方法

「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、修了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

Ⅲ-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は、次の要領に基づいて実施した。

- (1) 調査対象：令和6年度人間文化研究科各専攻修士1年生22名
- (2) 調査期間：令和6年10月11日（金）～10月31日（木）→11月15日（金）まで延長
- (3) 調査方法：Google フォームによる WEB アンケート。
- (4) 回収状況：回答数18件、回答率81.8%

平成30年度から今年度までの1年生の回答者数と回答率を表1に示した。

表1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成30年度 (H30)	令和元年度 (R1)	令和2年度 (R2)	令和3年度 (R3)	令和4年度 (R4)	令和5年度 (R5)	令和6年度 (R6)
新入学者	18	18	18	12	27	16	22
回答者	12	17	15	10	16	11	18
回答率(%)	66.7	94.4	83.3	83.3	59.2	68.8	81.8

調査期間中、5度、回答催促を行った。その結果、今回の回収率は一昨年度の59.2%および昨年度の68.8%と比較すると大幅に増加した。

III-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る項目1～12に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表2に示した。「非常に重視した」5点、「かなり重視した」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまり重視しなかった」2点、「ほとんど重視しなかった」1点、「まったく考えたことがない」0点として平均点を算出した。

表2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)	R4 (n=16)	R5 (n=11)	R6 (n=18)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	2.9	3.4	2.8	3.2	3.6	3.8	3.4
2	専門分野の学位が取れること	3.9	3.6	3.8	3.8	4.2	4.3	4.0
3	就職に有利になること	2.3	2.5	3.0	2.6	2.8	2.5	2.9
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	3.0	2.6	3.3	2.9	2.5	2.5	3.8
5	指導を受けたい教員がいること	3.8	4.0	4.5	3.9	4.0	4.2	4.6
6	大学のネームバリューがあること	2.2	1.8	2.5	2.0	2.6	1.8	2.7
7	就職を先に延ばせること	1.6	1.3	1.3	1.2	1.4	1.4	1.3
8	希望する就職先がなかったこと	1.2	0.6	1.4	1.3	0.7	1.7	0.8
9	奨学金を受給できること	1.6	1.8	1.3	0.6	0.9	1.4	1.4
10	専門の資格が取れること	3.1	2.6	2.0	3.1	3.6	3.2	2.8
11	研究したいことがあること	3.8	4.1	4.2	3.6	4.0	4.2	4.5
12	在学中の学費の支払いのこと	3.4	2.9	3.4	2.8	2.9	2.4	3.9

※表中数値は平均値

大学院進学にあたって重視した項目の全体的な傾向は過去6年間とほぼ同様であり、「指導を受けたい教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「研究したいことがあること」といった項目が上位を占めた。また、「自宅・会社からの通学が便利なこと」「在学中の学費の支払いのこと」も比較的上位にあった。

III-5 大学院進学にあたって影響を与えた情報源について

表3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)	R4 (n=16)	R5 (n=11)	R6 (n=18)
1	本学の先輩の研究成果を見たこと	1.7	2.4	2.0	1.6	2.2	2.3	2.4
2	大学院に行っている友人・知人からの情報	2.0	2.9	2.1	1.8	2.2	2.6	2.5
3	両親や兄弟姉妹から勧められたこと	2.2	1.9	1.3	0.9	1.5	1.5	1.4
4	自分の配偶者の意見	1.1	0.8	0.2	1.3	0.7	0.1	0.5
5	大学院紹介の受験雑誌などの記事	1.2	1.1	0.9	0.8	1.9	0.4	2.0
6	本学発行の大学院紹介パンフレット	2.6	2.6	2.3	1.4	3.4	3.1	2.5

7	学内の大学院進学説明会	2.9	1.8	2.6	2.1	3.3	2.8	2.6
8	学外の大学院進学説明会	0.8	0.8	0.2	1.4	1.8	1.3	1.6
9	本学のホームページの記事	2.0	2.9	2.5	1.3	2.9	2.5	2.6
10	指導教員になる教員との相談	4.2	4.2	4.5	3.6	3.6	3.6	4.6
11	学部時代お世話になった教員との相談	3.4	3.1	2.9	2.4	設問欄なし	設問欄なし	設問欄なし
12	出身の大学の先生との相談	3.6	2.5	2.0	2.5	2.6	3.3	3.2
13	出身の高校の先生との相談	0.2	0.4	0.3	0.0	0.2	0.2	0.0
14	教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから	3.6	3.9	3.9	3.1	3.3	3.4	4.2
15	他の大学院にはない独創的な文化資源（蔵書、マニュスクリプト、物的資料など）があると考えたから	1.8	1.9	2.4	1.6	2.4	1.5	2.2

※表中数値は平均値

大学院進学にあたって影響を与えた情報源は、例年通り「指導教員になる教員との相談」の平均点数が 4.6 と高かった。また、「教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから」も 4.2 と高かった。

Ⅲ-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」の質問に対しては、18 名中 13 名が「いいえ」と答えた。回答者の内、他大学大学院受験生は 5 名であった。

Ⅲ-7 大学院修了後の進路及びどのような大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どのように考えていますか」については、平成 30 年度からの推移を表 4 にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表 4 大学院修了後の進路について（複数回答）

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1 博士後期課程に進学したい	42	35	13	0	37	36	22
2 外国に留学したい	17	6	0	10	6	9	11
3 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい	25	12	13	0	6	18	11
4 専門社会調査士として就職したい	17	6	0	0	0	0	0
5 臨床心理士として就職したい	33	24	13	40	44	27	16
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	8	24	13	20	19	27	11
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	17	24	20	0	19	18	33
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	17	24	13	30	12	0	22
9 公務員として就職したい	17	12	20	0	25	18	0
10 大学教員として就職したい	8	29	13	0	12	27	27
11 まだ具体的に考えていない	8	18	27	60	19	27	27

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

大学院修了後の進路は回答率が高い順に、「民間企業で一般職の業務に就きたい」が 33%、「大学教員として就職したい」と「まだ具体的に考えていない」が 27%、「博士後期課程に進学したい」と「民間企業で総合職の業務に就きたい」が 22%という結果が得られた。

自由記述欄には、以下の記載があった。

- ・博士課程に進むか、そのまま現職の教員で頑張るかの 2 択だと思うが、今の研究で博士課程まで行けるかわからないから、そこまで考えられていない。

「どんな大学院生活を送りたいか」の質問に対しては、平成 30 年度からの推移を表 5 にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表 5 どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1 専門分野についての研究センターの生活をした	17	59	53	30	37	54	50
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をした	50	53	80	70	62	72	55
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	25	18	0	30	25	18	16
4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい	8	18	0	30	25	9	16
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	8	12	20	20	12	0	16
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	25	18	47	30	56	27	16
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	17	12	7	10	12	9	5
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	8	12	13	20	19	27	27
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	17	18	33	20	25	36	11
10 どうするか、まだはつきり考えていない		9	7	0	0	0	5

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は 100%を超えている。

どんな大学院生活を送りたいかについては回答率が高い順に、「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をした」55%、「専門分野についての研究センターの生活をした」50%、「アルバイトや遊びも大いにやりたい」27%、「たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい」「就職活動や資格を取るための時間を多くしたい」「就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい」「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」がそれぞれ 16%という結果が得られた。

Ⅲ-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと」の質問に対しては、以下の 7 件の記載があった。

- ・入学試験の準備。
- ・修士論文を書けるのが心配でした。また、男性だけど、女子大学で希望している先生のもとで学べるのが心配だった。また家族を養いながら大学院で学べるのかも考えた。
- ・学費
- ・本当に臨床心理士になりたいかどうか。
- ・自分に研究ができるのか、不安に感じていました。
- ・研究テーマの選定。
- ・子育てと家事、小学校教員としての仕事、研究。全てこなせるか悩んだ。あと、学費を支払えるのかや、進学することの大変さとメリットを秤にかけて悩んでいた。ただ、大学院に進学して、様々な発見や、研究内容以外の学びが多くあり、とても充実しているし、すぐに仕事に活かせるので、とてもやりがいがある。いつもありがとうございます。

IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成25年度から回答を、「非常にそう思う；5点」から「まったくそう思わない；1点」までの5段階評価としている。評価点は、回答者全員の平均点と最高点、最低点を算出している。

- (1) 調査対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生 49 名
- (2) 調査方法：Google フォームによる WEB アンケート
- (3) 調査期間：令和 6 年 10 月 11 日（金）～10 月 31 日（木）→11 月 15 日（金）まで延長
- (4) 回収状況：回答数 42 件 回答率 85.7%

結果の概要は以下の通りである。

IV-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表 6 の通りである。問 1 から問 5 までの各項目の全平均は 5 段階評価でいずれも 4.1 以上の高い評価が得られた。

表 6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
		シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった	学外研究・学外実習について希望通り実施することができた
修士課程	35	4.2	4.4	4.3	4.5	4.0
博士後期課程	7	4.2	4.3	4.3	4.3	4.5
全平均	42	4.2	4.4	4.3	4.5	4.1
最高点	42	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
最低点		3.0	3.0	3.0	3.0	2.0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

大学院の履修および研究環境については表 7 の通りである。

問 6 から問 9 までの各項目の全平均は 5 段階評価でいずれも 3.7 以上の高い評価が得られた。ただし、博士後期課程は「院生自習室の利用方法」の評価が 3.2 に留まっていた。

表 7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
		システム全般の手続き方法について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している	院生自習室の利用方法について満足している
修士課程	35	3.7	4.0	3.9	3.8
博士後期課程	7	4.3	4.1	3.7	3.2
全平均	42	3.8	4.0	3.9	3.7
最高点	42	5.0	5.0	5.0	5.0
最低点		2.0	2.0	2.0	1.0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

教育・研究支援については表8の通りである。

問10から問14までの各項目の全平均は5段階評価でいずれも3.5以上と一定の評価が得られた。ただし、博士後期課程は「院生自習室の設備」の評価が3.3に留まっていた。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10 院生自習室の設備について満足している	問11 事務職員の対応は適切であった	問12 大学院の学費・奨学金は適切であった	問14 授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた。
修士課程	35	3.5	4.2	3.7	4.2
博士後期課程	7	3.3	4.6	4.3	4.5
全平均	42	3.5	4.3	3.8	4.2
最高点	42	5.0	5.0	5.0	5.0
最低点		1.0	2.0	1.0	2.0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

IV-2 大学院の授業全般（問1～5）、履修・研究環境（問6～9）、教育・研究支援（問10～12）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1. 「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・3と回答した理由は、履修者が1名や少数だった場合、個人の研究内容や興味に応じて授業内容を変更してくれるため、シラバス通りとは一概に言えないから。
- ・単位取得済みで、授業を履修していない。
- ・内容を大幅に変更する授業が多いと感じた。
- ・日頃より大変そのように感じております。私の力量不足により、知識や能力が追いついていない部分もありますが、先生方の尽力にいつも感謝いたします。

問2. 「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・水準は高く感じる。特に学部生からの積み上げでないとその差があると感じる。範囲は研究課題に必要な専門的知識のなかから厳選していただいている。
- ・とても丁寧な授業をしてくださり、大変勉強になりました。
- ・単位取得済みで、授業を履修していない。
- ・専門的な知識を得ることができて、とても学びがよいがある。
- ・生徒に合わせて授業内容を決めてくださり、非常に適切であったと感じております。

問3. 「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・直接的なもの、間接的なものとおりに混ざっていく意義を感じる。
- ・先生方の専門分野を十分に堪能できる授業であったと感じます。
- ・単位取得済みで、授業を履修していない。
- ・興味あるトピックを扱う授業が多い。
- ・授業を終えた後に、自分の言葉として他者に伝えるまでに自分のものとしてできていないことも多いが、現在保育士としても働いていても獲得できない部分を知ることができたように思います。

問4.「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・担当教員による指導はいつも丁寧で迅速で、とてもありがたい。ただ、保育・教育学専修には、博士後期課程を担当する教員が少ないので、それをもっと増やしてほしい。
- ・教員自体の専門が把握しきれていない段階や対面していないなかで、研究テーマにそって指導頂く教員（主と副）を決めていくのは難しい。また、研究指導や論文指導がどういうものなのか、まだ理解できていないため評価できない。
- ・学生の希望する研究内容に合わせて、労を惜しまずご指導くださる先生に感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・もう少し手厚く指導して欲しいと感じた。
- ・研究について理解していない部分も多いが、自分に合わせた研究の進め方を提示してくれているように思います。また、研究の相談についても先生が随時時間を割いてくださるため、不安や疑問点が残りにくく、研究を進められているように感じています。

問5.「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・問いの内容が理解できていない。
- ・実施していないからわからない
- ・行っていない

問 6.「システム全般（UNIPA での履修登録、研究助成）の手続き方法について分かりやすかった。」

- ・後期履修の添削は複雑でした。
- ・ガイドがあったのでなんとか申請できたが、難しい。
- ・特に UNIPA の操作に関する説明等がなく、自力で理解する必要があった。
- ・少し操作しにくく感じる。

問7.「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

- ・遠方に住んでおり、オンライン上での対応をしていただけた点が非常に助かりました。
- ・仕事をしているので、ガイダンスの時間に間に合わないことがある。可能であれば動画配信もできると嬉しい。
- ・対面が必須なのか、オンラインが可能なのかふめいであった。また、学部生と院生への配信内容が同じであるものは、その中から自身が対象であるかどうかを見極める必要があり複雑だと感じる。
- ・仕事をしている関係でうまく調整できないこともあるのは、自分の問題だと思っているので問題はないです。
- ・ガイダンスは入学式のあとにしてほしい。
- ・特に思うところはない。
- ・これは仕方ないと思っているのですが、もし仕事の後でも参加できるガイダンスや、オンラインで参加できるガイダンスが増えれば、嬉しいかなと思いました。

問8.「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・千代田）図書館の建物が離れているのが不便。学内施設の利用について、用途や場所の全貌がわかりにくいとため、可視化できるとよい。
- ・利用したことがない。
- ・千代田キャンパスで活動する時間があまりないので利用できていません。
- ・臨床心理学研究など、臨床心理の専門雑誌が千代田キャンパスにあって不便を感じる。
- ・多摩キャンパス図書室で電源をとれるようにしてほしい
- ・欲しい図書が少なく、もう少し専門的な本を用意してほしい。

問9.「大学院生室・大学院生自習室の利用方法（利用時間も含む）について満足している。」

- ・休日の利用時間が長めに確保されていると、仕事が休みの日に利用しやすいと思った。
- ・千代田）まだ利用回数が少ないが場所が離れている分使いにくい。
- ・移転し研究室等への移動が大変になった。狭くなり使いにくい
- ・千代田キャンパスの院生室は不便になったと思います
- ・千代田キャンパスで、とてもいい環境で使用させていただいていたが、引っ越してから使用できていません。
- ・千代田キャンパスの院生室が教室や学食がある建物から離れたところに移転したため、不便になってあまり使用しなくなった。
- ・学生証を忘れた場合なかに入れないのはやめて欲しい。また中に学生証を置いたまま外に出た場合の対処をどうにかして欲しい。
- ・個人の自習できるスペースがあると助かります。
- ・千代田キャンパス。院生室が不便な位置に移動されたため利用頻度が非常に減った。
- ・(千代田キャンパスについて) 院生室の環境には満足しているものの、院生室の場所が E・F 棟(主に授業が実施される)から距離があるため利用しにくく感じています。院生室と距離があることで荷物を置いておけるロッカーも遠く、授業の前後に荷物を取りに行けず正直あまり活用出来ていません。改善されたら嬉しいです。

問 10.「大学院生室・大学院生自習室の設備（PC・プリンタなどの設置機器、辞書・参考文献などの資料、室内レイアウト）について満足している。」

- ・千代田キャンパス、修士論文印刷時には、家庭用プリンターではなく、業務用印刷機の利用ができるようにして欲しい
- ・多摩キャンパス) コピー機が壊れて、使えない時が多々あります。
- ・千代田) 紙ぎれ間近の状態に出くわすことが多い。院生自身が常に補充できるとよい。プリンターが起動せず、使えない台があると他の院生たちと混雑する。プリンター設定の不備かどうか不明。
- ・プリンターの選択が使いにくい。パソコンルームでは席の周りに余裕がなく資料を見ながらの作業がしにくい。
- ・多摩キャンパス) コピー機は性能低く、プリンターも白黒、片面印刷しかできず、性能があまりよくない。P Cまわりの環境をよくしてほしい。
- ・多摩キャンパス) Wi-Fi やプリンターの接続、調子が悪く対応に時間を取られる
- ・ID パスワードがわからなくなってしまい使用していません。
- ・千代田、新しく院生室が代わり、以前よりもプリンターや、在庫が置いてあるなど使いやすくなりました。ありがとうございます。しかし、論文提出時には、何百枚も印刷する必要があるので、その時は業務用印刷機の使用ができるようにして欲しいです。また、穴あけパンチも業務用のが使えるようにして欲しいです。よろしくお願いします
- ・プリンターについて、現状印刷できないことはないが、今年度 2 台故障したこともあり、今動いているものも心配である。
- ・プリンタの接続トラブルがよく起きるが、現状は院生で時間をかけて直している？できれば大学側でサポートをしてもらいたい。
- ・多摩キャンパス院生室は、Wi-Fi、コピー機の調子が良くないことがしばしばあります。
- ・ミーティング室を増やして欲しい。
- ・いつもお世話になっております。穴あけパンチを用意してくださるととても助かります。
- ・もし可能であれば、ワードのトランススクリプトのような機能があると、事前に記録している動画や音声を、文字化できるので、助かるかなと思いました。
- ・千代田キャンパスの院生室にホッチキスを置いてほしいです。

問 11. 「事務職員の対応は適切であった。」

- ・メールで問い合わせした際、すぐに対応していただけたので安心しました。
- ・メールでの問い合わせの場合、担当された方が名前を載せて下さる場合とそうでない場合があります、どなたとやりとりしているのか、不安になることがある。また、対面で受けた履修の説明が人によって異なり、解決できず次回に持ち越しとしている。
- ・多摩校のカウンターの対応が不適切だと感じた。理由として、カウンターに行っても職員同士で目くばせして対応を押し付けあったり、嫌々対応していることが表情・態度に出ている。業務に追われてイライラするのもわからなくはないが、あくまで業務なので態度に出さないほうが良いと考える。説明も前提や条件、主語・述語が整理されておらずわかりにくい。こちらから複数回質問することで理解することができたが、学生対応については職員全体で再構築するべきだと考える。
- ・いつも丁寧に親身になって対応してくださるので感謝しています。

問 12. 「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・就業していても、奨学金をもらっても良いものなのか、わからなかった。
- ・学費が高すぎる。
- ・学費以上の指導をしていただいていると感じている。
- ・大学院生は、学内給付型奨学金の家計基準をもう少し緩和してほしい。
- ・学費や奨学金制度には問題ないと思うが、研究費が圧倒的に足りないです。

IV-3 ハラスメントについて

ハラスメントに関する平成 30 年度からの調査結果を図 1 に示した。令和 6 年度は「経験がある」が 1 名、「答えたくない」が 4 名であった。自由記述欄には 1 名が次のような意見を述べていた。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨、例年通り明記している。

- ・自分ではないが修士の同級生が、指導教員ではないがゼミに参加している教員から人格否定とも取れる事を言われていたそうで、家の外に出れず、学校にも通えなくなる事があった。研究内容などは違えどこの様な事で同志を失うのは悲しいです。

これまでもアンケート結果から、ハラスメントあるいはそれに近い状況が存在していることが推測されたが、今回のアンケートと後述する p14 の大学院修了時アンケート「V-5 教育全般についての自由記述」から、アカデミックハラスメントを疑う案件が発生していることがわかった。ハラスメントもそれに近い状況も本来一件もあってはならないことである。ハラスメントは一過性の行為ではなく繰り返して行われることがあり、教員にハラスメントの認識がないケースもある。

本学では学生が副指導教員を含めた複数の教員から指導を受けられる体制を整え、学生の SOS 信号をできる限り早いうちに見つけ出す仕組みを確立している。さらに、このような案件に対しては指導教員の変更も可能にしている。

今後も次に記すハラスメント防止対策を徹底する。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。
事案には FD 委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。
- ② ハラスメントに関する回答の FD 報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。
- ③ 代議員会、専攻会議等で FD 報告書を説明する際、ハラスメントに関するアンケート結果を必ず報告し、注意喚起を行う。

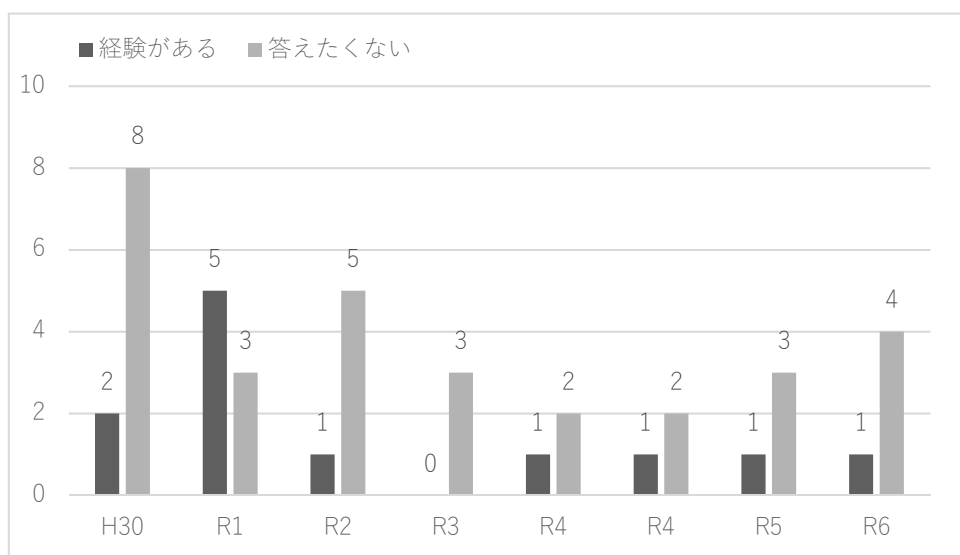


図1 ハラスメントについて

IV-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは21名から回答を得た。80%が「5 非常にそう思う」か「4 そう思う」のいずれかであった。

社会人入学者の自由記述は4件あった。

- ・人数が少なく、たまに予定通りではなく、先生のご都合に合わせることがあった。
- ・長期休業中などに集中的に行ってくださったり、オンラインで開催してくださったので、家族のことへの影響を小さくできた。
- ・受講者が決定してから授業中に開始直前まで、または1回目まで、授業な、スケジュールや受講方法が決まらないため、履修登録できた時点で前回後期とも暫定的な目安があると良い。
- ・長期休暇や土日の分散、オンラインの活用のおかげで、なんとか、子育てをしながらできています。ご配慮いただき、ありがとうございます。

IV-5 その他意見・希望について

この質問に対する自由記述欄には以下のような記述があった。

- ・保育・教育学専修の博士後期課程教員を増やしてください。
- ・OneDriveの機能で、大妻のアカウントでデータを保存できる機能が含まれていると助かると思った。研究するにあたって、データや動画、研究の記録など、様々なデータを格納する場所が必要になってきた。昔はUSBなどがあったが、クラウドに保存するのが1番安全だが、私物のクラウドはあつという間にいっぱいになってしまうので、本当はよくないと思うが、今は職場のクラウドに保存をしている。
大学のアカウントでOneDriveにデータを保存できるようになると、Wordのトランスクリプトも使えるし、セキュリティ上安全な場所にはデータを保存できるため、便利だと思った。いろいろ希望を書いてしまいすみません。ご検討いただければと思います。
- ・いつもありがとうございます。
- ・引き続きよろしくお願いいたします。

V. 大学院修了時アンケート（結果の概要）

V-1 大学院修了時アンケートの目的

このアンケートは、令和7年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に在学期間中の学修環境や体験・修得した能力について把握し、また自由記述による意見を集約することで、教育・研究環境改善につなげることを目的として、令和3年度より新たに実施した。

V-2 調査対象・方法・期間・回収状況

- (1) 調査対象：大学院修士課程及び博士後期課程修了予定者（満期退学含む）17名
- (2) 調査方法：Google フォームによる WEB アンケート
- (3) 調査期間：令和7年2月26日（水）～3月15日（土）
- (4) 回収状況：回答数 12 件 回答率 70.6%

※今年度、博士後期課程人間生活科学専攻・言語文化学専攻および修士課程現代社会研究専攻で修了者はいない。

	博士後期課程 人間生活科学 専攻	博士後期課程 言語文化学 専攻	修士課程 人間生活科学 専攻	修士課程 言語文化学 専攻	修士課程 現代社会研究 専攻	修士課程 臨床心理学 専攻
回答数	0	0	4	5	0	3

結果の概要は以下の通りである。

V-3 学修環境等についての評価

評価は表9の通りである。問1から問6までの各項目は4段階評価で「そう思う」4点、「ある程度そう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点として平均点を算出した。

表9 研究・授業、進路、学生生活についての評価

	回答数	問1 本学大学院在 学中は研究・ 学業に意欲的 に取り組まし たか	問2 開講科目の 数や種類は 十分でした か。	問3 授業内容 は、全体と して満足し ています か。	問4 研究指導や論文 指導について指 導教員から十分 な指導を受ける ことができました か。	問5 修了後の進 路は希望に 沿ったもの になりました か	問6 大学院での 学生生活に 満足してい ますか。
全平均	12	3.5	2.9	3.6	3.3	3.2	3.3
最高点		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
最低点		1.0	1.0	3.0	2.0	1.0	2.0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

問1から問6までの各項目の全平均は問2を除くと4段階評価でいずれも3.2以上とかなり高い評価が得られた。問2「開講科目の数や種類は十分でしたか」の全平均が2.9に留まり、この点で課題が残った。

V-4 大学院在学中に体験・修得した能力

知識や能力の向上に大きく役立ったことを表10に、在学中に修得した能力について表11にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表 1 0 知識や能力の向上に大きく役立ったことについて（複数回答）

	R3	R4	R5	R6
1 大学院での授業全般	70.0	50.0	78.6	83.3
2 指導教員による指導	90.0	75.0	64.3	83.3
3 研究活動	90.0	50.0	75.0	83.3
4 論文執筆	70.0	25.0	78.6	66.7
5 論文発表、最終試験	50.0	25.0	57.1	66.7
6 資格取得	0.0	12.5	25.0	16.7
7 院生時代に築いた人脈	50.0	50.0	53.6	41.7
8 その他	0.0	12.5	7.1	25.0
9 特に役立っているものはない	0.0	12.5	0.0	0.0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

知識や能力の向上に大きく役立ったこととしては、「大学院での授業全般」、「指導教員による指導」、「研究活動」がいずれも 83.3%と高い回答率を示した。また「論文執筆」と「論文発表、最終試験」も 66.7%と高かった。「特に役立っているものはない」の回答率が 0%であったことから大学院の授業と研究活動、それに対する教員による指導といった大学院生活の中核的な営みが院生の知識や能力の向上に確実に寄与していたと言えるだろう。

「資格取得」は 16.7%に留まっているが、カリキュラムが専門資格の取得に関連する専攻と、そうでない専攻があるため、全専攻の院生に回答してもらう必要があるのか疑問が残る設問ある。資格取得が重要な専攻にとって、回答率の結果があまり参考にならないため、今後、設問の見直しも必要であろう。

表 1 1 在学中に修得した能力について（複数回答）

	R3	R4	R5	R6
1 教養	30.0	12.5	35.7	75.0
2 ものごとを分析する力	90.0	50.0	64.3	58.3
3 問題を論理的に考える力	80.0	50.0	57.1	50.0
4 特定の専門分野に関する理解力	70.0	75.0	75.0	66.7
5 肯定的な意味で批判的に考える力	30.0	37.5	17.9	58.3
6 自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力	60.0	75.0	32.1	66.7
7 リーダーシップ	0.0	12.5	7.1	8.3
8 人間関係を築いたり調整する力	30.0	87.5	32.1	41.7
9 地域社会が抱える問題への関心や理解力	20.0	37.5	14.3	25.0
10 明快かつ簡潔に話す力	20.0	25.0	28.6	33.3
11 表現すべき内容の文章を書く力	50.0	62.5	46.4	41.7
12 英語以外の外国語の運用力	0.0	0.0	3.6	0.0
13 プレゼンテーションを準備し発表する力	60.0	50.0	53.6	58.3
14 学術的な文献の読解力	40.0	62.5	39.3	41.7
15 情報技術（ICT）の運用力	10.0	0.0	17.9	0.0
16 国際的な諸問題に対する関心や理解力	0.0	0.0	3.6	8.3
17 英語の運用力	0.0	0.0	3.6	8.3
18 ものごとの本質をみて判断しようとする力	50.0	37.5	28.6	41.7
19 自分を律して行動する力	40.0	37.5	25	33.3
20 得た知識やスキルを活かして問題を解決する力	60.0	50.0	21.4	33.3
21 これらの項目については特に伸びていない	0.0	0.0	0.0	0.0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

在学中に修得した能力については「教養」が 75.0%、「特定の専門分野に関する理解力」と「自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力」が 66.7%と回答率が高かった。また「肯定的

な意味で批判的に考える力」、「ものごとを分析する力」と「プレゼンテーションを準備し発表する力」が 58.3%となった。

これらの結果は、修了生の多くがカリキュラム・ポリシーに沿った教育を受け、ディプロマ・ポリシーに定められた専門知識や技能を修得したと評価しているものと考えられる。ただし、21 世紀の社会において指導的な役割を担うための「リーダーシップ」についてはまだ課題が残っていると言えよう。

V-5 教育全般についての自由記述

教育全般について、以下のような自由記述があった。

- ・言語学に関する授業、基礎を学べる授業がもっと欲しかった。
- ・日本語学を学ぶため、もっと様々な分野の教諭に学びたかったです。
- ・講義内で扱う問題が、修士論文の研究に直結している院生とそうでない院生の格差が激しく、研究の進捗において理不尽だと感じるが多かった。指導教員からプライベートに関する話を講義内で引き合いに出され、院生として指導を受ける内容との境界を曖昧にして指摘され、傷ついた。それから連絡を取ることが怖くなってしまい、研究のために教授と連絡を取ることも怖く、支障が出た。

VI. 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻D	令和7年2月15日(土)に対面方式で専修内修士論文発表会を実施し、その後に修士、博士課程の学生と教員の懇親会を実施した。遠隔地に居住し発表会に出席できなかった学生には、後日お菓子を配布した(健康・栄養)。修士課程の専修内発表会のときに博士課程の学生も教員との交流を促し、12月には博士課程の院生各自にお菓子を配布した(保育・教育学)。
人間生活科学専攻M (健康・栄養科学専修)	令和7年2月15日(土)に対面方式で専修内修士論文発表会を実施し、その後に修士、博士課程の学生と教員の懇親会を実施した。
(生活環境学専修)	在籍学生が1名であったことから、懇談会は実施しませんでした。
(保育・教育学専修)	6月と11月と2月に専修内での研究発表会を開催し、その時に院生と教員の交流を促すとともに、発表会にはオンラインでの参加の社会人院生も少なくないため、12月に院生各自にお菓子を配布した。
言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、令和6年7月18日(木)に開催した「日本文学専修院生研究発表会」終了後、日本文学専修の院生及び教員の懇談をおこなった。また、担当教員が学生からの意見や要望を普段から受け付け、適宜対処した。
(英語文学・英語教育専修)	10月31日(木)に対面で大学院研究発表会を開催した。会の後で院生・教員懇談会を開催して、院生から出された意見や感想を聴取した。
(国際文化専修)	令和6年7月1日(月)昼休みに大学院生および指導教員が昼食会をおこない、院生・教員懇談会とした。
現代社会研究専攻 (臨床社会学専修)	本年度は在籍している院生3名が全員社会人であるため、オンラインを活用しても一堂に会しての懇談会が実施できなかったため、各院生と主査・副査の教員を中心とした数名で、学生と懇談する機会を前期に持った。それに合わせるように院生間で懇親会を実施してくれており、互いの意見をそれぞれに交わした上で臨んでくれた。院生の意見を受け、多摩キャンパスの院生室の整備、備品等の運用・使用・調達手続き等を多摩・千代田の事務各部署と調整を行うことができた。千代田と多摩の2キャンパスの専攻であることを活かした院生との関りや懇談等を積極的に検討していきたい。

臨床心理学専攻	令和6年5月に新入生歓迎会を開催し、院生と教職員が交流した。また6月と3月の2回、大学院授業、臨床心理実習、院生室の環境や学生生活等について、大学院生から意見や要望、質問等を出してもらうように依頼した。その後、書面で提出された意見等(大学院生室のネットワークやプリンター、専攻内修論発表会の進行手順、院生室の空調の暖房の効きの悪さ、来年度入学の新 M1 の人数について)に関し、院生と大学院担当教員とでオンライン会議を開き、質疑応答と意見交換の時間を設けた。 その他、令和6年2月22日(土)には非常勤講師(スーパーヴァイザー)と院生の顔合わせと交流を目的とした懇談会/情報交換会を行うなど、昨年と同様に定期的な FD 活動を行い、その結果を大学院教育と院生生活の整備に還元している。
---------	--

Ⅶ. 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の参加状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「発表」は含まないものとし、別途、Ⅸに記載する。

専攻	活動類型	件数	内容
人間生活科学専攻 博士後期課程	学会参加	1 件	【保育・教育学専修】 第 63 回大学美術教育学会
言語文化学専攻 博士後期課程	学会参加	11 件	【日本文学専修】 日本近代文学会春季大会、昭和文学会春季大会、昭和文学会第 75 回研究集会、キリシタン学研究会第 5 回例会、2024 年度中国語学会大会、令和 6 年度第 40 回漢文教育研究会、黒海ギリシャ舞踏 zoom 講演 1,2、キリシタン学研究会第 6 回例会、2024 年度キリシタン文化研究会大会、特別講演会 伊藤博文の政治思想と実践、2024 年度中国語学会 3 月例会
人間生活科学専攻 修士課程	学会参加	22 件	【健康・栄養科学専修】 東京都栄養士大会、2024 年度コク研究会公開シンポジウム、第 71 回日本栄養改善学会、全国栄養士大会、第 78 回日本栄養・食糧学会大会、第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会、第 61 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会、第 43 回食事療法学会、第 37 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会、第 44 回食事療法学会、第 114 回日本栄養・食糧学会関東支部シンポジウム、日本調理科学会、日本食物繊維学会、日本機能性食品医用学会総会 【保育・教育学】 日本保育学会第 77 回大会、日本ホリスティック教育/ケア学会、保育実践学会、子ども社会学会、日本保育学会、日本保育者養成教育学会 【生活環境学】 美術史講座「日本の着物(1)明治時代の美術染織にみる孔雀図案の変遷」、令和 6 年度服飾文化学会研究例会
言語文化学専攻 修士課程	学会参加	2 件	【国際文化専修】 第 29 回フィリピン研究会、黒海ギリシャ舞踏～平和を願うタペ～
現代社会研究専攻 修士課程	学会参加	2 件	【情報コミュニケーション専修】 NHK 放送文化研究所調査報告会、NHK 放送文化研究所文研フォーラム
臨床心理学専攻 修士課程	学会参加	9 件	社会福祉士全国大会、児童青年精神医学会、青年期精神療法学会、社会福祉士実習指導者研修、第 41 回日本ソーシャルワーク学会大会、第 72 回日本社会福祉学会秋季大会、第 43 回日本心理臨床学会、日本心理療法統合学会 第 5 回学術大会、日本精神衛生学会

Ⅷ. 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「令和 6 年度大学院要覧」11 頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第 8 番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和 7 年 2 月 22 日に実施した。総勢 17 名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

令和6年度 修士論文発表プログラム (オンラインによる開催)

日時 令和7年2月22日(土)9:00開始(ミーティングへの入室は8:40から可)

開会の挨拶 青江 誠一郎 人間文化研究科長
総合司会 松村 茂樹 教務委員長

開始予定時刻	発表順	発表者	発表者氏名
9:00		松村茂樹 教務委員長プログラム説明	
9:05		青江誠一郎 研究科長あいさつ	
9:10	1	臨床心理学専攻	小池 優衣
9:27	2	臨床心理学専攻	今瀧 倫乃
9:44	3	臨床心理学専攻	大用 ゆきの
10:01	4	臨床心理学専攻	浜本 佳奈
10:18	5	臨床心理学専攻	森川 実花
10:35～10:45 休憩・接続確認			
10:45	6	言語文化学専攻 日本文学専修	栗田 優羽
11:02	7	言語文化学専攻 日本文学専修	大野 愛結
11:19	8	言語文化学専攻 日本文学専修	森 美幸
11:36	9	言語文化学専攻 国際文化専修	フ セイ
11:53	10	言語文化学専攻 国際文化専修	廣野 朱音
12:10～13:00 昼食休憩・接続確認			
13:00	11	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修	鹿野 紀美代
13:17	12	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修	西川 真由
13:34	13	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修	佐々木 春花
13:51	14	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修	北嶋 優衣
14:08	15	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修	根本 友梨
14:25	16	人間生活科学専攻 生活環境学専修	佐久間 桃花
14:42	17	人間生活科学専攻 保育・教育学専修	笠原 麻衣子

- ・持ち時間1人17分(発表12分、質疑応答・交代5分)です。発表開始から12分経過時、17分経過時が分かるよう、Zoom上でお知らせします。
- ・発表開始時間は進行状況により前後する場合があります。また、通信の不具合やその他の都合により発表が開始されない場合は、発表順を変更する場合があります。

【オンライン実施上の注意】

- ・Zoomを利用して開催します。ミーティングのURLは、別途送信するメール本文でご確認ください。
- ・Zoomの個人表示名は自身の氏名にしてください。発表者は氏名の前に「発表」の文字を入れてください。
(例: 発表 大妻花子)
- ・発表時、Zoomを接続している場所の周囲の環境音や、紙をめくる音などが雑音としてマイクに入ることがありますので、極力静かな環境で参加してください。
- ・入室時はマイクをミュートにし、発表順になったらミュートを解除してください。発表の2分前にはマイク・カメラを用意し、パワーポイント画面共有の準備をしておいてください。
- ・ご自身の発表時以外はマイクをミュートにしてください。カメラはオン・オフどちらでもかまいません。
なお、発表者への質疑時に発言する際は、マイク及びカメラを必ずオンにしてください。
- ・自分の発表以外は録音や録画をしないでください。

IX. 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和6年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.35 2025”に掲載される。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

専攻	発表形式	題目
人間生活科学専攻 博士後期課程	口頭発表	保育における遊びのリスクマネジメント
	口頭発表	保育者養成校における”造形表現”を学びほぐす ～アンラーン[unlearn]に関する一考察～
	口頭発表	保育者養成における学修転換に対する試み ―入学時オリエンテーションに焦点を当てて―
	口頭発表	子どもの〈つくる〉活動のプロセスの解明
	口頭発表	多様な素材との関わり―小学生の造形活動―
	ポスター発表	アートで叶えるイロイロ
	論文発表	子どものつくる活動のエスノグラフィー ～C クリエイティブ・アートラボにおける小学生男児の事例～
	論文発表	多様な素材との関わり―小学生の造形活動―
	論文発表	松戸アートピクニック 2024 和紙ぞめで作る、カラフルフラッグ
	論文発表	「クリエイティブ・リサイクルセンターKG」における取り組み ―造形表現ゼミと特別支援保育ゼミにおける教育実践―
	ポスター発表	保育者養成校におけるパネルシアターの授業への取り入れ方に関する考察 ―複数の授業実践の比較検討を通して―
	口頭発表	The New Effectiveness of Panel Theater in Special Education
	口頭発表	ストーリーメイキングのプロセスの検討 ―子どものパネルシアター体験の観察調査をもとに―
	論文発表	ストーリーメイキングの原点 ―乳幼児におけるパネルシアターの体験の観察をもとに―
	論文発表	学生の実態に応じた教員養成課程の授業計画の再検討 ―幼稚園教育実習終了時の学びの状況の把握から―
	ポスター発表	心理療法におけるポジティブ感情の相互的感情調節プロセスモデル構築と 実証的検討
	論文発表	妊娠期間中の食品摂取の多様性と産後うつ病との関連
	口頭発表	

言語文化学専攻 博士後期課程	論文発表	「長尾雨山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて」シンポジウム記録
	口頭発表	
	口頭発表	マニラに追放された日本人キリシタンと日本人町
人間生活科学専攻 修士課程	ポスター発表	腸内環境変化が小腸上皮細胞の水チャネル AQP3 の発現に与える影響
	口頭発表	栄養学生の日中の眠気に影響を及ぼす睡眠習慣と食生活との関連性
	口頭発表	健常成人におけるブルーベリー葉茶が睡眠に及ぼす影響 —ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験—
	口頭発表	もち性大麦摂取がストレプトゾトシン誘発性 2 型糖尿病モデルマウスの耐糖能および糖代謝関連臓器の遺伝子発現に及ぼす影響
	口頭発表	もち性大麦が 2 型糖尿病モデルマウスの耐糖能および糖代謝関連臓器の遺伝子発現に及ぼす影響
	口頭発表	「カワイイファッション」がポップカルチャーとして形成されていく様子と社会へ与えた影響
	ポスター発表	
	ポスター発表	保育者が”自分らしく”羽ばたくまで ～若手保育者の語りに着目して～
言語文化学専攻 修士課程	口頭発表	谷崎潤一郎に流れるワイルドの文脈——フェティシズムと女性表象
	口頭発表	台湾におけるサービス文化について
	口頭発表	宮沢賢治 心象スケッチ論—童話と春と修羅—
	口頭発表	A Student's Positionality as Seen through Her Language Learning History

X. 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「令和6年度大学院要覧」28 頁を参照されたい。

XI. 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	就職	・学校法人敬心学園 ・株式会社明治 ・株式会社TESホールディングス
	進学	・大妻女子大学 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修 修士課程 研究生 ・大妻女子大学 人間文化研究科 人間生活科学専攻 生活環境学専修 修士課程 研究生 ・大妻女子大学 家政学部食物学科 科目等履修生
言語文化学	就職	・株式会社末吉ネームプレート製作所
	進学	・法政大学大学院 国際文化研究科 国際文化専攻 博士後期課程

臨床心理学	就職	・めぐろ学校サポートセンター ・医療法人丹沢病院 ・八王子市教育委員会 ・国分寺市教育委員会 ・医療法人緑光会 東松山病院
-------	----	---

XII. 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。

また、「大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例」により勤務形態に配慮した教育研究体制を希望する学生の入学にあたり、入学先となる人間生活科学専攻教員への周知体制を強化した。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

XIII. 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成 23 年度入学生より、「中間発表会（旧研究計画発表会）」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

XIV. その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

ティーチング・アシスタント等について

ティーチング・アシスタント等に 任用される大学院生・研究生	担当授業科目					
所属・学年等	開講学科等	授業科目名	授業担当 教員名	開講 時期	開講曜日 ・時限	開講 校地
人間生活科学専攻 (修士課程) 1 年	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	実践統計学	清原 康介	後期	水曜 3 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	化学基礎実験	鈴木 優志	後期	金曜 3、4 限	千代田校
言語文化学専攻 (修士課程) 2 年	文学部 英語英文学科	Speaking (Basic) A	BARR, B.	前期	水曜 4 限	千代田校

	文学部 英語英文学科	Speaking (Intermediate) A	BARR,B.	前期	木曜 3 限	千代田校
	文学部 英語英文学科	Speaking (Basic) B	BARR,B.	後期	水曜 4 限	千代田校
	文学部 英語英文学科	Speaking (Intermediate) B	BARR,B.	後期	木曜 3 限	千代田校
臨床心理学専攻 (修士課程) 1 年	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	キャリア心理学セミナー	本田 周二 八城 薫 三好 真	前期	水曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法	本田 周二 三好 真	前期	木曜 1、2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	西川 千登世	後期	火曜 5 限	多摩校
臨床心理学専攻 (修士課程) 2 年	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	社会・臨床心理学基礎セミナー	八城 薫 三好 真 吉澤 良美	前期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	伊藤 尚枝	前期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	西川 千登世	前期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学統計法	八城 薫	前期	火曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学統計法	中村 紘子	前期	火曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法	田中 優 大久保 暢俊	前期	木曜 1、2 限	多摩校

	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法基礎	田中 優	後期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法基礎	伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法基礎	中村 紘子	後期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	伊藤 尚枝	後期	火曜 3 限	多摩校

XV. おわりに

今年度も、「大学院進学意識に関するアンケート」、「大学院の研究・教育に関するアンケート」「大学院修了時アンケート」の3種類を実施した。評価を点数化し経年変化をみる集計方法も継承し、自由記述も基本的には概ねそのままを掲載した。

アンケートの回収率は「大学院進学意識に関するアンケート」が 81.8%、「大学院の研究・教育に関するアンケート」が 85.7%と十分な回答を得ることができた。しかし「大学院修了時アンケート」は 70.6%に留まった。修了時は大学院生にとっても教職員にとっても年度末の非常に慌ただしい時期ではあるが、大学院の FD 活動として修了生の意見を聴取することは非常に重要であるため、少なくとも 80%を超える回収率を目指す必要があるだろう。

さて3種類のアンケートを振り返ると、4 件法や 5 件法で回答してもらった設問は、概ね高い評価を得ていた。それらの諸結果を入学から修了までの流れで見ると、大学院進学にあたって学生が重視したのは「指導を受けたい教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「研究したいことがあること」などであり、さらに進学にあたって影響力のある情報源となったのは「指導教員になる教員との相談」であった。このように指導教員となる可能性がある教員の影響が強いことが分かる。在学中の院生のアンケートからは、授業の水準への評価が高く、専門知識等を習得する上で十分な意義を感じており、研究指導や論文指導のあり方も高く評価していることが示された。そして修了生は、授業内容に全体として満足しており、研究指導や論文指導について指導教員から十分な指導を受けることができたと評価し、大学院での学生生活に満足している、とのアンケート結果であった。このように入学前から修了まで一貫して授業の専門性と、研究・論文指導など教員の指導が院生にとって非常に大きな影響を与えることが改めて確認できた。当然のことながら、学部生よりも大学院生の方が指導教員や副指導教員と緊密な関係にあり、相互に非常に強い影響を及ぼしながら学んでいる。それだけに指導教員と院生間に不和が生じたり、ましてやハラスメントもしくはハラスメントに近いことが生じたりすると多大な負の影響を及ぼすこととなる。残念ながら今回もハラスメントあるいはそれに近い状況が存在していることが推測された。大学院担当の教員は自らが院生に与える影響の大きさを改めて自覚するとともに、引き続き研究科全体としてハラスメント防止に向けて組織的に取り組んでいく必要がある。

次に自由記述への回答をみると、今年度も院生室への不満が大きいことが明らかであった。昨年度は多摩校のプリンターやネットワークの不調に対する不満が多かったが、今年度

はそれに加えて千代田校の院生室の使い勝手に関する不満の声が多く上がった。千代田校に関しては院生室移転による一時的な混乱によるものであるのか経過を注視しつつ、案件によっては速やかに対応をする必要があるだろう。一方の多摩校のプリンターやネットワークの不調は大学院配賦予算の少なさやネットワークの構造的問題が絡んでいるものの、大学院生室の環境がよりよい研究活動を支える基盤となるため、速やかな対応を求めたい。

今後も継続的な FD 活動を通じて、本学大学院の教育の質を向上させると共に、大学院生にとって豊かな学びを保証する場であり続けられるよう尽力したい。

以 上

Ⅱ 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD 講演会：学士課程教育のカリキュラムマネジメント

講師：青山学院大学 教授 杉谷 祐美子 氏

日時：令和6年7月31日（水）16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催

令和6年度 前期 FD講演会

学士課程教育の カリキュラムマネジメント

学士課程教育のカリキュラム改革を進めるにあたり、近年の動向や体系的な編成などについてお話しいただきます。

【日時】

＜開催方法＞
Zoom
URLは
UNIPA配信

7月31日（水）
16:30～18:00

講師 青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授
杉谷 祐美子 氏

略歴 早稲田大学第一文学部哲学科教育学専修卒業。早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。
青山学院大学文学部専任講師、准教授などを経て2015年4月より現職。
専門は高等教育論、教育社会学。
文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員、
文部科学省中央教育審議会大学分科会質保証システム部会臨時委員、
公益財団法人日本高等教育評価機構評価システム改善検討委員会委員
などを歴任。

著書 『学士課程教育のカリキュラム研究』（東北大学出版会、2021年、串本剛編）、
『よくわかる高等教育論』（ミネルヴァ書房、2021年、橋本鉱市・阿曾沼明裕
編著）など

主催：大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

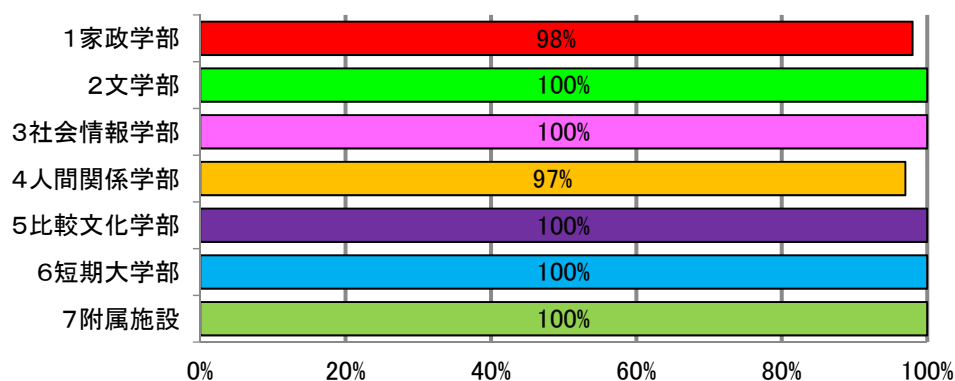
FD 講演会アンケート集計結果

- < テー マ > 学士課程教育のカリキュラムマネジメント
 < 講 師 > 杉谷祐美子氏(青山学院大学 教育人間科学部 教授)
 < 開催方法 > Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
 < 開催日時 > 令和6年7月31日(水) 16:30~18:00
 < 録画配信 > 令和6年8月6日(火) ~ 公開中
 < 回答期間 > ①令和6年7月31日(水) ~ 9月12日(木) 0:00
 ②令和6年9月12日(木) ~ 9月30日(月) 23:59 (専任教員未回答者対象)
 < 未回答者 > (専任教員) 家政学部1人、人間関係学部1人
 (研修等除く)

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	23 人	42 人	65 人	66 人
2 文学部	5 人	32 人	37 人	37 人
3 社会情報学部	16 人	17 人	33 人	33 人
4 人間関係学部	12 人	21 人	33 人	34 人
5 比較文化学部	7 人	12 人	19 人	19 人
6 短期大学部	12 人	11 人	23 人	23 人
7 附属施設	8 人	12 人	20 人	20 人
8 非常勤講師	18 人	83 人	101 人	
9 助手	2 人	13 人	15 人	
10 事務職員	0 人	1 人	1 人	
合 計	103 人	244 人	347 人	

【所属別参加率】(専任教員)

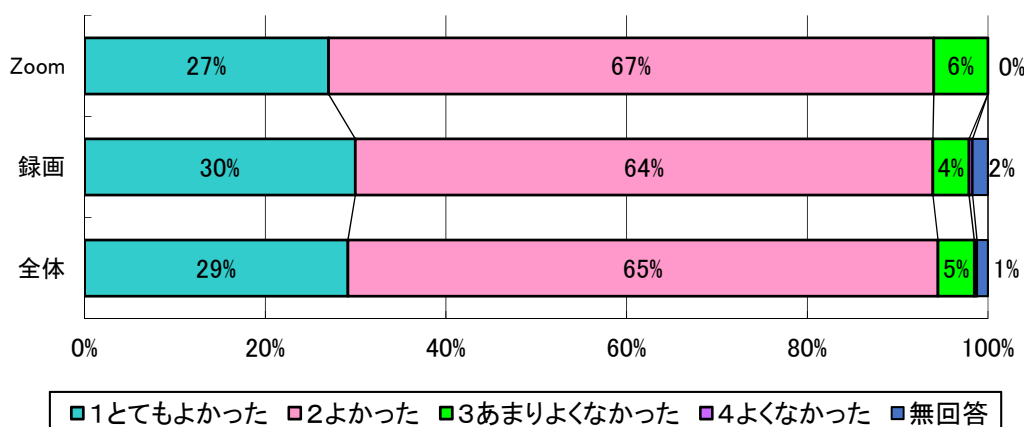


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 347 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

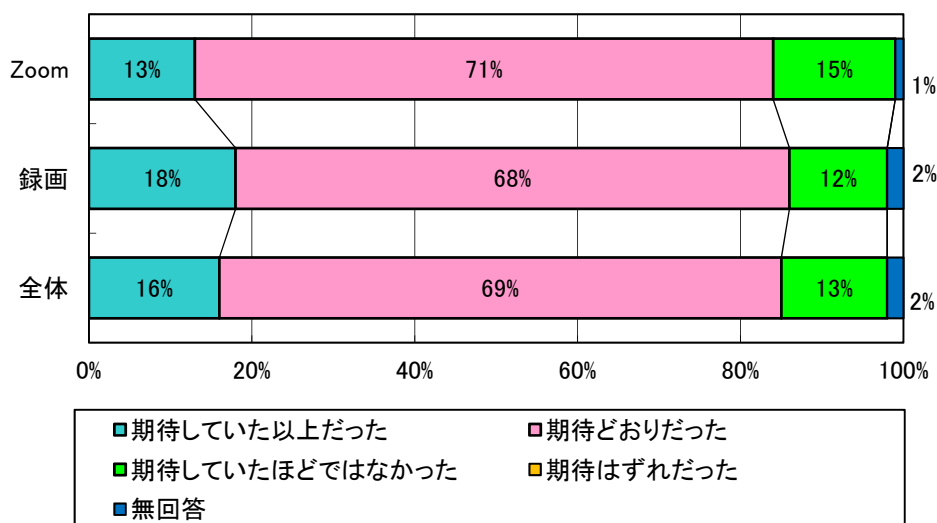
（１）講師について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 とてもよかった	28	(27%)	72	(30%)	100	(29%)
2 よかった	69	(67%)	157	(64%)	226	(65%)
3 あまりよくなかった	6	(6%)	10	(4%)	16	(5%)
4 よくなかった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	0	(0%)	5	(2%)	5	(1%)



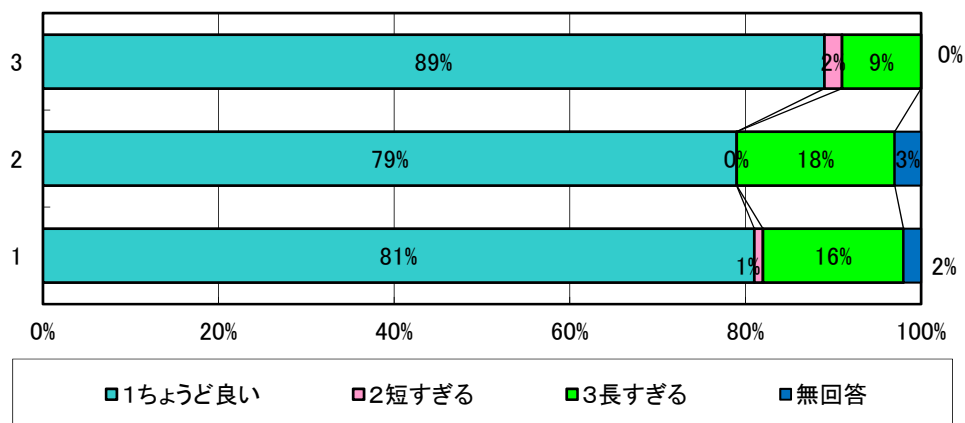
（２）内容について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 期待していた以上だった	13	(13%)	44	(18%)	57	(16%)
2 期待どおりだった	73	(71%)	167	(68%)	240	(69%)
3 期待していたほどではなかった	16	(15%)	29	(12%)	45	(13%)
4 期待はずれだった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	1	(1%)	4	(2%)	5	(2%)



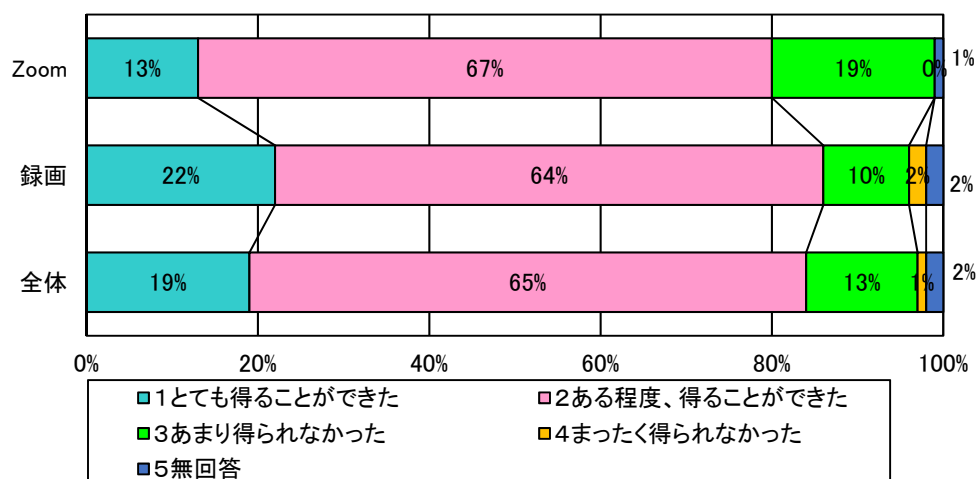
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	92 (89%)	191 (79%)	283 (81%)
2 短すぎる	2 (2%)	1 (0%)	3 (1%)
3 長すぎる	9 (9%)	45 (18%)	54 (16%)
無回答	0 (0%)	7 (3%)	7 (2%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とても得ることができた	13 (13%)	54 (22%)	67 (19%)
2 ある程度、得ることができた	69 (67%)	157 (64%)	226 (65%)
3 あまり得られなかった	20 (19%)	24 (10%)	44 (13%)
4 まったく得られなかった	0 (0%)	4 (2%)	4 (1%)
無回答	1 (1%)	5 (2%)	6 (2%)



(5) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	45 (6%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	92 (12%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	113 (15%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	132 (17%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	94 (12%)
6 初年次学生の教育支援	80 (11%)
7 配慮が必要な学生の修学支援	133 (18%)
8 キャリア教育・進路指導	69 (9%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・今回の講演は理念的な説明が中心であったので、次回はカリキュラム編成や運営上の問題点の具体的な改善例や、先進的なカリキュラム改定の実践例について話を聞いてみたい。
- ・カリキュラムの改定を検討しているので、どのような視点に注意していったらいいのか、おおいに参考になりました。これまで検討してきた方向性は、講師の先生が示してくださった研究史のなかに位置づけられるのだなと確認できました。学部の壁を超えるというのは、ぜひ今後検討していったらいいと思いました。なお、学部のカリキュラム改革にあたっては、教員たちとの協力体制を構築するのが実は一番難しいと感じているのですが、それをどのように構築していくのがよいのか、アドバイスをいただけたらなと思いました。特に「何も変わらないのが楽でいい」と考えている先生方をどうやって巻き込んでいったらいいのか、悩んでいるところです。
- ・他大学でもいいのですが、より良い学部学科間の共同学習やカリキュラムの実践について知りたいです。
- ・審議会等の議論の枠を超え、講演者のより実践的、体験的な内容を望みます。
- ・教育工学的な授業設計の方法（今回のカリキュラム設計の基礎になると考えます）
- ・「大学の組織風土改革と大学のガバナンス」組織文化については、経営学の分野においては1990年あたりから取りざたされてきているが、上司の部下に対する権限が強く、全体がピラミッド構造となっている企業組織においてもその変換・変革は容易ではないのであり、まして教員間の横のつながりで組織されている大学組織における組織文化の変革は至難の業であると思われる。しかし、競争の激化の中でいずれ強く求められることとなろうから、この分野での研究成果についてももう少しお話を聞きたいところであった。また、組織文化の背景には組織ガバナンスの問題があることから、次回はそれと合わせての講演を期待したい。

[国の高等教育・教育改革の動向]

- ・データサイエンス学部も新設されますし、AIやビッグデータを利用した研究や授業、社会のニーズについて紹介してください。
- ・小・中学校教員の理科指導力の低下について、指導力の向上の方策、国の動向など
- ・大学におけるSDGsの取り組み

[本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・学生の学びを保証できる授業のつくり方など。
- ・Fランク大学で、学生や保護者の満足度高い教育プログラムの事例を参考にしたいと思います。
- ・期末試験やレポートなどの提出されたものに関して、フィードバックが必要とされる大学が多くなりました。大人数のクラスでどのようにフィードバックを行うべきか、事例など挙げて、方向性や期待されるフィードバック方法などを紹介してもらえれば大変ありがたく存じます。（少人数のクラスに関しては個々にフィードバックを行うことが可能ですが、大規模クラスになると成績評価だけでも時間がかかるなか、全体フィードバックなどの方法でしか時間的・労力的に余裕がありません。期末試験で答え合わせなどができるものはよいのですが、期末レポートの場合、時間的に個々にフィードバックするのはかなり困難です。非常勤にとっては、勤務時間と単価の釣り合いが取れているとは言い難い状況にあるのが実情です。）

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・女子大学における学生たちへのエンパワーメントとジェンダー教育についての、他大学等の具体的な実践例を知りたいと思います。
- ・女子教育に関する知見が得られる講演を期待したい。
- ・いつもテーマを決めるのに大変な思いをなさっていることと思います。いつもありがとうございます。前回のChatGPTの使い方や、大妻にあるreponの使い方のように、授業の促進力になるような講座を受講したいです。あるいは今の就職状況など、学生の就活の仕方など「今」を知る機会もあったらと思います。

- ・家政学部の児童学科では、自前の化学実験室がありません。他の大学では、実験室の確保をどのようにしているのか。また、実験用の予算はどのように確保されているのか？大学は研究する場所なのですが、研究費と学生実験費をどのように考えているのか、他の大学の例があれば、参考にしたいと思っています。以上

[初年次学生の教育支援]

- ・学生の学びを保証できる授業のつくり方など。
- ・教養科目と専門科目の接続が重要だと今回のFD研修で学びました。初年次学生への支援、あるいはキャリア・進路など卒業後に向けてのサポートのあり方について、具体的にお伺いできると、今回の内容が深められて良いのではないかと思います。

[配慮が必要な学生の修学支援]

- ・配慮が必要な学生の修学支援の具体的な在り方がよくわからない。本学の中の指針を知りたい。また、同じ科目の別担当者と、授業内容が異なり、達成目標が異なる場合、成績評価の方法等で不公平になるかもしれない。また、他教員の達成目標が同じでも評価基準にかなりの高低さがある場合、学習効果を同等とみなせるのかなど、同じ学科の同じ科目名の授業の足並みをきっちりそろえる方法を知りたい。
- ・配慮が必要な学生支援に関連して、最近の本学ならびに他大学での現状と課題、具体的な支援についての研修を受けたいと思っています。

[キャリア教育・進路指導]

- ・高校の教育および進路指導の現状。先日的高大連携協議会の内容は、これと同様の位置づけ（視聴義務化）をしてよかったように感じます。
- ・正課であるキャリアデベロップメントプログラムやキャリアデザインの授業は全学的に同じ方針で授業運営がされており、毎年一定数の学生が受講していて成果を挙げています。しかし正課外のOMAは担当教員が相当に尽力しているものの受講者が頭打ちの感があります（特に多摩校）。他大学で正課外のキャリア支援教員の好例について取り上げていただけるとありがたいです。
- ・大学と地域との連携やボランティア活動の推進について

[その他]

- ・どのような分野でも、通常お聞きできない話に触れることを感謝しています。ありがとうございました。
- ・上記のどれかにチェックを入れないとエラーになるのでひとまずチェックをしましたが、「その他」です。テーマというより、教職員が直接話したり交流するような会にしなくていいのかな？という気持ちがあります。それぞれがそれぞれの考えと立場で取り組んでいることを尊重しつつ全体としてよい方向に進むためには、もう少し直接話をしなくてはいけないのではないかと思います。教員もそうですが、職員も含めて全く仕事以外の顔が見えません。ぶっちゃけ何を考えているかわからないなかで「お立場」だけの付き合いをしたところで、なし得る仕事は官僚的なものでしかないのかなとは思います。

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・ご講演ありがとうございました。たいへんまとまったお話で整理に役立つものとなります。
- ・特に学期制について記憶に残った。自己推薦の入学者多い状況ですので、集中的に学びを深めるために週に1回ではなく複数回授業を実施した方が、特に1年生には良いように思える。
- ・講義50分前後にある目標についての話が参考になった。行動目標だけを見ると教育内容が矮小化してしまうという講師の考えに賛同できる。私の分野である英語教育では「英語が出来るようになる」という行動目標が求められるが、そもそも日本語話者が文法・語彙・音韻体系が全く異なる英語を習得するためには一日数時間の学習が必要とされるという事実が専門家の間では認知されている。1週に2コマの授業では行動目標達成は難しい。講義で述べられている、方向目標、体験目標であれば現在の授業時間でも達成できる。実際その目標の下で教育を行ってきた。
- ・今回のFD講演会のテーマについて、特に必要性を感じていたので興味深く拝聴しました。ご講演の中で特に注目したのは、「カリキュラムマップの作成と活用について」です。精緻に作成することの必要性は言うまでもありませんが、その活用の際には当然学生の理解を伴わなくてはならず、それが学生の負担を増すことになることは避けねばなりません。そうした有効性を持ちながら負担とならない境界を求めて行かなければ、とあらためて強く感じました。
- ・ありがとうございました。現状を認識することができました。
- ・大変勉強になりましたが、アンケート内容に関しては今後、回答欄に「該当しない」というような項目をお作りいただけると助かります。授業をお持ちの先生・助手が対象のため、授業を持っていない助手なので回答に困る部分がありました。
- ・カリキュラム構築の理論について学べた。
- ・文理融合について関心がありましたので、その件についてのお話に興味がありました。あとは内容が少々、カリキュラムマネジメントそのものの研究についてのお話になってしまったので、内容が理解できない点がありました。具

体的な事例を示していただくと、より理解しやすかったと思いました。

- ・現在のカリキュラムを改善していくには、教員間の合意形成が重要であることが確認できました。一方で、受講者数の非常に少ない授業が散見される実態をだれがどのように改善につなげていけるのか、実効性に無理があるような印象です。属人的な授業編成のもとに現状があり、必要な（求められる）授業を担当できる教員ばかりではないことをどう解決すればいいのか、わかりません。
- ・後日視聴でしたので、リアルタイムでの質疑応答があったのかと思っておりました。他の先生方のご意見も伺いたいと思います。
- ・所属学部のカリキュラム編成、また、学部横断的な授業について、あらためて考えさせられた。学部横断的な授業を新設する際にも、各学部に丸投げするだけでなく、全体のデザインを統括的に検討してほしいと感じる。
- ・6. の設問への回答は「授業を担当していないため」で、講演内容に関することではありません。
- ・可視化される到達目標だけを設定することの問題点が印象に残りました。
- ・とても高尚なお話して理解が追いつきませんでした。資料などいただけますと振り返りができるかと思います。

⇒8/6 に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・多種多様な視点から学士教育のカリキュラム編成の方法とマネジメントとの関係を理解することが必要だということに気づきました。これから実際にカリキュラムの再編を考えるときに、このような視点を活かしていければと考えています。
- ・大学におけるカリキュラム編成の現状や、カリキュラムマネジメントという概念について、情報の共有をありがとうございます。講演内容はまだ消化できてはいませんが、学生本位のカリキュラム構成の構築・授業設計ということについては、共感するところが多いです。特に、授業の目標・評価・進め方を、互いに有機的に関連させた「三位一体」の授業を行うことは重要だと思います。また、私自身はシラバスで行動目標を設定してはいますが、授業準備及び、試験作成・評価の段階では、向上目標や体験目標も視野に入れて実施していることに気づきました。そのあたりをさらに意識化して、今後のシラバス作成や授業のやり方に役立てられればと思いました。
- ・カリキュラムマネジメントの必要性について関心を持って伺うことができた。しかし3 ポリについて評価できる表現、内容、すなわち数量化や客観的なエビデンスを求めることが難しい理念や概念もあったことから見直しを進めなければならぬと常に思う。DP と CP の策定にあたって、両者の整合性が難しく課題として残っている。
- ・私たちの学部ではカリキュラム改革が進行中なので、その部分に関係するを通して、細かい事を知ることができました。ただし、制度的、理論的な紹介が全体的に多く、もっとカリキュラム改革の具体例（他大学等の）を紹介してほしいと思いました。
- ・大学教員として教務関係の仕事をこなすなかで経験的に蓄えてきた知識をこのように体系的な説明として聞く機会がこれまでなかったので、いろいろと参考になった。特にカリキュラム編成や運営上の諸課題が他の問題との関係でどのように位置づけられているかなどを改めて確認することができた。
- ・カリキュラムマネジメントの歴史的な背景から現在、今後に向けて、非常に分かりやすい説明でした。
- ・大学教員として日常的に実践している全体像を客観的に捉えるために今日の講演会は役立った。しかし、大学での教員養成課程を経て教職免許を取得し学習指導要領にしたがって検定教科書を中心に標準的・画一的に授業を実施し児童・生徒指導を行う初等中等教育（小中高）の教員と、教員養成課程を経ることもなく多様な専門分野の研究に基づいて独自に授業を組み立てて学生を試行錯誤しながら教授する高等教育を担う大学教員との根本的な違いを無視して、初等中等教育のカリキュラムマネジメントをそのまま大学教育に適用してカリキュラムを運営しようとする方向性には、かなり無理があると思われるので、実際に学生教育にあたる大学教員が、今日の講演をどのように日常的教育研究に活かしたらよいか正直なところわからない。
- ・時間の制約もあったようですが、大変に勉強になりました。カリキュラムマネジメントの評価手法（チェックシートなど）の内容説明をもう少し詳しくお聞きしたかったです。
- ・今回の講演会で、カリキュラムに関する大学施策の展開およびカリキュラム編成の現状を理解した上で、カリキュラムマネジメントについて考えることが出来ました。特に、カリキュラム編成の構成要件である（2）構造 シークエンスの内容は学習で得られる「経験・理論・気づき」を系統制のある言語でまとめたもので、専門領域の積み上げを考える上でとても参考になりました。
- ・学士教育を考える上で大切なポイントを得ることができた。
- ・教育目的や教育目標に関するお話等、今後の授業設計やシラバス作成の際に参考になる点がありました。
- ・学科長（など）のリーダーシップの下で全教員が参画して合意形成する重要性、そのために十分な時間をかけることが必要であることなどを再認識しました。また、カリキュラムを作ること自体が目的になりがちだが、学生の教育成果を高めるためであるという本質を疎かにしてはならないと感じた。
- ・散漫な印象を受けた。アドミッションに関する視点が軽視されているのも気になった。また、方法論がどのように検証されているかの言及もなく、参考にならないと感じた。
- ・いくつかの分類項目の提示とタイプについての専門用語の提示があったおかげで、これまで所属学科のカリキュラム編成で行ってきたことを、特定の用語でより簡単に説明し、より明確に位置付けられるようになったと思われる。具体的には、所属学科について、（1）目標は学科の教育理念をコアに据え、「社会的要請」（ただし実業界の実務的な意味での要請ではなく、近代化が進む社会が求めるもの）に基づくものであること、設定しているのは「到達目標」ではなく「方向目標」であること、（2）スコープについては、学科理念に照らして社会科学と自然科学の組み合わせによる複

- 数の学問領域とした総合的な内容であり、理論と実践を組み合わせ、また正課と正課外の両方にまたがること、(3) シークエンスについては「並行型」であること、(4) 履修原理については、「経験主義」に基づきながらも必修、選択必修を多くし、「共通性」(学生の好みに依存して特定分野のみの学習とならないこと)を確保していること、(7) これら进行评估するために「ポートフォリオ」を採用していることと表現し、位置づけることができる。そして、こうした用語を適用することで、目標やスコープ、シークエンス、評価方法の間に一貫性があることを改めて確認することができた。また、本学科においては日本家政学会の家政学の定義(「参照基準」が作成される以前から存在する)や「家政学ガイドライン」に基づいて学科理念の設定やカリキュラムの改訂を行ってきており、「参照基準」に基づいてのカリキュラム編成が全国的に弱いとの統計結果は意外なものと思われた。学科のカリキュラムが「参照基準」のような専門的学問分野のコアから乖離しすぎると、流行を追って安定を失うことになりかねないので、本学各学科・専攻における「参照基準」の参照の有無はどの程度のものか、企画・戦略室が一度チェックしておく必要があるのではないのか。
- ・毎回、タイムリーなテーマを取り上げてくださり、感謝申し上げます。
 - ・カリキュラム改訂などが問題になっている現時点において、どのように進めていったらいいのかについて、授業の内容とマネジメントの視点から体系的な説明があった。これまで事例や体験など個別化されていたものの全体像について知ることができたのは良かった。ただ抽象化された話が多く、具体的に何を意味するものかわからない事柄も多かった。
 - ・栄養士、管理栄養士養成課程の法律の制約があつて、活用するには難しいと感じました。
 - ・カリキュラムマネジメントに関し、キャップ制のより厳格な適応と、1 授業に関する 1 週間あたりの開講数の複数化を行わない限り、学生の受講授業数が 10 を超える状況を変えることはできない。この状況を制度的に改善しなければ、学生に対し一定量のリーディングアサイメントなどを課すことなどは実質的に不可能に近いし、結果として密度の高い学習に到達することが困難だと考える。
 - ・カリキュラムに関する大学政策の展開のこれまでの流れについては、とてもよく理解できた。またどのような考えの元にどのような政策が展開されてきたのかも、ある程度理解でき、有意義な時間を過ごすことができた。【感想】(1) このような政策で一斉に動かしてしまうと、理念とは逆に多様性を奪うことになっていないか気になった。(2) 世界の高等教育の中での日本の位置付けについても、お話をお聞きできると良かった。海外、特に欧米の高等教育機関との互換性なども気になる。
 - ・少子化問題が益々深刻になる中で大学教育の質を向上していく為に何が必要か、具体的にカリキュラムに取り込むかについていろいろ考える時間でした。最近の制度や方針、そして基準から教育現場の変化などを知ることになり、大変勉強になりました。
 - ・自分の業務にあまり関わりがないと感じている内容と思いました。
 - ・カリキュラム編成の構成要件など、全体像についてもう一度確認できる機会になった。
 - ・教育課程の編成において、学院全体で話しあうことで魅力を構築できるのではないかと感じた。
 - ・学部、学科、専攻の垣根を超えたカリキュラムマネジメントは重要だと思うが、具体的な方法が思い浮かばない。
 - ・学部や学科を超えた取り組みの重要性。ただし、免許が絡むとできないものが多く、そのあたりの改善が求められる。全学共通科目と専門科目の関連性の検討などが必要とかんじた。
 - ・学士課程教育のカリキュラムマネジメントの基本がよくわかりました。時代に応じた大学の教育の在り方を遂行できるよう努力したいと思いました。
 - ・私は非常勤講師ですので貴学のカリキュラムの編成やマネジメントに直接関わる立場にはありませんが、今回のご講演で示された方向性や考えが将来的に貴学のカリキュラムにどのような形で反映されることになるのか、非常に興味深くお話を伺いました。また、カリキュラム編成の構成要件の中でお話されていた教育目的、教育目標における行動目標の批判とその代案としての方向目標、体験目標という考え方はとても印象的でした。今後授業案を考えるときに参考にしたいとお思います。
 - ・とても高度で抽象的な事柄についても講師の先生は分かりやすく説明されていて、ありがたく拝聴しました。
 - ・カリキュラムの策定を含めマネジメントをどこが主体で行うのか、各学科教員だけが行うのは、教員負担が大きくなりサポートする部署が必要と思います。また、形骸化がとても心配です。
 - ・カリキュラムの多様性について、本学は「原則対面授業」へ向かっていますが、一部オンデマンドも残してもよかったのかなと思いました。
 - ・カリキュラムマネジメントのポイントがよく纏められており、参考になりました。「大学教育ですので、行動的局面向けに現れる矮小化されたような到達目標だけを設定していて良いのか」「私自身とても疑問に思っている」という杉谷先生のご指摘に非常に同感しました。カリキュラム改訂の際の「大学における合意形成を促すリーダーシップの重要性」も印象深かったです。
 - ・この講義をありがとうございました。カリキュラム管理の現状、特に過去 10 年間でどのように進化してきたかについて、とても示唆に富んでいました。質問があります。現在の日本の大学教育におけるカリキュラム・マネジメントの実践が、2020 年から 2023 年にかけての新型コロナウイルス感染症の影響をどの程度考慮しているのか、気になっています。教育機関が 2019 年に戻ろうとしているような感覚を持っています。しかし、緊急事態措置により、誰もがオンラインで仕事や学習を余儀なくされ、学生の出席率や成績が著しく低下しました。学生はオンラインに追いやられ、十分な学習スキルが身に付かないままでした。コロナは教育の歴史における一時的な出来事ではありません。コロナは大きな転機であり、大学教育はこの新しい状況に適応する必要があると考えます。そうでなければ、学生、教育者、管理者

の全員が苦しむことになるでしょう。現在のカリキュラム・マネジメントにおいて、コロナの影響を強く認識した取り組みがどのように行われているのかを知りたいです。

- ・学内で教職員が協働する文化を醸成していくこと、我々意識を持つことの重要性の指摘が記憶に残りました。人間関係学部内での学科・専攻間の垣根をどうしていくのか、昔から議論になっていますが、まずもって我々意識からスタートする必要があるように感じました。
- ・「何を教えるか」より「何かできるようになるか」に重きを置こうとする近年の大学教育の潮流に関して、個人的には実業界からの要請に迎合しすぎているという感じで、どこか懐疑的に受け止めていた。そんな中、講師が外面的に表出された（客観的に測定可能な）行動変化に目を奪われすぎることが、かえって大学教育の本務に反するという趣旨のことを述べられているのを聞き、わが意を得たりという思いでした。これまでモヤモヤとした疑念にとどまっていた自分の感覚について、明確な形で言語化していただいたような気がします。
- ・カリキュラムの見直しはある程度できるが、カリキュラムを変えるのは難しいと感じています。カリキュラム変更をするにあたっての具体的なコツをもっと知りたいと思いました。
- ・講義を担当する者として、俯瞰の視点を与えて頂き本当に良かったです。学生・受講生が能動的に参加して動き出せるような授業内容を工夫して参りたいと思います。貴重な助言をありがとうございます。
- ・講師の杉谷先生が資料が事前配布されているとおっしゃられていたので事後でも良いので配布ください。

■8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・今回はカリキュラムマネジメントに関わる大局的で理論的な見地を得ることができた。理論的な部分をしっかりと理解するには90分では短いと思うので、同テーマで部分部分に分けてシリーズで行っても良いかと思いました。
- ・近年の審議会等の議論をふまえた、全体の方向性や全体像が把握でき、勉強になりました。多くの大学が共通して抱えるカリキュラム・組織文化の改革の課題につき、具体的な実現例などがあれば、参考になります。
- ・大妻で非常勤を長くやらせてもらっていますが、カリキュラムマネジメントに関して詳しく聞く機会がありませんでしたので、いい機会で勉強になりました。自分が企業での技術教育を長く行ってきた経験から、大学教育はまだまだ知識教育から抜け出せていないと感じています。今の時代は、知っていることより出来るようになることが、学ぶ者の最大の喜びだと思います。また大学教員がそもそも研究者であるので、教育方法や学習指導など直接学生に対する活動に関して自分の力をつける、研究する機会を持たないことが、大きな問題のように思います。
- ・履修証明制度について、他大学の同好について詳しく知りたかった。
- ・大学における「マネジメント」のポイントがよくわかりました。
- ・所属する学科で新カリキュラムを作成しているため、ご講演から考えさせられることが幾つかあり参考になった。とりわけ、専門科目の早期導入による「教養科目に対する教員および学生の軽視増加」という点ははっとさせられるものがあった。学科の特性を打ち出そうとするほど、いわゆる教養科目の軽減化が進むというジレンマは確かにあると感じた。別の項目では、他の大学でも学期あたりの授業回数（現在15回）に対する検討が成されていることについても興味深く思う。100分授業とし、学期あたりの回数を減らすという試みもありかもしれないと感じた。アクティブラーニングについても言及があったが、これを進めたい意思は強くあるが、ゼミ以外受講生が60、70名と数十名を超える授業しかなく、学生へのフィードバックを十分に作る時間も労力もない現状から、アクティブラーニングを推し進めるのであればやはり履修生数の制限や少人数化を真剣に推し進めなければならないと感じるが、教員数や授業開講コマ数、教室稼働率を考えると難しいだろうともどかしい。
- ・日本の大学におけるカリキュラムマネジメントの全体像と実態とを俯瞰することができ、本学における教育を考える上で、大変参考になりました。またツールを作成する際、作り込んでしまっただけでかえってわかりにくいものになってしまうことや、作ったことで満足してしまうといった話にはリアリティを感じました。学生と共有し、学びの道筋が理解しやすくなるための「コミュニケーションツール」という言葉に、大いに納得した次第です。貴重な講演ありがとうございました。
- ・マネジメントの話のなかで「ミドル」というワードがよく出ていたが、本学は理事長と学長とが同一人物によって運営されているなか、「ミドル」が上意下達の結節点／翻訳者／中間管理職にはなり得るが「ミドル」の主体的な取り組みが組織化されることはあるのかな？その方途とは？と疑問には感じた。多摩キャンパスにいた時にあったような教職員の交流会もなく委員会で顔を合わせているだけで教員／職員の「ミドル」が連携できるのかというのもいささか心許ない。その辺を具体的に聞きたかったので、講演者には（刊行年の古い研究成果を紹介するだけでなく）もう少し事例・実践例を紹介していただきたかった。（直前に高大連携の動画を見たのでなおのこと、です）
- ・今後のカリキュラム改訂の参考になる講演だったと思います。
- ・講師の先生が、配付資料がある前提でお話しされていましたが、事前に配付されていたでしょうか。告知のメール等に添付されていたかもしれませんが、再度ご案内いただけると助かります。よろしくお願い致します。

■8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・非常勤の立場で出席したため、カリキュラムマネジメントについてのもともとの理解が足りないうえ、直接的に検討及び作成する立場にないため、あまり実践的に役立つものではなかった。得られた知見としては、冒頭にお話くださった、学士課程教育の歴史的な話は大変興味深かった。
- ・今回は表題の概説であり、マネジメントする側の視点のみで語られていたので、マネジメントに組み込まれる側（方針に従う側）の視点のものも聞いてみたいと思った。
- ・講演内容に関することではないのですが、動画視聴の途中でコマーシャル動画が入って来たのが気になりました（これ

まで、同じくらいの時間でもコマーシャル動画は入らなかったように記憶しています)。

- ・文科省の説明のような内容で、抽象的でカリキュラムの改善に対する具体的な施策に結びつく内容とは感じられない。各大学の具体的な事例などの紹介の方が役に立つと感じる。
- ・毎回、タイムリーなテーマ・講師のもと、これからの見通しをもつことのできる、とても有意義な内容でした。
- ・教育目標に関する解説のうち、『逆向き設計論』のところは非常にわかりやすく、大変参考になりました。今後参考にして教育目標を書きたいと思いました。ありがとうございました。
- ・カリキュラム改革を進めるにあたって課題共有ができたと思います。また、具体的なチェック項目もご提示いただき大変参考になりました。ぜひ活用させていただきたいと思います。
- ・最後のご挨拶にもありましたが、設定時間では消化しきれないほどのボリュームのある資料(恐縮ですがこの大きさでは前半は字がよく見えません)とお話で勉強になりました。ありがとうございました。とくに 21 頁の「(1) 教育目的・目標」以下のお話が、例年シラバスを作成している身としてはいろいろと参考になりました。前半と後半(こうした具体的な内容と大学のマネジメントの問題)で2回に分けてもよかったのでは、と思う分厚い内容でした。
- ・もう少し実践的、あるいは本学の課題を発見することにつながる内容を期待していたが、カリキュラム編成の一般的な動向にとどまっていたように思う。文科省の設置基準に対して、どこまで独自の施策をとることができるのか、あたりを知りたかった。
- ・科目間の連携を図ることの大切さを改めて感じました。そのためには、ミドルリーダーの存在(全体を把握しバランスをとる)とその果たす役割の大切さも理解できました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・従来、比較文化学部では、カリキュラム改定については将来構想委員会のみが担当している状況で、学部教員全体で検討することは比較的にできていなかった。意見を言うにも、非常に言いにくい雰囲気があり、若手教員の意見をつぶすなどの状況がみられた。しかし、杉谷先生は、協働こそが重要であると強調されていたので、今後のカリキュラム改定については、学部全体での十分な意思疎通が重要だと実感した。
- ・非常勤講師であり、大学授業は大妻のみです。カリキュラムマネジメントについて知る機会を得て、よかったです。
- ・良いカリキュラム、そしてカリキュラムマネジメントを構築していくためには協働性が重要であることが示されていたが、同館であります。協働性の4つの必要条件が示されていたが、これらを構築することが難しいと感じる。ビジョンの共有化などは形式的には可能だが、これをした上でいかにいかに同僚性である我々意識を各教員が保持するかが課題であると思う。これらにはマニュアルはないと思うが、今後は探求してみたいと思うようになりました。
- ・やや専門性が高く、一般の教員向けの内容ではないように思いました。情報量も多く講演時間もオーバーしていました。申し訳ありませんが、あまり記憶に残らない内容でした。
- ・多様性や評価方法に学修者の行動として可視化しえない部分をどのように拾うかといった新しい視点を改めて学んだ。カリキュラムや授業間をつなぐ上で入学してくる学生がどのような取り巻く教育環境から来たかを理解する大事さを学んだ。
- ・施策の網羅的な紹介が中心だったかと思いますが、具体的に自分が何をすると良いかをイメージするのは困難でした。具体的な大学などでの取り組み例、また、その結果どうだったかなどの検証例があるとより分かりやすかったのではないかと感じました。
- ・スライドの作り方がとても上手で、説明も説得力のあるものでした。
- ・日本における大学教育におけるカリキュラムについて、基本的なところを整理して丁寧に解説していただいたことによりその動向や今後の方向性が理解された。また、学習目標をどのようにとらえるのか(行動目標、到達目標、方向目標、体験目標など)という点は、大学という高等教育をどのように考えるのが重要である点についてあらためて考える必要性を感じた。
- ・現状の説明に加えて、講師ご自身の意見をお話いただいた点、企業と異なり、人を育てるというスタンスが必要であることを伝えていただいたと思います。大学もまた、企業的な運営システムの整備も必要で、経営面で現代社会に呼応して迅速な対応を迫られているのはよく理解できますが、大学は企業とは異なり、人間を育てるのが基本であり、眼前の危機的状況に慌てるばかりではいけないと自戒しました。国公立とは異なり私学である限り、本来、何を志して設立されたのかを常に念頭に置いて現実を直視しながらも都度に学生に何が必要かを見据えていく必要性を改めて認識できました。
- ・話題が多く、次々に説明があり、ついていくことができませんでした。私のように詳しくない者にとっては、もう少し、テーマを絞り、具体的な例を入れていただきながらご説明いただきたかった。
- ・資格養成プログラムに支障なく活かせる内容があればもっと参考にできたかと思います。
- ・担当する科目について学習の順序性・シークエンスの視点から見直したいとおもいます。科目の連関の重要性について再認識できました。ご専門家による貴重なお話をありがとうございました。
- ・今まで様々な変化を求められ対応してきたが、今回の講義では、なぜ変えなければならなかったのかの答えがありました。それが分かったことはとても意味があることだったと思っています。そしてそれが日本の高等教育の理想の形がよくよく考えられていたのだということもわかりました。しかし、現場は理想通りにはいかないことも多いです。特に学生という流動性と心のある対象を相手にしているため、理想と現実の板挟みにあるのはやはり現場の教員なのだと理解しました。大学だけが進化するのでは、高校から大学に入ったときの考え方に大きな乖離が生まれます。高校までに大学がどのような場で、どのような考えをもって学ぶ場なのかを周知できたら高校生も大学になじみやすく、現場の

教員も初年次学生の教育を考えやすく、次のステップに導けるのではないかなと考えながら聞きました。学びの場をありがとうございました。

- ・カリキュラムマネジメントにおいてのリーダーシップの重要性をあらためて理解しました。学部や学科を超えた教育課程の構築は今後求められることだと思います。学部学科が異なるが、同じ専門分野を担っている学部や学科とまずは教員間で繋がることも大切な事ではないかと思いました。今後少子化が進む中で、魅力ある大学のカリキュラム作りをしていく基本的な事項を理解することができました。
- ・①カリキュラムツリー等は、初回授業でも便利に使用させて頂いています②【あくまでも感想です】今後は、各教員がマネジメント評価を受けることになるのでしょうか。その際には、「教員への聞き合わせ内容」と「学生からの授業評価」の双方を同時にすり合わせる必要性が生じるのでしょうか。双方の内容を客観的に評価することは、(想像上)なかなか高度な視点を要することを想像しました。
- ・授業計画、シラバス作成などにおいてとても有意義な内容だった。事前配布されたという研修会資料を確認し忘れたので、どこかで入手かのでしょうか？
➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。
- ・カリキュラムマネジメントについて他大学の動きも知ることができてよかったです。
- ・カリキュラム作成については初めて知ることが多く大変勉強になりました。また、一般科目と専門科目を関連づけることが印象的でした。
- ・カリキュラムマネジメントという論点は考えたことがなく、新鮮でした。マネジメントの論点からは、少し外れますが、91年の設置基準の大綱化に杉谷先生はやや批判的なのかなと思いました。教養教育と専門教育がバランスよく実施できる大学、偏差値を指標にすれば60程度以上の大学で実施すると教育の充実が期待できるという内容だったように思います。論旨の聞き間違いかもしれませんが、近年本学の偏差値が急落し、今後は教育困難な学生も増えてくることが見込まれていることから、少し穿った聞き方になったのかもしれませんが。定員割れ大学の場合、学生や保護者の大学への期待は就職をきちんとし、社会に出てほしいという点に、ますます絞られていくだろうと思われます。そうすると、カリキュラムが次第に専門学校化せざるを得ないように感じています。そうしたカリキュラム改革の渦中にいる教員の一人として、マネジメントのお話を参考にさせていただこうと思いました。
- ・非常勤講師のため、学内全体での意思疎通などがなかなか取りづらいなか、このように大学全体の動きや狙いなどがわかるのはとてもありがたいことです。シラバスではカリキュラム全体を考えるよう指示されているかと思いますが、この大学でも方向性などの情報不足を感じていますので、このようにFDなどを通じて最新の動向など周知がなされると大変役に立つと感じました。このような機会をいただきありがとうございました。
- ・本日の研修資料の配付に気づかず、手元に資料がある方が解りやすいです。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・話にあがっていた組織文化は長い年月をかけて作られ継承される。協働性や教育の質にも影響する、重要なものであると考える。
- ・貴重なお話で、整理された情報を提供いただいたと思いますが、画面の中で、短い時間に資料を見るのは難しく、別途印刷資料等ファイルでもよいので、提供いただけると理解が深まったかと思います。講師の方は丁寧にお話くださったと思うのですが、その場で画面資料をさっと見るだけで捉えるのは難しかったと感じております。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・専門分野が異なるため、専門用語が分からなくて、理解しづらい部分がありました。「3つのポリシー」、「3P」、「PDCAを回す」など使われても、最初に説明がないと、すぐには分かりませんでした。「スコープ」や「シークエンス」という用語は後から説明がされたので、出てきた時点では分かりませんでした。求められるカリキュラムのところは、わかりやすくまとまっていて、理解できました。カリキュラムマネジメントの結果として、『「良好」な結果を生み出したのか』と『「弱体」した結果が現れたのか』のアンケートのブラフは興味深かったです。
- ・図書館学課程担当教員としては、課程範囲でのカリキュラム運用になってしまう傾向が強い。とはいえ、各学部との連携や学部・学科のカリキュラムとのつながりを含めた内容の精査が今後は必要ではないかと強く感じる事ができた。これらについては、担当教員の手腕に頼っていた部分が大い。これからは、目に見える形でシラバス等に明文化することや、その成果を確認する仕組みを持つことで、本学特有の図書館学課程として、他大学課程と差別化できるのではと、本講演会を通じて考える事ができた。
- ・実務家教員（インテリアデザイン）として、長らく関わらせて頂いております。実務家教員に教育の機会を提供いただけることは、大学教育がさらに「心理的要請」と「社会的要請」に結びつき、学生の行動的局面向を大いに下支えするものだと思っております。実務家教員がカリキュラム設計に参加できるような機会があれば、学生の「真の生きる力の形成」に寄与できる可能性が高まると再確認いたしました。改めて、教授する意義と勇気を頂く素晴らしいご講演に感謝申し上げます。
- ・今回はカリキュラム・マネジメントに主眼があったかと思いますが、個人的には高等教育総論の方に興味をより持つことができました。
- ・教務委員を務める中で、カリキュラムについて考える機会が多く、より深い知見を得たいと思っていたので、自分にとって非常にタイムリーなテーマでの講演会で、学ぶところが多かった。「立派な図を描くことも大事だが、それが実現可能かも含めて検討することが大事」との指摘が印象深く、今後カリキュラムの編成に関わる際に役立ててゆきたい。
- ・教学マネジメントの実現に成功している大学の共通点は、モチベーションの高い教職員が一体となっていることである。近年、特に優秀な若手職員がなぜ次々と退職したのかについて経営層の皆様は見過ごさないで欲しいと願います。

- ・具体的に説明していただき、わかりやすかった。文科省の計画なども知ることができた。
- ・最後に山倉先生がおっしゃっていた、近接分野の学科同士のブリッジ科目をどうするかなど、喫緊の課題なので気になりました。
- ・急激な少子化で、これからの高等教育のあり方の将来像を考えるにあたり、国の枠組みを超えた広い枠組みで考えての大学教育マネジメントが聞かれると思ったが。
- ・個人的にカリキュラムマネジメントについて学ぶことができたが、学内での連携やリーダーシップなどの話は、任期付き単年度の更新になるため、中期的に計画が立てられないので興味が持てなかった。
- ・どうしても自分の教えたいこと、教えるべきと考えていること、教えられることを中心に授業を構築してしまうが、教育目的だけでなく到達目標等様々なレベルでの目標設定や累進型か経験先行型かなど興味深いお話が聞けた。講義形式の授業と演習・実験授業ではまた対応が異なると思うが、今後の授業の構成に反映させていきたいと思っている。
- ・特にありません。内容的には妥当な講演会でした。
- ・カリキュラムの組成プロセスについて、一定の段階的形式を学ぶことができた。
- ・学士課程教育のカリキュラムマネジメントに関する講演は多くの情報と知見を得ることができ、有意義でした。社会経済課題が多様化・複雑化する時代において、2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（2018）に基づく内容は興味深く拝聴いたしました。時代の変化に対応したカリキュラム編成は不可欠であり、その際「体系的・横断的・組織的・断続的・開放的・先導的」が重要なポイントとして印象に残りました。特に学部・学科等の枠を超えた「文理横断」「文理融合」型教育の推進は予測不可能な時代の要請でもあり、複眼的思考力の育成につながるでしょう。何よりも、学修者自身が学修成果を実感できる教育（学修成果の可視化）が重要であり、3つの目標（達成・方向・体験）を明確にすることが大切であると実感しました。杉谷先生に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・杉谷先生のお話の仕方が非常にわかりやすく、とても聞きやすかったです。内容も自分では普段あまり考えることがないことだったので、非常に興味深かったです。
- ・カリキュラムに組織の教育理念を取り入れる、という点。学科でカリキュラム再構築の際は、大学の教育理念にリンクしている内容かを再度確認するべきだと感じた。
- ・カリキュラムマネジメントについて、組織文化と教育現場に直接的にコミットするミドルマネジメントのリーダーシップとの重要性を指摘されていた点は納得できる。ただ、学科や専攻と言った単位での組織文化は下位文化であり、上位の文化としての学部の組織文化に強い影響を受ける。さらに、学部での改革や先駆的な取り組みは全学的な組織構造や組織文化に影響を受けることに留意してマネジメントのための組織づくりを進める必要があると考える。
- ・体系的な内容であり、状況把握（特に、課題について）に役立ちました。特に印象的だった点として、到達目標（達成目標）に対して、方向目標（向上目標）を設定する意義について、先生のご見解を興味深くうかがいました。
- ・学部・学科間連携の重要性和難しさを痛感しました。
- ・カリキュラム編成に関する歴史的経緯などが非常に参考になった。
- ・カリキュラムマネジメントの考え方や詳細がわかりやすかった。大学に所属するようになり、なんとなくわかっている部分はあったが、教育課程の流れなど含めて、勉強になった。ありがとうございました。教養教育の考え方等については、本務校においても色々思うところがあるため、考えさせられた。各大学の課題としてもそうだが、日本全体の教育がこれからどうなるのか＝社会にでる学生たちをどのように育成するのかという点においても、考えていくべき問題であると感じた。
- ・課程科目（図書館学）のためカリキュラムを管理することはありませんが、公立図書館は情報リテラシーを担う社会教育施設であることからそれに関する授業ではリテラシー教育にも触れているので、その方面で全学的に協力できる余地はあると感じました。
- ・キャリアキュラム発展による意識は歴史が長いことに気づき、非常に面白かったです。特に3ポリシーの策定と公表義務化された流れの中で理解することが面白いです。確かにキャリアキュラムの明確化が大事であることは改めて理解できました。確かに学生の大学での経験に直接影響が大きいです。具体的に言えば、就職活動に大変大きな影響を及ぼすデータサイエンスやAI 関連授業を全学科でも増やせばいいとも考えられます。キャリアキュラム編成を効果的に進めることができる大学が将来性があるでしょう。協働文化と構造が大学の指導者たちから始まることは中心です。結局、教員の柔軟性は必要です。つまり、指導者が方向をきめながら、教員たちは適応する能力が大学の将来を決めるでしょう。
- ・逆向き設計論（求められている結果、承認できる証拠、学習経験と指導の三位一体）という考え方が参考になった。とくに、私の授業では「評価方法（承認できる証拠）」がいまいになってしまうことも多いので、修正の必要を感じた。また、コンテンツベース（何を教えるか）と、コンピテンシーベース（何ができるようになるか）との二項図式も参考になった。
- ・学部カリキュラムの改定を考えているところでしたので、歴史的な経緯や現状を知ることができて大変勉強になりました。方策についてもいろいろと提示していただけたので、今回のご講演を聞いた上で、それぞれの学部が自分にあった形を選ぶことができると思いました。一方で、学部をこえたカリキュラムのあり方が推奨されるなど、学部単独でがんばっていても達成できないものが多々あったと思います。その点について、上層部でのご判断を今後お願いできたらとも思いました。
- ・いまさら一般的な話を聞いても意味がない。講師が悪いというよりも企画がよくない。
- ・文科省を中心とした政策の動き、現状におけるカリキュラム編成の在り方、教学マネジメントの基本的な考え方等について確認することができた。学部を超えた教育課程の構築は本務校でも課題である。

・シラバス作成の際に参考となる有益な情報を得ることができました。ありがとうございます。教育目的・教育目標を設定する際に、「到達目標」ばかりに目がいていましたが、方向目標や体験目標という要素も考慮することで、より幅広い視点を持つことができました。「双方向授業」が漠然としたものに感じられていましたが、明確化するきっかけを持つことが出来そうです。

・カリキュラムマネジメントを学べてよかったです。

・杉谷先生が講義の中で「資料はお手元に配布されているかと思いますが」とおっしゃっていましたが、事前にスライド資料は配布されたのでしょうか。かなり専門性の高い内容で情報量が多すぎるので、資料があればそれを参照しながら拝聴したかったと思いました。その後配布される予定はございますでしょうか。また杉谷先生には本大学の取り組みについても事前に資料でお知らせしていたほうが、本大学ができていないこと、足りないことに触れながらお話しただけなので、一般論ではないお話が伺えたと思いました。また講義の中の事例が慈恵医大ではあまり参考にならないので、青学や女子大の事例があればそれを教えていただいたほうがより参考になったように感じました。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

・学生に対して多様で柔軟な教育の確保のため、大学全体の成果目標を多角的な視点から捉え直すことができました。

・カリキュラムマネジメントについて、大学政策の展開から現在必要とされる政策概念について詳しく講話していただき、勉強になりました。課題はありますが、今回お話しして頂いた内容を参考にさせて頂きたいと思います。

・カリキュラム編成に対する文科省の考え方、及び大学としてカリキュラムマネジメントを運用する際の注意点などについて認識が深まりました。

・認知できる目標に限らず、目標を設定するという点について共感する一方、到達目標を測定可能なものに限定しても成果が矮小化されることはないのではないかという印象ももった。

・事前、または終了後でも、パワーポイント原稿（要旨）をいただけると、内容の理解がスムーズだったと思います。有益なテーマ・内容のご講演をありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

・数値化できるものだけを重視するのではなく、方向目標に向上がみられたか、という観点の重要性に言及された点が印象に残りました。

・カリキュラム編成は大学における永遠の課題であり、現時点の求められている論点を整理するのに大いに助かりました。専門教育と一般教養との兼ね合いも永遠の課題だ、現場では専門性を高めたがる傾向が、今求められているのは昔の教養ではない多領域跨る新しい教養だと思われる。その点についてもさらにうかがいたかった。

・1. 学部教育の目標あるいは育成能力の設定を考える時、日本学術会議の提示した分野別の参照基準は非常に重要と考えていたが、アンケートではほとんど参照されていない実態が示されました。その背景について、どのような理由が存在すると考えられているかその見解をお聞きしたいです。2. 逆向き設計によるカリキュラムデザインは、初等中等教育での事例はありますが、学部教育での事例も多いのでしょうか？具体的な大学学部教育の事例を伺いたいです。

・学習機会を与え、授業をするということにおいて、現在、インターネット上には情報があふれ、YouTubeでも解説動画などが多く存在しています。それらとの共存について気になっています。

・カリキュラムについて、歴史的な観点も踏まえてご解説いただき、たいへん参考になりました。ありがとうございました。

・PDCA サイクルを回していく際に、学生、教職員、大学全体、さらには社会まで巻き込みつつ多様なステークホルダーに配慮していく必要がよく理解できた。

・カリキュラムマネジメントの詳細について初めて知ることが多かったですが、全体観を把握することができ、大変貴重な機会になりました。

・講師は、講演中、「～とされている」という表現を多用した。これは、(1) 単なる言説の引用なのか、(2) 学界における定説なのか、(3) その言説に対する同意の表明なのか、あいまいである。引用した言説の位置づけ、あるいは、その言説と自説との関係性を明白にすべきであろう。講師は、ミドルリーダーの役割の重要性を指摘した。これは、注目に値する発言であるが、机上の空論に終わる可能性がある。実際に、それが活用されている具体的な先行事例があるのかに関して、説明が欲しかった。

・今回の講演会では、カリキュラムマネジメントにおいて、日常的教育活動を営む現場の状況や意見を反映しつつ、そこでの合意形成や協働性の構築を図ることの重要性が示唆されるのではないかと考えている。

・内容は、常勤の教員向けのように受け止めました。大学の魅力を高める示唆を受けて、貴学の先生方がどのように取り組まれるか、サポートできたら幸いです。

・カリキュラムのデザインとマネジメントについて、大変勉強になりました。今後の自分の教育活動に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

・興味深く拝聴いたしました。ありがとうございました。カリキュラムマネジメント上の協働を目指すうえでの、組織構造・組織文化の重要性を、あらためて再確認いたしました。ただ、全体的に情報量が多いためか、重要なところやお話の流れが見えづらいところがありました（あくまで個人的な感想です）。

・教育（学習）目標について、到達（達成）目標だけではなく方向（向上）目標や体験目標についても考えるという視点は記憶に残りました。参考にさせていただきます。

以 上

(2) FD 講演会：学生参画による授業改善およびカリキュラム改善

～学生参画で得られる効果～

講師：筑波大学 准教授 田中 正弘 氏

日時：令和6年12月17日（火）16:30～18:00 対面開催

対面開催

12月17日(火)
16:30～18:00

千代田:A155講義室
多摩:7114講義室
(中継)

**令和6年度後期
全学FD講演会**

**学生参画による
授業改善およびカリキュラム改善
～学生参画で得られる効果～**



本学において既に実施している学生参画の取組として、「授業改善のためのアンケート」「学生と学長との懇談会」「授業改善を学生とともに考えるFD研修会」などが挙げられます。本講演では、第一部で、他大学や諸外国で行なわれている学生参画の取組を参考に学生参画をめぐる現状を概観し、得られる効果を再確認します。第二部では、ワークショップを通して、授業改善およびカリキュラム改善に繋がる学生参画を考えていきます。

講師 筑波大学 教学マネジメント室 准教授
田中 正弘 氏

<参加申込>



略歴

東京学芸大学教育学部卒業。
ロンドン大学教育研究所博士課程教育学専攻修了。
島根大学教育開発センター講師、弘前大学21世紀教育センター准教授などを経て2015年4月より現職。
専門はイギリス高等教育、内部質保証、専門職大学院、学生参画。
大学基準協会「質保証における学生参画のあり方に関する調査研究部会」委員(2023～2024年)。

著書

Tanaka, Masahiro (ed.) (2019) Student Engagement and Quality Assurance in Higher Education: International Collaborations for the Enhancement of Learning, London: Routledge
主催：大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

FD 講演会アンケート集計結果

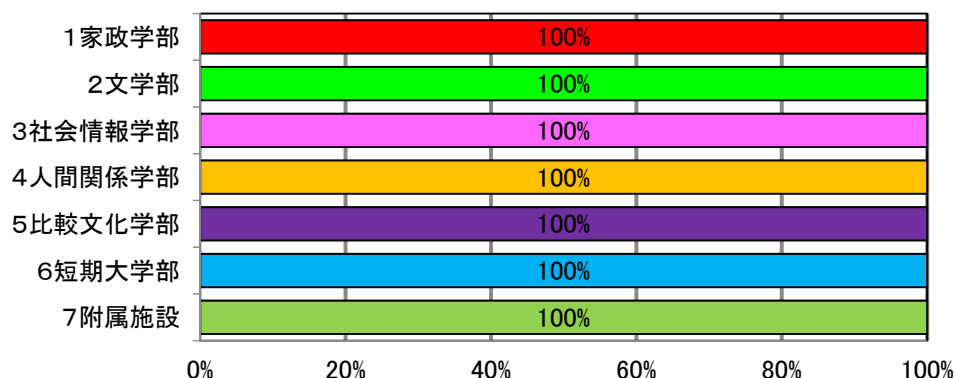
- ＜ テ ー マ ＞ 学生参画による授業改善およびカリキュラム改善～学生参画で得られる効果～
 ＜ 講 師 ＞ 田中 正弘氏
 （筑波大学 教学マネジメント室 准教授）
 ＜開催方法＞ 対面開催 + 録画配信
 ＜開催日時＞ 令和6年12月17日（火）16:30～18:00
 ＜録画配信＞ 令和6年12月23日（月）～ 公開中
 ＜回答期間＞ ①令和6年12月17日（火）～令和7年1月31日（金）23:59
 ②令和7年2月3日（月）～2月10日（月）12:00（専任教員未回答者対象）
 ＜未回答者＞ [専任教員] なし
 （研修等除く）

【参加者（アンケート回答者）の所属】

所属	出席者			所属教員数
	対面	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	16 人	50 人	66 人	66 人
2 文学部	7 人	29 人	36 人	36 人
3 社会情報学部	5 人	28 人	33 人	33 人
4 人間関係学部	11 人	22 人	33 人	33 人
5 比較文化学部	6 人	12 人	18 人	18 人
6 短期大学部	9 人	14 人	23 人	23 人
7 附属施設	3 人	17 人	20 人	20 人
8 非常勤講師	4 人	53 人	57 人	
9 助手	1 人	13 人	14 人	
10 事務職員	4 人	0 人	4 人	
合 計	66 人	238 人	304 人	

※DS 設置準備室は附属施設に含む

【所属別参加率】（専任教員）

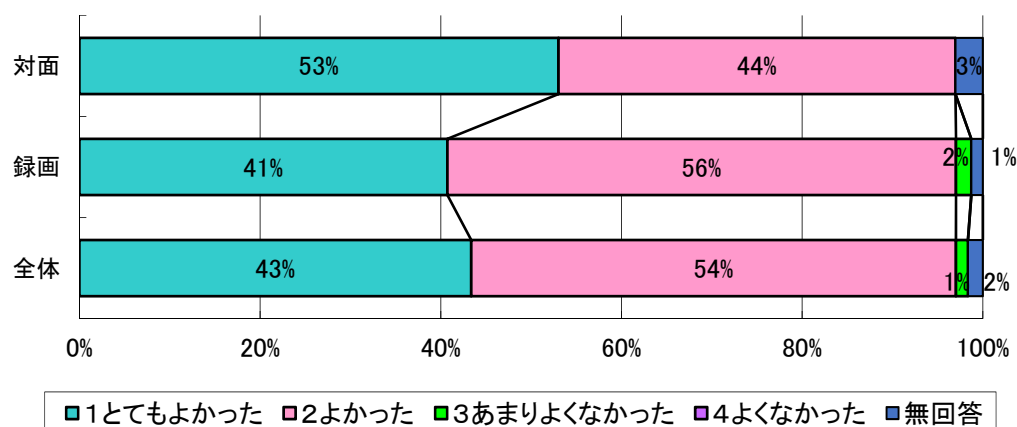


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 304 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

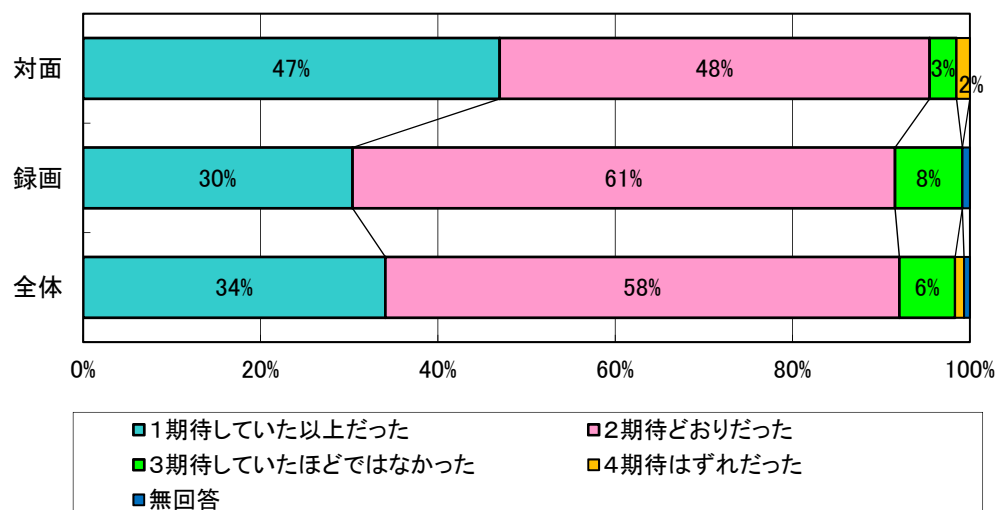
（１）講師について

選択肢	対面		録画		全体	
1 とてもよかった	35	(53%)	96	(40%)	131	(43%)
2 よかった	29	(44%)	134	(56%)	163	(54%)
3 あまりよくなかった	0	(0%)	4	(2%)	4	(1%)
4 よくなかった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	2	(3%)	4	(2%)	6	(2%)



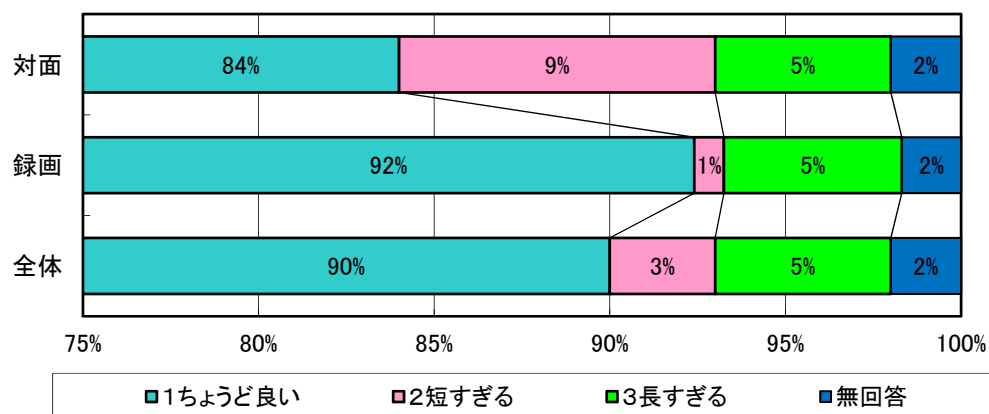
（２）内容について

選択肢	対面		録画		全体	
1 期待していた以上だった	31	(47%)	72	(30%)	103	(34%)
2 期待どおりだった	32	(48%)	145	(61%)	177	(58%)
3 期待していたほどではなかった	2	(3%)	18	(8%)	20	(6%)
4 期待はずれだった	1	(2%)	0	(0%)	1	(1%)
無回答	0	(0%)	3	(1%)	3	(1%)



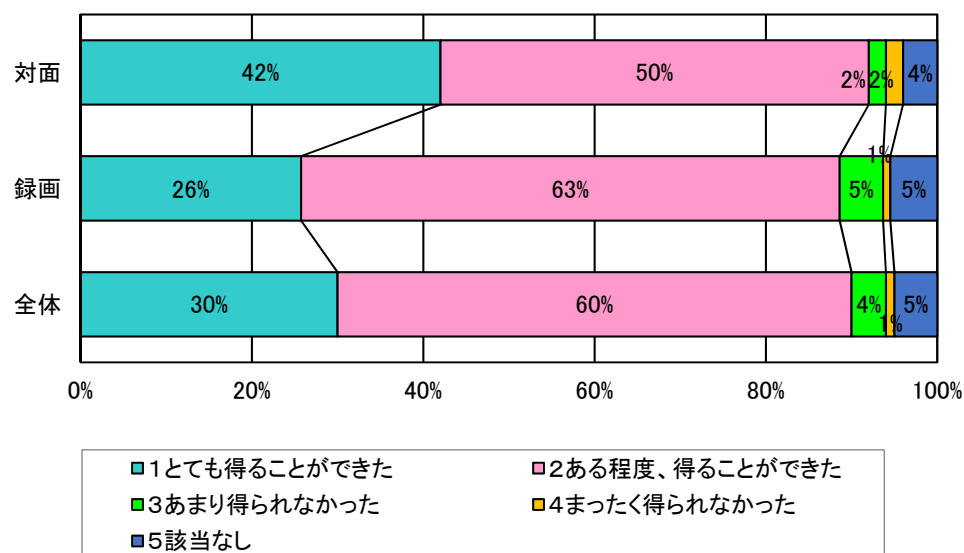
(3) 時間について

選択肢	対面	録画	全体
1 ちょうど良い	56 (84%)	219 (92%)	275 (90%)
2 短すぎる	6 (9%)	2 (1%)	8 (3%)
3 長すぎる	3 (5%)	12 (5%)	15 (5%)
無回答	1 (2%)	5 (2%)	6 (2%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	対面	録画	全体
1 とても得ることができた	28 (42%)	61 (26%)	89 (30%)
2 ある程度、得ることができた	33 (50%)	149 (62%)	182 (60%)
3 あまり得られなかった	1 (2%)	12 (5%)	13 (4%)
4 まったく得られなかった	1 (2%)	2 (1%)	3 (1%)
該当なし	3 (4%)	14 (6%)	17 (5%)



(5) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	66 (11%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	97 (16%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	101 (16%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	120 (19%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	75 (12%)
6 初年次学生の教育支援	101 (16%)
7 キャリア教育・進路指導	59 (10%)

【今回の講演テーマ関連】

- ・新学習指導要領に基づいて学んだ学生が入学してくるにあたり、大学教育もどのように対応すべきか。
- ・大学の環境マネジメントへの学生主体形成

【国の高等教育・教育改革の動向】

- ・今後、ますますの少子化の中で、大学のブランド力が問われてくると考えている。いかに学部・大学をブランド化するか、ブランド力の強みについて、もしくはその功罪についての話を聞いてみたい。
- ・修学支援関係(続編として具体的事例など)

【本学の教育体制・教育改善の動向】

- ・AI 関連のテーマ
- ・障害学生への組織的な対応方法について
- ・女性の生涯教育に大学が果たす役割について
- ・キャリア教育 特に卒業後の人生設計を考えることができる学生の力と意欲を引き出すカリキュラム キャリア教育の好事例 よい考え方

【授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介】

- ・新学習指導要領に基づいて学んだ学生が入学してくるにあたり、大学教育もどのように対応すべきか。
- ・女性の生涯教育に大学が果たす役割について
- ・女子大学生のエンパワーメント、大学におけるジェンダー教育と実践
- ・チャット GPT など生成系 AI の授業やゼミでの活用の実例
- ・学生が生成 AI を活用することは今後不可避であるとする、学生に ChatGPT を活用させる革新的な教育システムについての事例が知りたい

【成績評価と効果的なフィードバック方法】

- ・教育・学修成果の把握・評価（可視化）とその結果の検証・活用の方法
- ・AI 関連のテーマ

【初年次学生の教育支援】

- ・新学習指導要領に基づいて学んだ学生が入学してくるにあたり、大学教育もどのように対応すべきか。
- ・入学前教育あるいは初年次教育、とりわけ二年次以降に自立して学習・研究することができるようになる学生育成の方途・メソッドについて。参加型・双方向の授業、ピアレビュー、予習・復習と授業内容の連動、学生の提出物に対するコメント返却など、いろんな要素を授業でもりこむには、教員あたり週6コマという授業数はかなりの負担です。裁量労働制とはいえ、見過ごせない残業が生じることもあります。1コマあたりの履修者数が増えるとなおさらです。質の高い授業を継続するなら、授業にコミットした時間分の給料を上げてもらうか、裁量労働制で認められる時間内に上記の教育サービスが完結するような学生を入学させる、あるいは入学後に成長させるしかありません。個人的には最後のオプションが現実的かと思うので、入学前あるいは初年次教育でどこまで学生の素質を挙げられるか、他大学の実践例などをしりたいと思っています。
- ・女性の生涯教育に大学が果たす役割について
- ・高大連携
- ・女子大学生のエンパワーメント、大学におけるジェンダー教育と実践

[キャリア教育・進路指導]

- ・新学習指導要領に基づいて学んだ学生が入学してくるにあたり、大学教育もどのように対応すべきか。
- ・女性の生涯教育に大学が果たす役割について
- ・キャリア教育 特に卒業後の人生設計を考えることができる学生の力と意欲を引き出すカリキュラム
キャリア教育の好事例 よい考え方

[その他]

- ・配慮の対象となる学生について、本学の現状と参考になる対応事例について情報を共有していただきたいと思います。そのうえで専門家の先生よりご講義をいただけると幸いです。
- ・18歳人口の減少と大学運営
- ・授業を受講する際に支援が必要な学生に対する専門的知識。たとえば、識字障害がある場合など、さまざまなケースが生じているので、担当教員が取り得る具体的な方法について知りたい。
- ・志願者をふやすためにできることなど検討できればと思います。

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・ワークショップを実施するにあたり、どのテーマで行うか、それに対しての設定条件が明確になっていたので実施しやすかった。また、講演内容についてもとても分かりやすく、具体的でよかった。
- ・大学の意思決定への参画を選択して検討しましたが、まず、学内の委員会の機能について十分に理解できていないことに気が付きました。また、学生に何を求めるのかが明確でなければ、会議の選択と学生の立場の決定は難しいと感じました。
- ・学生が意思決定に参画するには、委員会等の構成員となること、また、そのために規程に定めることが必要であるという点が大変参考になりました。また、本学の学友会やピアサポートの取組み、組織体制や委員会の規程等に事前に目を通していただいております、好感が持てました。
- ・一方的に聴くだけでなく、テーマに沿って先生方とディスカッションしたことで、新しい発見や多くの学びが多かったように思う。
- ・ピアサポートとても良いと思います。実際社会情報学部では実施しているとの事、大妻女子大学として全体的に実施できるようになると卒業生として嬉しく思います。今回の講演会で、大妻の大学運営がしっかりしていると感じましたが、大学全体に反映（浸透）していないとも感じました。大妻の発信力が弱いと常々感じています。
- ・講師の田中先生が、本学の状況についてよく調べられており、説得力のある内容でした。退学者一人で300万円の損失という具体的な数字も現実感をもって理解できました。欧米と比べ50年遅れているということを知り、衝撃を受けた同時に長年感じていたもやもやの原因がわかりました。
- ・他大学での例である。非常勤で行っている国際基督教大学では、図書館にライティング・サポート・デスクというのがある。これはまさにピア・サポートのいい例と考えられる。システムとして機能していると思われる。<https://office.icu.ac.jp/ctl/writing-support/wsd.html>
- ・ワークショップの時間が、とても有意義で楽しかったです。短大、生き残れるのではと、思えた時間でした。
- ・ワークショップを取り入れ、聴衆に実践をさせてくださった点。180度の意識転換が必要な難度の高いテーマに取り組み、その推進をされているお姿に感動いたしました。
- ・学生参画についてのヒントが得られたのはよかったが、将来文科省主導で導入するという点は問題があると思う。
- ・「学生参画」という事を知りませんでしたので、大変勉強になりました。
- ・学生が主体的に教育プログラムについて関わる意識を醸成するよう促す雰囲気を、さまざまな面で作っていく必要があると思いました。
- ・今回は、大学の諸機関への学生の参画についての講演であった。学生が主体的に参加することが今後の大学運営において大切であることが理解できた。学生参画には大きく分けて2種があり、大学の教学面と経営面の会議等への参画とピアサポートのような学生間の交流に何らかの役割を果たすための参画がある。前者への参画は今の日本の大学ではかなり壁が高いと思われる。まず、関心が学生にあるのかという点がある。健全な経営がされているのかといった会議に参加するのか、カリキュラムの改革の会議に関心を持って参画するのかなどはなはだ無理があると感じられる。一方、ピアサポートについては、十分可能だと思われる。上級生が下級生に向けて授業内容や担当教員について情報を共有することは、学部学科において大切なことと考える。いずれにしても学生においてハードルが低いところからまず、こちらも考えて学生参画を促していけば大学の改善に繋がると考える。
- ・学生が主体的に大学の教育改善に関与するシステムを本学でも早急に構築したいと思う。本専攻では、「先輩からのアドバイス」や「1年生と2年生との交流会」等を通じて、学生間（卒業生や教員も含む）の情報共有を支援し、授業やカリキュラムの改善、学生指導、進路指導、課外活動等に活かしている。学生参画で得られる様々な効果を、学生募集へつなげる良い循環を構築していきたい。専門家を含む企

画・広報室のような部門が有ると有り難い。

- ・学生を学生扱いせず、より強力なサポーターとして迎えることは、双方にメリットがあると感じた。
- ・特にピアサポートの内容が参考になりました。自分たちが学生の頃は、先輩たちから情報や助言などをいろいろもらっていたと思いますが、昨今の学生は上下のつながりが薄いと感じています。つながりを持った方がいい、と言うだけではなかなか進まないの、ピアサポートのようなシステムをこちら（教員）から提示していくことが大切であることを痛感しました。また、ピアサポートに関わってくれた学生に何らかの証明を出すということも、やる気のある学生の意欲をさらに高めるという意味で重要だと思います。一方、証明を出すからといって、ボランティアに頼る（謝礼無し）というのは継続性が危ういと思いますので、これまでSAやTAの適用外であったような（座学や少人数の）授業でも、ピアサポートが必要なケースには学部や学院から謝礼を手当していただく必要があると思います。
- ・授業と重なっていたが、卒業研究ゼミナールだったので、学生を待たせて参加した。卒論提出期間でもあり、参加しにくい状況だったので、開催時期や時間帯の検討をしてほしかった。
- ・学生参加と学生参画との違いをあらたに認識できた。学生を参画させる際の注意点について、具体的に理解できた。これからカリキュラム改定をおこなう際に、学生の要望に応えるとともに、学生の帰属意識を高め、それが学生の人間的な成長につながるという好循環を生むことが課題であると認識した
- ・ピアサポーターという学生の教育参画について大変興味深く話を伺った。これまでも学科として上級生への下級生の授業への参加ということはさまざまな形で試みてきたが、ピアサポーターとして制度的にも整えていくことは重要だと思われる。
- ・意思決定への参画に関して。学生と学長との懇談会の記事を読むよう学生にmanabaで呼びかけているのだが、父母会誌の記事のため、読めない学生もいるようだ。ピアサポートに関して。留学生サポートの参加証明書は、就活に役立ち、すぐに発行できる取り組みだと思う（すでに発行しているかもしれないが）。履歴書にも書くよう教員・就職支援Gで指導したいものだ。ガイダンスや時間割作成（特に新入生）の時点で、一部学科で行われているようなピアサポートは必要だと思う。所属学部ではゼミが学年別であるため、卒論の準備やゼミ選択に関して、ピアサポートは有効であると思う。院生の起用は、大学院志願者数が低迷する中で、存在の周知にも役立つと思う。
- ・お時間が限られていたこともあるのでしょう、せっかくのワークに対して、共有やふりかえりは正直ほとんど叶わなかったと感じます。もったいなかったと同時に、こういった会合の難しさを切に感じます。
- ・学生が大学の意思決定・教育サポートへ参画していくことの必要性を再認識しました。少しずつでも、できることから改革が進むことを願います。
- ・学生参画について漠然としたイメージを明確かつ詳細に知ることができて、大変勉強になった。気になっているところが、大学運営とかカリキュラム改正とかだけではなく、授業の中の学生参画のあり方についてももっと知りたくなった。
- ・学生参画について、多摩キャンパスの目的別の会議の設定等のアイデアが出ただけでなく、学生に運営を任せたい内容などが具体的に上げられた。意思決定だけでなく、学生の自治も検討できたのが面白かった。また教育サポートについては、現在も実施しているものも多いことが分かったが、参加してくれる学生への還元等が明確に示されておらず、今後その実現に向けて企画していきたいと思った。
- ・学生参画という課題は、アクティヴラーニング等のように学生の主体的取り組みということが重視されている中で、非常に重要なテーマであると思いました。講演では学生の参画、主体性の引き出し方について大変具体的に説明され、非常に理解しやすかったです。また、講演時間をコンパクトにしてグループワークの時間を十分設けられていたことで、同僚の先生方の考え方も分かり、具体的な取り組みの内容や方向性について共有することができました。
- ・学生の参画を促すことが大学に対する所属意識につながるという点は、日頃入試・広報活動に参加してくれる学生の様子からも感じていたところであり、もっとそのような機会を学生に提供することは、FDのみならず教育も含めて様々な場面で効用がありそうだと感じられた。またピアサポートを含め学生の参画に対しては、報酬の支払いや参画の実績を証明する書類などの発行が必要だという点は、非常に重要な検討課題だと思った。
- ・ご講演の内容、ワークの時間、グループ編成等、いずれも丁度良いバランスで、楽しみながら、また、学びが多い講演会でした。
- ・大学評価の項目に新規に入ることになったとはいえ、「学生の大学運営の意思決定と授業運営への参画」がFD講演会のテーマとなったことは、一教員にとっては唐突に思われる。後期火曜日の時間割でたまたまそうってしまったが、当日3コマの講義を行った後に面識があまり無い教員でのグループワークの参加まで求められることは、高齢の教員にとっては心身ともに負担過重である。したがって、グループワークの参加が必須のFD講演会は、オンデマンドで受講する教員と会場で受講した教員との間の時間・労力の負担が不公平となってしまう。
- ・学生参画まで踏み込んだかたちで学生をパートナーとして各種の委員会などにいかに組み込み、さらに大学教育や運営をよりよくしていくのか、その組織改善の時期が目の前に迫ってきていることを学びました。

- ・冒頭の“日本の学生参画は50年遅れている”というお話があり、そのことがどのように影響しているのか気になりました。併せて、海外と日本の現状について詳しく聞きたいと思いました。ピアサポートについては、体制を整えることで実施できることが広がると思いました。また、初年次学生の教育支援について、教員やピアサポーターの役割を考えることができました。今回は録画映像の参加でしたが、対面での意見交換は有効であると思いました。機会がありましたら、ワークショップに参加したいと思います。
- ・学生の授業参画を考える上でのポイントがつかめました。
- ・1. 新入生オリエンテーションの企画を担当しています。ここにこそ学生の参画の可能性があることに気づきました。実行委員の学生たちとプログラムを考える時に、学生の興味・関心やニーズを反映させようと思います。
- ・2. 授業でレポートを提出させますが、成績が固定化しています。成績下位者により良いレポートを書かせるために上級学生のヘルプが必要だと以前から感じていました。そこにも学生参画の道を探りたいです。
- ・意思決定への参加について 運営への参加については疑問がある。企業や役所においても初級管理者としての権限と責任を持つまでには何年もの経験を必要とするのであり、「学ぶ人」であって「経営する人」でない学生を意思決定に参加させるというのは根本的に問題をはらむ。よって、カリキュラムの改善については、それについての客観的な批判ができるようになっている卒業生に参画してもらうのがよいと考える。しかし、学生が教員の知らない問題点を運営側が認識できるという講師の指摘はごもっともである。本学に当てはまると、全学共通科目の英語Ⅰのレベルが講師の間で揃っていないことや、英語ⅠとⅡのレベルが逆転しているといった話やゼミ毎に卒論のレベルが違うといった問題がそれである。こうしたことは、学生の意見を吸い上げる場を新設することが望まれる。当面は、5月の授業担当者懇談会のように、学生懇談会のような機会を設けて、そこで学生の意見を吸い上げることが可能ではないかと思われる。
- ・すぐに実践したい議論ができました。
- ・講演で例に上がっていた大学が、旧国立大学が主だったので、私立大学との学生文化の違いをどのように踏まえるのが重要だと感じた。また、日本の学生のライフスタイルを変容させていくことも必要だと感じた。特に、東京の私立大学であると、通学時間が長いものや、結果としてキャンパスで過ごす時間が短い学生が多いので、学生が大学そのものに参画する時間を確保することに難しさがあるのではないだろうか。
- ・自分たちで考える時間があつたことで、これまで思いつかなかったさまざまな気づきがありました。良い企画でした。このグループワークで出たいくつかの案については、さっそく取り組めるのではないかと話していました。
- ・成績不審者に対する個別学習指導対応としてピアサポーターの活用が提案されていますが、これは入試形態の多様化によって大学教育について行けないレベルの学生も一定数入学してしまっている現状と関連があるかと思います。たとえ推薦入試であっても一定の学力テストを課して大学教育について行けるかどうかを判断して入学させることが、全体の授業のレベルを維持、向上させるのに役立つかもしれません。
- ・学生参画や学生参加について、普段行っていることが整理されて理解することができました。また、実習教育において、経験者からこれから実習する学生に学びを伝達する手法について、ピアサポートという概念で整理、発展させて考えることができました。
- ・自らの意見が授業改善に反映されることで、学習への主体的な姿勢が促進されることなど、学生参画が学習意欲向上にとって重要であることが理解できました。
- ・改めて短大においてはピアサポート体制を整えて、少人数が故の入学制に対するきめ細かなサポートができるのではないかと思います。
- ・講演を聞いていて、自分の所属学科の取り組みを考え、あてはめて聞くことができた。その結果、その後のワークショップが有効的であった。特にグルーピングがよかった。
- ・近年の大学をとりまく動向がよくわかりました。
- ・前任校（医療系大学）では1年生が全寮制であったこともあり、寮運営やカリキュラム・授業に関して、学生（教育委員と学友会代表）と教員間でかなり密な意見交換がありました。教育委員については学部にもよりますが上級学年でも毎月の教育委員会に出席し、学生側からの意見や情報をそこにあげていました。これらの取り組みは今にして思えば寮の管理運営や授業の計画実施にかなり大きな、しかもポジティブな影響を与えていたと思います。大学運営にまで学生が参画するという考え方には大変驚きましたが、急速に少子化が進む日本社会で大学がどのように生き残り存在意義を示すのかを考えると、当事者としての学生の意見はこの問題に少なからぬ示唆を与えてくれるかもしれません。
- ・学生同士が助け合う、情報交換をすることは意義深いと思いました。
- ・今回の講演で、現状に合わせて学生に参画してもらう方法を積極的に大学が認めたと考ええると、意義深い機会だったと思います。4年制とは異なり、短期大学部では、学生どうしで伴走し合うように、同学年どうしのピア・サポートを積極的に考えたいという希望は以前からありましたし、工夫されている先生もいましたが、大学としてはよい顔をされないだろうし、そのための手当ても出ないだろうと思っていたから

です。

- ・学生が参画することの意義とその手法の数々、参加された先生方の豊かな着想をお聞きすることができました。
- ・お話の中にもあったような、上級生と下級生のかかわりを体験させてあげられると、本学の多くの学生さんのもつ真面目さや穏やかさを上手に発揮できるのかなと感じました。それが、学校生活への安心感、学ぶことの楽しさに繋がると良いですし、充実した学生生活だったといつまでも思ってもらえるように、教職員としてかかわる事の大切さを再認識しました。
- ・教育サポートへの学生参加 SA の活用には制度面、予算面での手当が必要です。大学としてその検討をしていただきたいと思います。
- ・学生への FD アンケート調査がデジタル回答へ移行してから、回答の質が年を追うごとに低下しているように感じています。マークシート方式だった頃は、特に自由記述欄へ授業改善に次年度からすぐに応用出来そうな前向きなアイデア提案があり、それらを見ることが楽しみでした。このような現状では、本日のテーマは非常にハードルが高い事案であり、更に筑波大学と本学の学生気質等の相違に暗澹とする気持ちを抱きました。学科内教員とのワークショップは非常に新鮮な体験でした。改めて対面形式で開催する意義を感じることが出来ました。こうした機会を設けて頂き、ご準備頂いたことへ感謝申し上げます。
- ・ワークショップで具体的な提案を検討したことで、実際に運用できそうな「学生参画」(ピアサポート)の姿をイメージすることができた。ただし、現行のルール範囲では困難であることもわかった。今回の FD 講演会を機に、実際にピアサポートを企画した場合、それをどちらに相談すればよいのか。
- ・欧米に比べて「学生参画」の取り組みが遅れているというご指摘は、耳が痛かった。文学部では、講演会でも紹介されていた学生との懇談会を数年前より始めたが、学生の声にいかにか代表性を持たせるかは、大きな課題である。また、ピアサポーターのトレーニングなどを行う部署についても指摘されていたが、日本人学生はもちろん、留学生ではない「外国につながりのある」学生の学習面でのサポートは今後急務であるとする。本学には「ライティングセンター」がないが、試験的に大学院生や文章力のある3、4年生を雇用し、図書館などで気軽に勉学に関する相談に乗ってもらえる機会を提供してはどうか。
- ・私はこの5年間に多くの授業で学生の主体的な参画を計画や開発に取り入れてきました。私は学生の主体的な参画を「アクティブ・ラーニング」の延長と考えており、特に EUA (2019) のガイドラインに従っています。プロジェクトベースの授業で、私のゼミ生の卒業論文を期末プロジェクトとして使用しました。この論文は「個人的な SDGs の習慣を構築する」というテーマでした。また、学生が録画を通じてプレゼンテーション練習を行えるように Flipgrid (現在は Flip) を使用しましたが、SA から使用しない方がよいというアドバイスを受けました。最近では、授業内での学生の意見や課題から得られたフィードバックを基に、授業の重要な要素の一部を改訂しました。一方、カリキュラム・プランニングのために学生代表を選出するという点には反対です。私の経験では、どの学生でも役に立つことができるからです。すべての学習者は、学生の主体的な参画を助けるさまざまな可能性を持っていると考えています。学生が「改善者」(change agents)になれるという考えには賛成です。GPA の低い学生を学科の FD 会議に招待しました。しかし、同僚から「この学生の意見は重要ではない。GPA が低いから」と言いました。ここには誤った前提があると感じます。多くの教員が、シラバスに記載されたコースの期待に満たない学生を過小評価しているように思います。もし学生がカリキュラムを十分に理解できていないのだとしたら、それは私たち教員が現在の学生の現状を理解できていないからかもしれません。私たちは、ニューロダイバーシティ(神経多様性)を持つ学生たちを支援するための様々な視点を、自ら閉ざしてしまっているのです。European University Association (2019, Jan). Promoting active learning in universities: Thematic peer group report. Learning & teaching paper #5.
- ・久しぶりの対面(ハイブリッド型)であった。多摩校で動画をリアルタイムで視聴する形式であったが、一人で研究室の PC で視聴するよりも集中して参加することができました。同室に同じ学部の先生方がいるということだけでも、参加する姿勢に影響がでることを実感し、もしかすると学生も動画のリアルタイム視聴する時、オンラインよりは対面の方が良いのかな、などと考えながら参加していました。また講師の先生のお話しも勿論大変良かったですが、さらにグループワークがとても面白かったです。時間の関係で難しかったのですが、他のグループのワークの結果をもっと聞いてみたいと思いました。後日、学内の教員はテキストでグループワークの結果を共有しても良いかも知れません。
- ・ピアサポートや TA・SA のあり方論は、本日のテーマの「学生の授業運営への参画」からは少しズレた文脈の問題のように思え、別の機会に論ずるべきではないかと感じた。
本学には学友会組織があって、確かにそれは一定程度機能しているといえるが、たとえば「学友会のメンバーと教員との懇談会」での議論を聞いていると、当該発言者自身が抱いている不満や疑問といった内容のものが多く、「学生全体を代表する意見」にはなっていないように思える。「学生全体の利益を代表した発言」を行えるほどに広くアンテナを張って他者の声に関心を払う学生が本学に現れるとは、残念ながら思えない。
「学生時代に大学運営に参画したという履歴が、将来の就職活動で評価されるような仕組みが必要」という指摘があったが、まさにここが最重要ポイントと思われる。そして、これはひとり大学の取り組みだけ

では実現できない問題で、そのような人材を雇用する企業の側の意識改革が求められると思う。

- ・短い時間でしたが、ワークショップが出来てよかったと思います。残念なのは、全部のグループの発表をする時間がとれなかったことです。せっかく書記の役割も作ったので、後日参加者全員がワークショップで話合ったことを共有できるような仕組みになるとよかったと思いました。
- ・学生参画のあり方、特にピアサポーターの役割について興味深く聞きました。今後、大学教育のあり方を考える有意義な視点をいただき、感謝です。学生が責任をもって大学の運営に関わること、守秘義務その他の責任を担う事が就職活動にも活かされる事は納得でした。そして質疑応答の中で、現在の学生は上級生とのつながりが希薄であるという指摘は問題だと思いました。個人的な意見ですが、お金と時間が無い学生が多いのも事実だと感じています。教員として有意義な学びの場と機会を与えられるよう、工夫を重ねて参りたいと思います。
- ・すべてのグループのプレゼンが時間的に難しかったので資料としてグーグルドライブに期間限定で掲載するなどしてもよいかと思います。
- ・全く新しい視点のお話ばかりで、とても参考になりました。
- ・教育面の改善における学生参画の動向と本学の現状に対するコメントを伺うことができ、大変に興味深い内容でした。Workshopを取り入れるのは良いアイデアだと思いました。
- ・学生参画の必要性については以前から感じていたが、それが実践されている地域が世界にはあるということを知ることができてよかった。どのような形で実施に落とし込んでいくのかさまざまな事例についてもっと知りたいと思った
- ・ガイダンス、卒論、期末テストなどの繁忙期を避け、例えば、5月、10月あたりですと、出席率が上がるのではないかと思います。
- ・ワークショップと組み合わせての講義が良かった。ワークショップと講義の組み合わせでは、講演会の時間が短かった
- ・学生を参加させていくという点、理事会等の意思決定への参画はともかく、ピアサポートについては大妻コタカ先生時代の伝統であり、それを復活させるのはそれほど困難なことではないと感じた。一方、準備段階から「助成金の対象となっているので出席してほしい」とアナウンスされるが、この大学の顧客は誰なのかを猛省してほしい。学生であり、学生を引き受けてくれる社会である。どのように学生の生涯賃金をあげるのかを考え、指導するのが教員の仕事であり、そのために今回の講演会はとても有意義であった。助成金のため、とアナウンスするのはやめるべきだし、講師や顧客である学生に失礼である。
- ・学生「参加」と「参画」の違いをはじめ、学生の主体性と本当に向きあう時代が到来したことがよくわかりました。
- ・講師の先生が仰っていたように、日本では馴染みがない欧米的制度であると感じた。だが個人的には大学運営への学生参画は賛成である。学生と大学側の意識のずれ・乖離を感じる経験もあるし、またそうした乖離は広く大学の評価や評判にも繋がるであろう。ただ学生参画の度合いにはその大学の学生のレベル（偏差値）が大きく関わると感じた。正直に言えば自身の学科の学生がどこまで参画出来るのか、疑問に思う。
- ・ワークショップ型のFDは画期的でした。教職員そして学生とで、それぞれの知恵をもちよって、大学という学びの場をともに作り上げていくという素地は、本学部では過去10年の間に本学では少しずつ形になってきているように感じています。所属の専攻では、大学院の学生までを視野に入れつつ、かねてより学年を超えての繋がりを作るところに力点を置いて学びの場をデザインしているので、今回の講演会で学んだことを採り入れつつ（カリキュラム改善における意思決定への学生の参画等）、教員も学生もともに満足のいく良質の実践教育を心掛けていきたいです。
- ・私は、授業で履修者相談を担う既履修者（TA、SAという名を制度上使えないため別の呼称を利用しています）を雇用しています。が、講演者のご指摘されたとおり、担当する学生の質管理（既修者・成績優秀者なので情報量は問題ないのですが、下級生に自ら気軽に声をかける勇気とコミュニケーション能力をつけてもらうように助言すること）、履修者の疑問に答えられるようにある程度のマニュアルを渡しておく、といった運営管理にとってもリソースをとられます。それでも履修者がたくさん活用してくれれば報われますが、学期によって活用が振るわなかったりすると、履修者側のコミュニケーション能力も成否に影響するかなと思っています。このあたりは、講演者のご指摘された通り、個別教員でなく組織で運営した方がいいと思うところではありますが、社会人経験・サービス業従事経験のない他の教員と一緒に「組織」としてあたることによって裏目に出ることもあるかなとちらっと心配しました。
- ・グループワークでの話し合いで、現実的なピアサポートの方法を検討できたことは大きな成果だったと思います。すぐにも学内に専門部署を立ち上げていただきたいです。そして、ピアサポーター学生への謝礼または時給の支払いの制度を整えていただき、学生募集や研修を行なって、新入生へのピアサポートを実現させたいと思います。
- ・講義時間は約30分と短かったのですが、具体的な例を挙げながらお話いただいたので、とてもわかりやすかったです。今後、本学でどのような取り組みを行っていくとよいかが、イメージできました。
- ・ピアサポーターという仕事の存在は知らなかった。何らかの形で導入をした方がよいと感じた。

- ・ワークショップによる、大妻の現状との架橋が有意義でした。
- ・同じ組織内の教員とFD関連の1つのテーマについて、ディスカッションする機会がこれまであまりない。今回の講演会では講演を聞くのみでなく、ワークショップの時間が設けられており、同じグループの教員から活発な発言があり、意見交換することができ貴重な時間となった。
- ・一方的な授業展開をどうにか解消し、学生が理解しやすい、自主的に参加する授業展開にすべく悩んでおりましたので、とても参考になりました。今回、仕事の関係で出席が遅くなり申し訳ございませんでした。最後のグループワークは内容が濃いもので私にとって他の教員の方々と話し合えたことは有意義でした。最初の田中先生の講演に参加できなかったことはとても残念でした。良い企画をしてくださりありがとうございました。
- ・ピアサポーターやTA・SAの成長を重視した業務内容の設定の重要性、証明書や謝礼を活用することについて示唆を得ることができた。本学の学友会・各委員会の運営においても彼女たちの自主性や創造性を活かしたサポートの重要性について考えさせられた。
- ・「学生参加」の潮流について勉強になりました。やはり対面だと集中して聴けます。グループワーク・発表があったのも学生の気分を味わえました。開催時期は共通テスト説明会等とも同じ週の学期末で忙しく（前期も学期末でした）、時間的に厳しいです。講演会の時間も長くて負担ですが、今回のような活動を組み込むには短いとも思いました。
- ・今回は、大学や学部の運営に学生にかかわってもらうという話であった。比較文化学部では、今後、カリキュラム改定を行う予定であり、いかに学生に参加してもらうか、その方向性を考える良いきっかけとなった。実際に、FD委員会を通じて、授業・カリキュラムに関する学生アンケートをとってもらい、さまざまな意見（不満を含む）を書いてもらった。アンケートへの参加率は予想以上に高く、学生にとっても自分たちが学ぶ授業・カリキュラムへの関心は高いのだと感じた。ぜひとも、来年度以降の教務委員会では、積極的に学生参加を促したいと考えた。実際に、学生に入ってもらい委員会として、カリキュラム改定や将来構想委員会は適切だと感じる。一方で、学生への協力証明書は重要であるとかねてから考えており、今年度広報委員会では、新規HP更新の学生モデルとなってくれた学生に対し記名した感謝状をデジタルで配布した。これは就職活動などでも使えると好評だったことを考えると、感謝状や証明書は今後、デフォルトとして協力学生に授与すべきだと感じた。次に謝金の問題について考えたい。現在のところ、オープンキャンパスについては謝礼としてクオカードが配られているが、学部のための学生の働きに関してはボランティアにすぎず、教員が自腹で何かしらのお礼をしている状況である。地域貢献プロジェクトなどでは、千代田区の最低賃金の時給が認められていることを考えると、学部予算における当該委員会予算からの支出許可か、もしくは独立費目で学生生活活動予算を組む必要があると考えた。これについては、大学当局・財務を含め、今後の対応を考えてほしいと感じた。
- ・学生の参加、特に指名するか、自主的な立候補のほうが良いのか悩むことが多かったため、講演の内容がとても参考になりました。
- ・参画する学生の選出が難しいだろうと思いました。公式の証明書を発行し、広く周知され、就職に有利になることが必要であると思います。
- ・授業参画の意味が分かりました。SAなども入ることがわかり、ワークショップの中で自分達の学科に当てはめて検証することが出来た。その結果、今すぐにでも取り組むことが出来そうであることが判明した。問題はコストであるが、謝礼は当然発生するであろうから学生への支払いを認めていただきたく思います。また認定などもモチベーションアップのためには重要なので、制度化して欲しいです。専任の担当を置いておくことが、長期的にはコストダウンという説には納得いきました。是非検討してもらいたいところです。
- ・学生参画についての新しい情報を得ることが出来ました。本学科にとってどのような参画が可能で有意義かについて集中して考える機会となり、良い企画だったと思います。終了時刻が18時だと、対面参加しにくいのではないかと感じました。前倒しにできないか、ご検討いただければ幸いです。今回、ほぼ予定通りの時刻で「終了」としてくださったのは、大変ありがたかったです。
- ・参画と参加、ピアサポートなど。
- ・授業改善およびカリキュラム改善における学生参画の意義やその具現化についてたいへん示唆に富む講演でした。とくに、学生が教育プログラムの改善に関わる意思決定に「参画」する以上、対価を与え、公的証明書の発行する必要があるという点や、人事管理のために専門部署が必要という点はとても納得しました。ピアサポーターのトレーニングや人事管理を教職員が兼担するのは無理があり、専門の部署が必要だという点も非常に説得力がありました。
- ・参加学生にどのようなインセンティブを与えることができるか、検討しなければならないと感じました。グループワークスタイルの講習会は良いとおもいました。
- ・他大学の事例紹介がとくに印象に残っています。
- ・学生の大学運営への参画という新たな視点を得ました。普段、学生を見ているとコロナ以降とくに授業以外の活動への参加者は益々減少しているように感じるとともに、先輩後輩のつながりが希薄化している実情もあり残念に思っている。その一方で、学科内ではアクティブラーニング形式の授業や機会が多く「お

世話係」として上級生・院生に依頼することも実際にはやっけてきている。また、帰属意識という言葉がグループワーク発表時にあったが、オープンキャンパスに参加する学生は一所懸命に自己の学びを誇りををもって説明する姿がある。これらのことから、ピアサポーターなど大学としての共通理解を可能にする立場を明確にしていく作業から学生参画に取り組むことは可能なのではないかと考えました。

- ・学生参画に関してはイメージにとどまる程度だったが、国内外の具体例を挙げて明快に説明いただきました。身近な例を挙げていただいたことで学生参画が自分の中で現実的なものへ変わったと思います。日本はこのテーマに関しては遅れているとのことで、今回の例のようなレベルではないにしろ、身近にできる学生参画を考えてみたいと思います。
- ・学生の参画について、あまり考えていなかったのですが、彼らが持っている力を借りることで大学全体が良くなるように思いました。実際、オープンキャンパスなどで在学生の印象から本学を選んでくれる高校生も多く、ピアサポートなどを活用することで学生自身も学びになりますし、教員の負担も軽減するのではないかと感じました。また、カリキュラムについても、確かに教員だけの思いだけでなく、学生自身の何をどのように学びたいのかというところがわかることでよりよいものができるように思いました。講師の方が述べていたように学生の参画を活性化させる専門の組織を作っていただけることを願います。
- ・これからの大学が考えていかなければならないことを提示してくれていて、時代が動いているのを感じた。そして自分を学生の立場に置き換えると、なるほどと思わされることであった。田中先生がおっしゃっていた、これらの必然性に対して「職員の負担はなし」と繰り返していたところが印象的であった。確かに、将来世界に羽ばたくであろう学生の未来と世界の中の日本を考えると必然であり、我々もそうあるべきだと考えるが、それを現状に組み込んでいくことは1日が48時間あり、分身の術を使えないと難しいだろうと強く感じた。純粋に学生のためにもっと時間を費やして授業を考え、実施できたら、教員も双方幸せになるだろうと、それに専念できていた大学で教え始めの頃を思い出した。
- ・自分たちの専攻ですで行っていることを外部講師の方に言語化していただいたので、自信になりました。
- ・学生の4つの立場の図がとてもわかりやすかった。また学友会が大妻女子大学にはあるが、あまり機能していない大学もあるということを知ることができ、学長や学部の中での学生との懇談会はとても有益であると感じた。懇談会で出された意見を改善した結果、他の学生にも好評であることが多いので、やはり学生が参画できることが重要であると感じた。ピアサポートは私の学科ではオリエンテーションでも現在行われているが、実践できていることがわかってよかった。
- ・勤務校において、数年前に教員FD委員会より、何の前ぶりの説明もなく、突如「(各グループ内で)学生FD委員会を設置してください」との連絡がきたことがあり、グループ担任として、担任するグループの学生に対し説明に窮したことを思い出した次第。お陰様で、このような流れであったことがわかりました。ありがとうございました。
ただ、その委員になった学生達が、さらに、自分が所属するグループの委員以外の学生に、「学生の意見を聞いてくるように…」とお達しを受けて、学生の意見収集をしていましたが、委員の学生も、さらに、その他の学生も、何が何やらという雰囲気でした。勿論、委員学生への謝金などもなく！学生に向けて、学校に対する意識向上(変革)の必要性を感じました。ありがとうございました。
それにしても、北欧の(学生さんの)意識が高いのは、何が背景にあるのでしょうか。その風土を知りたいものです。
- ・学生が主体的に参画することで、大学にとっても学生にとっても有益な効果があるのなら、ぜひ、そういう機会を学生に与えたいと思った。
- ・近いうちに学生参画が当たり前になるというお話が印象に強く残った。
- ・学生による非常勤講師の「特殊講義」の要請 学生グループの自主的研究計画の単位化時間割案の事前提示と意見聴取 教員の授業内容の重複部分の聴取
- ・実施時間について、授業実施期間の平日に行うものとしてはちょうどよいものに思われましたが、実際にはグループで話しをまとめるのには時間が短かったかもしれません。
- ・社会情報学部では、学生と教員との意見交換会を実施しているが、教員が指名した学生からの意見を得るものである。学生自身が自発的に評価の場に参画することには少しハードルがあるように思う。また、学生の個人的な個々の意見をそのまま受け入れるのではなく、精査して変革に反映させていく仕組みづくりが重要だと思われる。また、ピアサポーターは有効だと思われるため、積極的に導入すると良いのではないだろうか。
- ・具体的な提案が盛り込まれており、参考になった。
- ・「学生参画」による授業改善により、学生の主体的な学びがより深まると感じられました。大いに意識していきたいと思います。
- ・学生参画が、近いうちに義務化されることが分かりました。また、学生参画をすでに実施している大学があることも分かりました。ピアサポートは、退学者の減少に繋がる点は良いのですが、ピアサポーターの上級生と下級生の間で上下関係のハラスメントのようなトラブルが起きないように配慮する必要もあるのかもしれないと思いました。

- ・大妻女子大学でのピアサポートの実態は詳しく知りませんが、授業で学生をみる限り、しっかりサポートができる学生がかなりいるのではないかと感じています。全学的にもっと積極的に、多くの科目やさまざまな局面でピアサポートを導入することが可能ではないかと思っています。
- ・学生の大学運営への参画は、今後、必須になってくるであろうとは感じていましたが、必要性をより実感できました。図書館司書課程担当者としては、大学図書館の運営にも、学生の参画を望みます。
- ・非常に難しいテーマであると思います。学生にとって、やはり参加する意義（就職に有利など）や魅力を明確に提示できるしくみが必要だと考えます。このような大学運営ができれば、主体性のある学生を今まで以上に多く輩出できるのではないのでしょうか。
- ・学生参加のレベルがいろいろなことと、相当にハードルが高いことが分かった。また、ピア・サポートの活用など、身近なところでできそうだと感じた。
- ・退学者1名＝300万円の損失というのはその通りだと思いましたし、教職員の意識の変化が必要であるといった話は重要だと思いました。少なくとも、4年間は所属してもらうことが重要でそのためには居心地の良い大学になればと思います。
- ・学生にとって1年時の大切さがわかった。また、上級生からの話を聞く機会を設けることが必要だと思った。
- ・大学運営にも「学生参画」が進んでいることの認識を新たにしました。大学自体も変わっていく。こういう中で、非常勤講師であっても、しっかり新しい情報を捉え、自身の授業にも生かす必要性をさらに迫られていると感じた。授業は講義とグループワークで授業を組み立てているが、もっと工夫が必要だと感じた。学生にも考える授業を実施していきたいと思うが、講師もさらに考えていかねばならない。自身を見直すよいきっかけとなった。
- ・学生が主体的に大学の運営にかかわる方法について、具体的にお話を聞くことができて良かったです。
- ・学生が参画することが魅力的な大学づくりになるという点、また一つ一つのお話がとても具体的であったという点、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・学生参画について考えたことがなかったのですが、今後、そのようなことが起きてくるということがわかり大変興味深く聞きました。とても具体的でわかりやすいお話しで、ワークショップも面白そうでした。
- ・学生の主体的な大学運営、教育改善への参画は常々必要と思っておりましたので本講義を拝聴して私自身の考えに自信を持つことができました。
- ・我が国では国が大学の自治を取り上げてきた経緯がある。それでなくても義務教育課程から管理教育が徹底して、生徒、学生の主体性を削いできた歴史がある。子どもの権利（人権）の子どもの意見表明（12条）、表現の自由（13条）において日本は先進国の中でその権利が十分に認められていない。大学に都合のよいところだけ学生の意見を聞くという姿勢ではなく、根本の人権面から時に大学に都合の悪いことも学生の意見を聞いて考える仕組みを考えないと、本質的なところには迫れないであろう。
- ・学部改革やカリキュラム改革などに学生の声を反映させるために、学生に企画そのものに参画してもらうことは理想的には有意義だと思う。しかし、ともすればキャッチーなことや易しいことに流れてしまう危険性があり、本質的なことや必要であれば高度なことに取り組むことが後回しになってしまう危険性はないのかが気になった。
- ・学生参画の必要性を丁寧にご説明いただきました。また歴史的な背景について、学生運動のことをあまり中身を聞くことがなかったので、勉強になりました。
- ・大学の意思決定に学生を参画させることは、若い世代の視点や発想を大学改革に活かす点で賛成です。ただし、学生の主体性をどう確保するか、何を基準にどのような方法で何名の学生を選出するのか、意思決定における学生と教職員との位置関係など、検討すべき課題はあります。学生選出の際、特に重視すべきは、「愛校心があり、他の在校生の声を的確に吸い上げながら、参画者として大学改革に有益な意見を発信できる者」ではないのでしょうか。言い換えれば、教職員と対等なパートナー的存在です。また委員会等への出席が当該学生の負担になってはいけません。筑波大学の事例やワークショップでのご発言にもありましたように、可能性としては「将来展開委員会」「カリキュラム委員会」「自己点検評価委員会」などが妥当かと思われます。まずは一部の学部から試行的に開始し、段階的に全学部において展開されることを期待します。
- ・視聴の最初の段階では、このようなことが果たして出来るのか疑問であった。しかし田中先生のご説明を伺っているうちに、これなら出来るかもしれないと徐々に思い始めた。そして実際に参加されたグループのご意見を聞き、学部毎の違いを活かした手法や「参画」にも様々な方法があることを知った。他大学でのTAなどの取り組み効果は既に理解していたが、カリキュラム参画についても、多角的に考えることで何かやれることがあるのではと考えている。
- ・当日参加しなかったが、最初の講演の内容も興味深く、さらにワークショップという形を取っていて、本学の先生方のご意見が聞けて有意義だったと思う。
- ・学生の参画についてほとんど知らないことだったため、大変勉強になりました。
- ・学生の所属意識を高める利点に関するお話が、印象に残りました。
- ・弊学へのアドバイスをくださった点が、たいへんありがたく存じました。

- ・ 本学の学生参画についての長所短所を挙げている点、フロアからの意見についても対応されている点が学生参画について改めて考えるきっかけとなった。
- ・ FD 委員会と学友会の懇談会など、学生の engagement が強みとして活用されている先進性を多摩キャンパスでは確認することができた。さらに、多摩キャンパスを盛り上げる、活性化させる非常に有意義な議論の場となった。
- ・ 講師による講演と本学の実態に関する千代田と多摩からの簡潔な報告を基に講師と意見交換できた点は生産的で興味深い。
- ・ 学生参画＝学生が主体的に大学教育に関与するというのは、主体的に行うのは学生も一部だと思われるし、それをサポートする教職員の制度化も難しいと思われる。TA は、TA を行う学生が授業の運営やその授業への理解を深め、さらに学生同士だからそれを共有できる可能性が高いので、学生が行える体制を整えるのはできるのであればよいと考える。
- ・ 大学運営等の意思決定に学生が参画することによって、大学への愛着や帰属意識が高まり、成績の向上や退学率の抑制につながるというお話が印象に残りました。一方、トラブルについても若干言及されましたが、ダメージも大きいと思われるため、段階的な導入が重要であることがわかりました。
- ・ 学生参画で得られる効果（特にプラス面）がとても参考になりました。
- ・ 学生参画の現状と目指すべき方向性が理解できてよかった。
- ・ 学生参画について概要を理解することができた。具体的な事例の紹介により理解が深まった。
- ・ 上級生からのサポートなどは授業の中では難しいところもあるが、学科等の中では取り入れている。本講演を聞き、縦の繋がりの重要性を改めて感じたが、さらに大学への所属意識などに繋がることについて気づかされた。サポートする側、サポートされる側それぞれの良さを最大限に活かされるようにしていくことが大切だと感じた。ありがとうございました。
- ・ 授業改善アンケートはマンネリ化して学生の負担も大きく、その効果が気になっていたが、今回の講演でもっと踏み込んだ学生の参画が期待されていることがわかりました。授業とぶつかったため録画を視聴したが、ワークショップなどもあり、参加できず残念でした。
- ・ 大学への帰属意識が成績の向上につながるというのは、言われてみれば確かに納得するところがあった。私は今年で三年目になるが、たとえば学友会でやっていることについて、いまだに良く知らない部分がある。学生に対して話をする時に、私自身の「参画」の度合いが学生に影響するところもあるのかもしれないと思うと、おろそかにはできないと考えた。また、授業をする上でも、「大妻の英語英文学科への帰属意識を持ってもらう」ということをもう少し強く意識することを目標にする必要があると考えた。
- ・ 教員が気づいていない「授業の良さ（悪さ）」に学生が気づいている。だとしたら、その点で、学生の力を借りることは有効である。上のような考え方が参考になった。一方で、80 人規模の講義では、どうしても、教員主導になってしまうのが難しい点である。
- ・ 実現が難しい講演が多いなかで、今回の講演では具体的にどのように学生参画を図るのか、大妻の現状を把握したうえで説明してくださったのが印象に残りました。来年度からすぐにでも動けそうな案も多くてよかったです。
- ・ 本学の改革のきっかけになればと思います。（上記 6 の質問はポイントを外していると思います）。
- ・ 本務校においてもピアサポーターというものがあるようだが、講師の方が言っていたような人事管理がなされているのか気になりました。非常勤のため、あまり貴学に資するような感想でなくて申し訳ありません。
- ・ お話をうかがうだけでなく自分達も作業に参加することで、非常に学びがありました。学生に意見を聞くという「参加」レベルで思考が止まっていたので、学生に「参画」を促すやり方の参考にもなりました。最初からうまくいくとは思わないので、徐々に学生と共に学んでいきたいと思っています。またグループワークの際に合理的配慮の件で、福祉学科や心理学科の学生さんに呼びかけ、一人の学生にボランティアが集中しないよう配慮しつつ行う、という提案があり、非常に大きな学びとなりました。
- ・ 字幕の誤字が多すぎる。当日リアルタイムならば仕方ないと思いますが、後日配信分は修正してほしいと思います。
- ・ 学生参画について大変参考になる講義ありがとうございました。日本ではまだ実践できている大学は少ないですが、このように学生自らが大学の教育に積極的に参画することで、大学の質も向上するように思いました。大学によっては、学生の質や能力に応じて、一律の方法では難しいかもしれませんが、これからは、このようなことを実践していく大学が、学生から選ばれていくように思います。本日は、誠にありがとうございました。
- ・ 学生参画について大変勉強になりました。特に学生が教育サポートとして参画することは当該学生にとっても、サポートされる下級生にとってもメリットが多いと感じました。既に TA・SA として授業のサポートに入ってもらっているものの、ピアサポーターが知っておくべき知識（研修）などについては教員側でしっかり検討できていなかったため、大変参考となりました。
- ・ 学生参画に関するイギリスの事例や、ピアサポーター制度の意義・今後の可能性など、大変参考となるような知見が得られました。

- ・学生参画 (engagement) という意味を正しく認識し、今後の大学における学生の参画について考えるよい機会となりました。customer 的なイメージの学生が多いのは、日本の教育がそうした可能性が考えられます。また、日本人の特性もあるとは思いますが、学生の学び方を変革する必要があると強く感じました。
- ・他学科の教員と情報共有ができてよかった。学生参画について新たな知見が得られた。
- ・学生参画の教育改善について、意義・効果を再認識できて良かった。学科内で、カリキュラム再編成の検討を始めるところだったので、とてもタイムリーなテーマでした。有り難うございました。もっとたくさんの参加者を考えていたが、参加者が少なく、とても残念でした。このようなテーマは、対面での視聴に意味があると考えます。
- ・学生参画の大切さについて、よく理解できました。有意義な講演に感謝いたします。
- ・授業のなかでの学生参画をイメージしていて、その点は期待はずれだったかもしれない。しかし、大学運営やカリキュラムなど、多方面における学生参画を促すことの重要性を改めて考えさせられたよい機会となった。ワークショップも行われたので、他のグループの話をもっと聞けたらと思った。その点、時間が少し短く感じられた。
- ・これまでに、カリキュラム改善のために学生にヒアリングを行ってきたが、制度的に実施することは考えたことがなかったため、非常に参考になった。
- ・学生の授業参画は日頃から考えていることがらであり、参考になりました。ありがとうございました。
- ・学生の会議参加という観点は大変興味深かったです。とりわけ「改革者としての学生」という見方は、今後の大学運営においても重要なテーマだと感じました。
- ・参考になることが多く、有意義であった。
- ・非常勤講師であり、自分の授業との直接的な関連は薄いものの、大学運営全体における学生参画の重要性と今後の方向性について知ることができた。
- ・学生参加を実現するには、問題意識を正確にしっかりと持った質の高い学生の存在が不可欠です。こういう思考を確立させる教育がまず必要であると思われます。
- ・下記の点について本学でも実施できると良いと感じた。
 - ・参画した学生に公的な証明書を発行する
 - ・つくば大学で実施されている学生への謝金
 学生が参画することで大学への愛着が深まるということになるほどと思った。
- ・今回の講演をありがとうございます。話に出てくる学生の（大学の意思決定への参画、教育サポートへの参画）に関して、既に大妻でも取り組んでいる内容が伸ばせるのであれば、早急に大学としても検討を勧め、ぜひ、より良い形（大学にも学生にも価値があるという意味）で実現させてほしいと思いました。
- ・海外では、学生が大学の運営に積極的に参画していることを初めて知った。日本では、学生のことを、過小評価しているのではないかと感じた。ただし、学生の参画を積極的に導入するには、大学・教職員の多大な労力と配慮が前提となる。そのような労力と配慮は、はたして報われるのであろうか。学生の大学への帰属意識が高まるにしても、教員の奉職意識が高まるのであろうか。教員が疲弊しないことを願うばかりである。
- ・学生参画に関するトレンドが把握でき、参考になった。形骸化しないよう、主体的かつ責任を伴う参画のあり方について、具体例をもっと聞きたいと思った。
- ・いずれの大学でも専任に就いていないため完全な非常勤（教養系）としての回答となります。「学生参画」の意味と重要性を認識することができました。このテーマでのFD講演は個人的には初めてでした。ふだん講義型の授業をしていることが多く、意識しないと「参加」さえも薄めの授業内容になってしまうことを常々課題として捉えていました。「参画」までは難しくても、せめてもう少し「参加」の濃度を上げられるよう配慮していきたいと思います。また、TA・SAの役割を明確にしてピアサポートとしても位置づけるという動き、また研修会の実施やマニュアルの発行は、院生時代（20年近く前）に右も左も分からない中でTAをしていた経験のある者としては大変心強いことであると思いながら拝聴しました。当時は指導教員たちもTAは飾りのようなものだとしか捉えておらず、一方で自分ではもうちょっと位置づけをはっきりさせて欲しいというもやもやを抱えていた記憶があります。ですのでこうした動きは、指導を受ける学生にとって良い刺激になるであろうということはもちろん、TA・SAを担当する学生の自覚や意識にも確実に変化をもたらすことと思いますし、仮に研究を続けるような方向へ進むとしても、自信をもって取り組んでいくための素地が作られるきっかけになるであろうと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・授業については、学部生、院生のアシスタントとしての補助は大妻では広く体制が取られています。但し、peer teaching としての学習補助、相談という体制を今後は拡充されることを望みます。
- ・学生の参画を促すには、まず参画可能な学生がキャンパス内に多数存在していることが条件になりましょう。国の少子化と国民の小児化の負のスパイラル時代、周り回って80年代以降のこの国の教育政策（初等教育から中等教育までも含む）自体が、さまざまな問題の根幹にあるのだなあ、という感想を抱きました。

- ・内部質保証の観点で、学部レベル、大学レベルでいろいろとお話を伺う機会をいただけると嬉しいです。
- ・大妻女子大の学友会のメンバーは、中高が女子校で、生徒会活動などに尽力していた学生が多いような印象があります。女子中高の生徒会活動での経験が、大妻女子大の学友会が機能していることの一因であるよう思われます。
- ・事例がすべて国立大学でしたが、私学の事例も調べて欲しかったです。
- ・学生が1年生で退学すると大学は300万円の損失になる。
- ・非常勤講師という立場では、なかなか大学教育の実態やしくみを知り得る機会がありませんので、自分の授業以外の情報や工夫を知ること全般的に興味をもっております。この度は、このような情報交換のよい機会をいただきまして、誠にありがとうございました。また次回を楽しみにしております。

以 上

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成15年3月7日

制定

(設置)

第1条 大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下「FD」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長 1名
 - (2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科FD委員長
 - (3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長
 - (4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各1名
- 2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

(任期)

第3条 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) FDの企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
- (3) FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
- (4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるFD活動に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認める事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 事務局長、教育支援センター部長および多摩事務部長
- (2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。
ただし、第7条第1項第1号の規定は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年5月7日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

		令和6年度
(1)	副学長(委員長)	山 倉 健 嗣
2	副学長	小 川 浩
	副学長	田 中 直 子
(2)	人間文化研究科長	青 江 誠 一 郎
(3)	家政学部長	中 島 永 晶
	文学部長	増 野 弘 幸
	社会情報学部長	山 崎 志 郎
	人間関係学部長	齊 藤 豊
	比較文化学部長	貫 井 一 美
	短期大学部長	谷 口 新
(2)	人間文化研究科	古 田 雅 明
(4)	家政学部	須 藤 良 子
	文学部	君 嶋 亜 紀
	社会情報学部	若 林 佳 史
	人間関係学部	三 好 真
	比較文化学部	城 殿 智 行
	短期大学部	中 尾 桂 子

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

(1)	事務局長	杉 田 学
	教育支援センター部長	安 倍 達 哉
	多摩事務部長	岩 下 忠 司